SIGMA

C21JP0291

J 日本語

Digital Single Lens Reflex Camera

使用説明書

本書は **SIGMA SD9** カメラ本体の使用説明書です。
ソフトウエア“ **SIGMA Photo Pro** ”のコンピューターへのインストール方法、ソフトウエアの使用方法、およびカメラとコンピューターの接続方法は、同梱の **SIGMA Photo Pro Disk** 内の **SIGMA Photo Pro** 使用説明書（PDF ファイル）をご覧下さい。

このたびはシグマ製品をお買い上げ頂きありがとうございます

SD9 は RGB 全色を 1 つのピクセルで取り込むことができる画期的な撮像素子、「**FOVEON® X3™** イメージセンサー」を搭載した、高画質デジタル一眼レフカメラです。高性能なイメージセンサーの性能を十分に引き出す、シグマの豊富な交換レンズ群によって、SD9 は様々なシーンを高品位なデジタル画像として定着することができます。

カメラの機能を十分に理解していただき、正しくより良い撮影ができますように、ご使用の前にこの説明書をよくお読みになり、いつまでもご愛用頂きたくお願い申し上げます。

SD9 の主な特長

- ■ 画期的な撮像素子 **FOVEON® X3™** イメージセンサーを採用。
- ■ 撮影画像が劣化しないロスレス圧縮による、RAW データ記録方式を採用。データは専用ソフトウェア「**SIGMA Photo Pro**」で、汎用性の高い TIFF や JPEG 形式に変換することができます。
- ■ 撮影範囲より外側の状況を把握できる「スポーツファインダー」を採用。
- ■ レンズ交換時にボディ内部へのホコリの侵入を防ぐ、ダストプロテクターの採用。
- ■ ミラーアップ機構やプレビューボタンの採用により、高度な撮影テクニックにも応えます。

- ● 使用説明書は、必要なときにいつでも御覧いただける場所に保管して、使用の際に不明な点が生じた場合にご活用下さい。
- ● この製品はご購入より 1 年間の品質保証がなされています。保証の内容、およびアフターサービスについては、別紙の “ 保証規定 ” を御覧下さい。

妨害電波自主規制について

本カメラは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラス B 情報技術装置です。本カメラは、家庭環境で使用することを目的としていますが、本カメラをラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

著作権について

あなたが本カメラで記録した画像は、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。尚、実演や興行、展示会などのなかには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意下さい。

■ CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporation の商標です。
■ IBM PC/AT シリーズ、および Microdrive（マイクロドライブ）は、米国 International Business Machines 社の商標または登録商標です。
■ Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
■ Macintosh、および FireWire は、米国およびその他の国で登録された、米国 Apple Computer, Inc の商標です。
■ Adobe、Photoshop は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
■ その他、本冊子中の社名や商品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。

標準付属品の確認

このカメラには、標準付属品として以下のものが入っています。ご使用になる前に全てそろっているかご確認下さい。万一、足りないものがあるときは、お買い上げの販売店にご連絡下さい。

① SD9 カメラ本体
② ボディキャップ（カメラ本体に付属）
③ アイピースカップ（カメラ本体に付属）
④ 液晶モニタカバー
⑤ ストラップ
⑥ ファインダーキャップ
⑦ AC アダプター（SAC-1）
⑧ AC ケーブル
⑨ IEEE1394 (FireWire™) ケーブル
⑩ USB ケーブル
⑪ ビデオケーブル
⑫ SIGMA Photo Pro Disk
⑬ 使用説明書（本書）
⑭ 保証書
⑮ 保証規定書

● 画像を記録する CF カード、およびカメラ動作用の電池は付属していません。別途お買い求め下さい。

目　次

安全上のご注意

人的損害や物的損害を未然に防止するため、ご使用の前にこの項目の内容を十分ご理解いただくようお願いします。

⚠**警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠**注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

各文章の ⚠ 記号は注意、もしくは警告を促す内容を告げています。

各文章の 🚫 記号は行為を禁止する内容を告げています。

⚠**警告** （電池、電源について）

電池はお子様の手の届かない場所に保管して下さい。万一飲み込んだ場合、液漏れにより健康を害するおそれがあります。ただちに医師にご相談下さい。

使用説明書に指定されていない電池は使用しないで下さい。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

新しい電池と古い電池を混ぜての使用、および他メーカーの電池を混ぜての使用はしないで下さい。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

電池の＋、－の向きを間違えないよう注意して下さい。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

電池の分解、火中、水中への投下、加熱、ショートは絶対しないで下さい。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

充電ができない電池を充電しないで下さい。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

万一、カメラや電池から煙が出る、異常に熱くなる、焦げ臭いなどの現象が起きた場合、ヤケドに注意し速やかに電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡下さい。

電池を処分される場合は、テープなどで接点部を絶縁して下さい。また、お住まいの自治体の規則に従って下さい。

長期間使用しない場合、電池室から電池を取り出して下さい。長期間放置しますと液漏れによるカメラの破損の原因となります。

AC 電源を使用する際は、必ず専用の AC アダプターを使用して下さい。感電、発火の原因となります。

専用の AC アダプターは、他の機器に使用しないで下さい。発熱、発火、感電、けがの原因となります。

A C アダプターを使用中に煙や異臭、異音が発生した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。

水や異物が A C アダプター内に侵入した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります

改造や分解はしないでください。火災や感電の原因になります。

コードの上に重たい物をのせたり、コードを引いたり曲げたり、また熱したりしないでください。コードの損傷、火災や感電の原因になります。

指定(AC100V-240V)された以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。

電源コードは、指定されているものを使用してください。

⚠警告（カメラについて）

プロパンガス、ガソリンなどの引火性のガスが発生する場所では、火災、爆発のおそれがありますので、絶対に使用しないで下さい。

カメラはお子様の手の届かない場所に保管して下さい。誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

カメラは自分で分解、改造しないで下さい。感電、ヤケドのおそれがあります。

落下等で破損した場合、内部に手を触れないで下さい。感電、ヤケドのおそれがあります。電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡下さい。

レンズを着けたカメラで、太陽や強い光源を見ないで下さい。視力障害の原因となります。

レンズ単体で太陽を見ないで下さい。失明の原因となります。

水中に落としたり内部に水が入った場合、電池を抜いてご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡下さい。そのまま放置しますと火災や感電の原因となります。

カメラ本体のコネクター部に、金属片等を差し込まないで下さい。感電、発熱、発火の原因となります。

⚠注意（電源について）

AC アダプターをコンセントから抜く場合、コードを引っ張らないでください。コードを痛め、火災や感電の原因となります。常にプラグを持ってコンセントから引き抜いてください。

AC アダプターを布やクッションなどで覆い被さないでください。発熱し、本体を変形させたりし、火災の原因となります。

使用しない場合は、安全の為コンセントを抜いてください。

ＡＣアダプターを掃除する場合は、安全の為コンセントから抜いて行ってください。

⚠注意（カメラについて）

レンズ、またはレンズを着けたカメラをレンズキャップをはずしたまま放置しないで下さい。日光があたった場合、集光現象を起こし、火災の原因となることがあります。

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないで下さい。転倒したりぶつけたりして、けがの原因となることがあります。

カメラをぬれた手でさわらないで下さい。感電することがあります。

カメラを熱いものの近くや、日中の車内に放置しないで下さい。カメラ自体が高温になり、ヤケドの原因となることがあります。

液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片にご注意下さい。ケガの原因となります。また、破損により液晶モニタ内部の液体が流出し、以下のような状況になった場合、それぞれの対処を行って下さい。

- ■ 液体が衣服や皮膚に付着したときは、ただちに石鹸で洗い流して下さい。
- ■ 液体が目に入ったときは、ただちにきれいな水で 15 分以上洗浄し、医師の診療を受けて下さい。
- ■ 液体を飲み込んだときは、大量の水を飲んで吐き出し、医師の診療を受けて下さい。

取り扱い上のご注意

ご使用の前に

結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には、事前のチェックや試し撮りをして、カメラが正常に作動するか必ず確認してください。撮影に要した諸経費、および撮影により得べかりし利益の損失等については保証致しかねます。

長期間の旅行、野外撮影、寒冷地での撮影、またはたくさんの写真を撮られるようなときなどには、予備の新しい電池を多めに用意することをおすすめします。地域によっては電池の入手が困難な場合があります。

このカメラのホットシューには、フラッシュとカメラの連動用信号ピンが設置されています。他メーカーのフラッシュ、およびシグマ製の他メーカー用フラッシュを装着すると、連動用信号ピンがショートしたり他の信号電流が流れたりして、カメラの電子回路に悪影響を及ぼす可能性がありますので、専用フラッシュ以外の装着はしないで下さい。

ご使用の環境や注意点について

■ カメラは精密機械です。ぶつけたり、落としたりしないで下さい。

■ このカメラは防水構造になっていませんので水中では使用できません。水滴がついた場合は速やかに乾いたきれいな布で拭きとって下さい。万一、水がかかったり、水中に落とした場合には早めに弊社営業所にご連絡下さい。

■ ほこりの多い場所や高温多湿の場所（特に日中の車内等）へ長時間放置しないで下さい。

■ 寒い場所から温かい室内に持ち込む場合、カメラに水滴が生じます。カメラをバックやビニール袋に入れて周囲の温度になじませてからご使用下さい。

■ このカメラの使用可能温度は約 0°C〜＋40°C、使用可能湿度は約 80%以下（結露しないこと）です。0°C以下になると電池の性能低下が影響します。寒い場所では予備の電池を用意し、ポケットに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

■ 静電気や磁気の影響により、まれにカメラが作動しなくなることがあります。このようなときは、一旦電池を取り出して再度装填し直して下さい。また、強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しない場合があります。

保管について

■ 長期間ご使用にならないときは、液漏れによるカメラの破損を防ぐため、電池を取り出して保管して下さい。

■ カビや錆の発生を防ぐため、風通しのよい乾燥した場所に保管して下さい。カメラを乾燥剤といっしょにビニール袋にいれて保管するのも有効な手段です。ただし乾燥剤は有効期限がありますので、ときどき交換して下さい。ナフタリン等の防虫剤はカメラに悪影響を与えますのでいっしょに保管しないで下さい。

液晶モニタについて

■ 液晶モニタはその特性上、一部の画素に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また、記録されるデータには影響ありません。予めご了承下さい。

■ 液晶モニタ表面を強くこすったり、押したりしないで下さい。故障の原因になります。

■ 液晶の特性により、低温下で表示の反応が遅くなることがあります。また、高温下で表示が黒くなることがありますが、常温になれば正常に戻ります。

CF カード、マイクロドライブについて

CF カードはハードディスクなどに比べて振動にも強く、デジタルカメラには最適な記録媒体ですが、強いショックや、静電気、磁気を帯びたものに近づけると CF カードに記憶されたデータが壊れる可能性があります。

マイクロドライブ（IBM 社製）はハードディスクです。ショックや振動、静電気、磁気はデータが壊れるばかりか、マイクロドライブ本体も故障する可能性がありますので、慎重な取り扱いが必要です。特にデータの書き込み、読み出し中は、十分な注意が必要です。

■CF カード、マイクロドライブを直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばに放置しないで下さい。

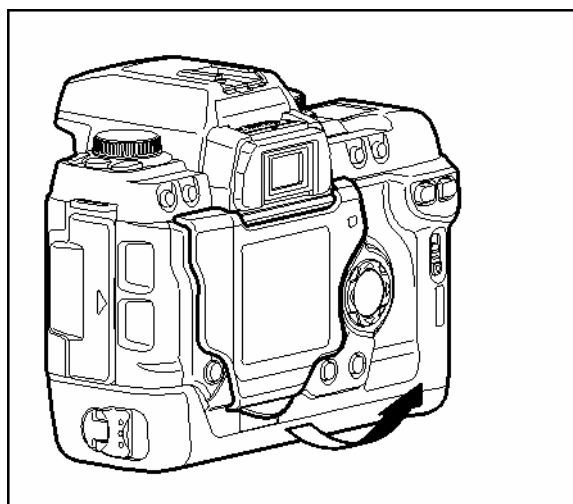
■CF カード、マイクロドライブを温度の高い場所、湿度の高い場所、静電気の起こりやすい場所や電磁波が発生している場所に保管しないで下さい。

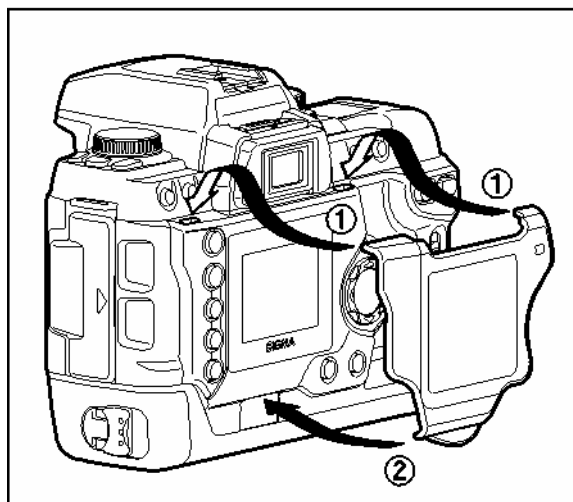
■CF カード、マイクロドライブの詳細な取扱い方法は、それぞれの使用説明書の内容に従って下さい。

液晶モニタカバーについて

SD9 には液晶モニタのキズやよごれを防止するため、液晶モニタカバーを付属しています。画像再生などの操作する際には、液晶モニタカバーを取り外して下さい。

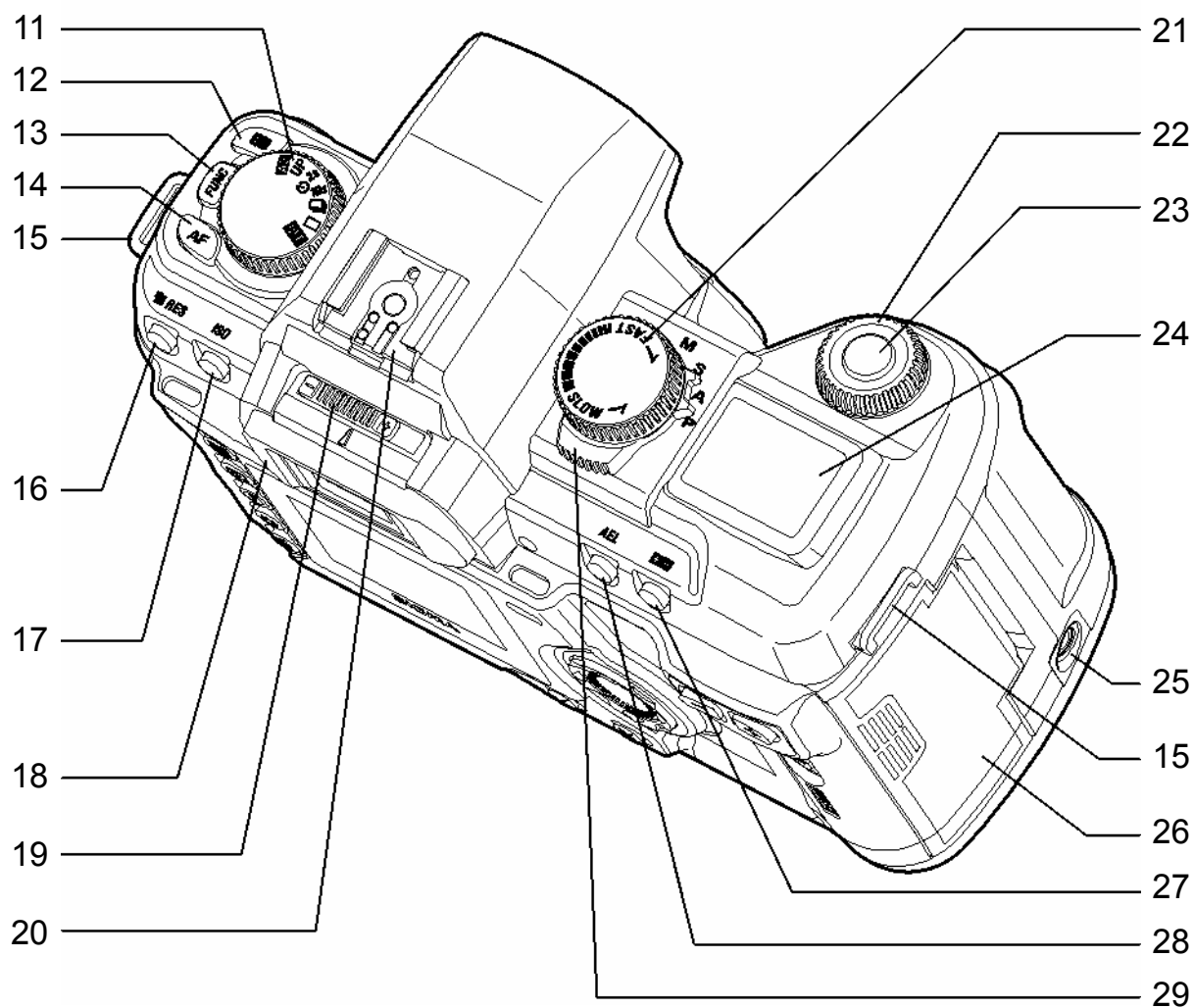
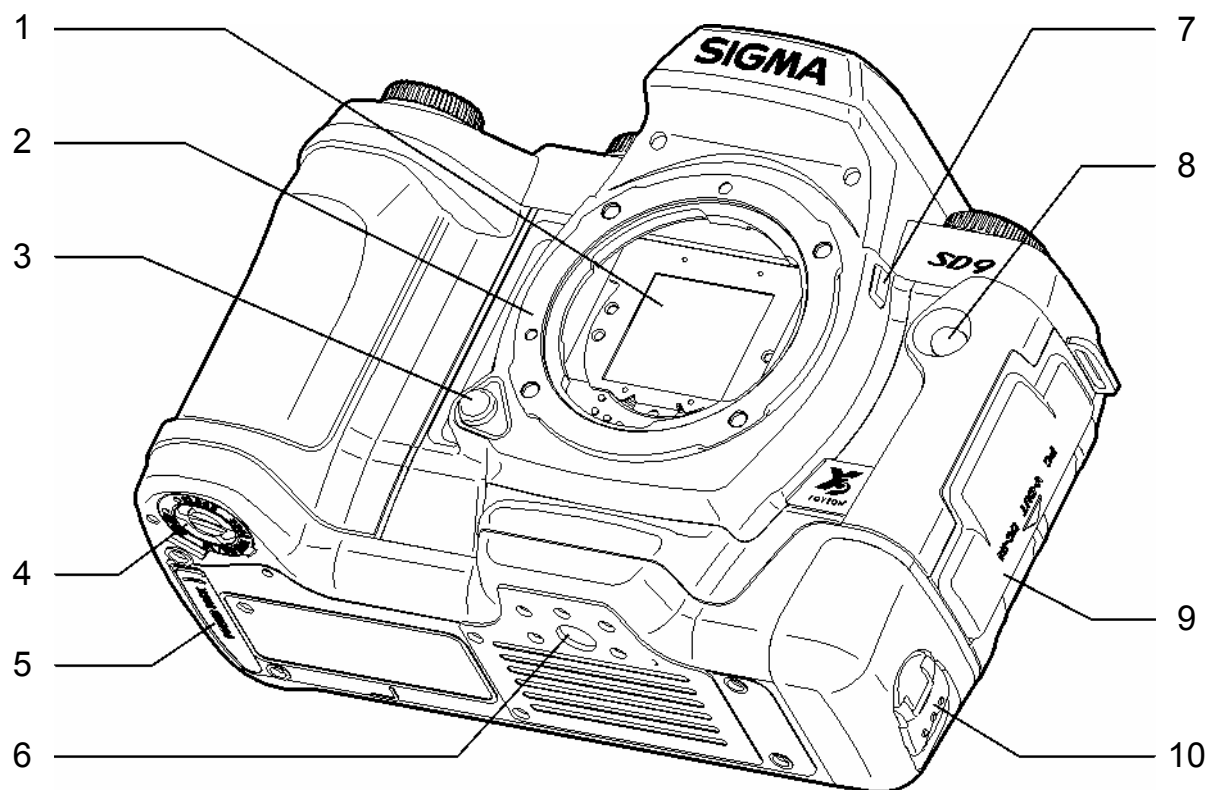
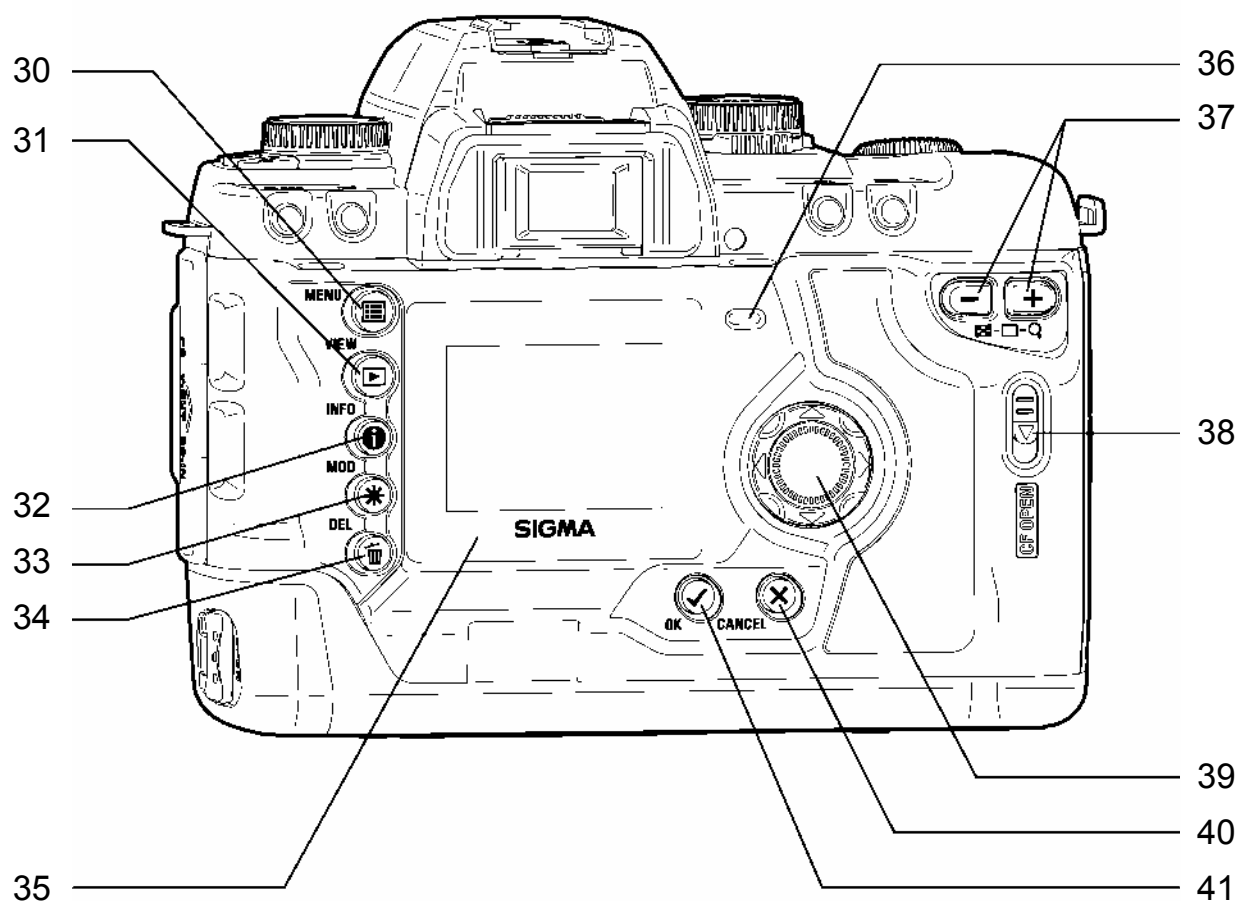
液晶モニタカバーをカメラに取り付けたままでも、以下の操作は可能です。

1．通常の撮影
2．撮影確認画像の消去（**P.66**）

液晶モニタカバーの取り外し方

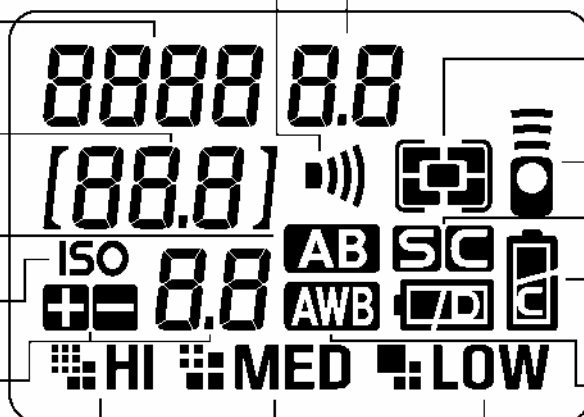
液晶モニタカバー下部の突起を手前に引き上げて外します。

液晶モニタカバーの取り付け方

液晶モニタ上部の 2 個所の穴に液晶モニタカバー上部の突起をはめ込み、液晶モニタカバー下部をカチッと音がするまで押し込みます。

各部の名称

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
15
26
27
28
29

1. ダストプロテクター
2. マウント
3. レンズ着脱ボタン
4. 電池ブタ
5. パワーパック接点カバー
6. 三脚ネジ穴
7. プレビューボタン
8. リモコン受光部
9. コネクターカバー
10. 電池ケースロックつまみ
11. D ダイヤル（ドライブダイヤル）
12. 測光モードボタン
13. ファンクションボタン
14. AF モードボタン
15. ストラップ取付け金具
16. 記録画素数設定ボタン
17. ISO 感度設定ボタン
18. アイピースカップ
19. 視度補正レバー
20. ホットシュー
21. S ダイヤル（シャッターダイヤル）
22. C ダイヤル（コマンドダイヤル）
23. シャッターボタン
24. 表示パネル
25. レリーズソケット
26. CF カードドア
27. 露出補正ボタン
28. AE ロックボタン
29. モードレバー

30. <**MENU**>ボタン (メニューボタン)
31. <**VIEW**>ボタン (ビューボタン)
32. <**INFO**>ボタン (インフォメーションボタン)
33. <**MOD**>ボタン (モディファイボタン)
34. <**DEL**>ボタン (デリートボタン)
35. 液晶モニタ
36. CF カードアクセスランプ
37. ズームコントローラー
38. CF カードドア開放レバー
39. 十字コントローラー
40. <**CANCEL**>ボタン (キャンセルボタン)
41. <**OK**>ボタン (OK ボタン)

表示パネル

ファインダー

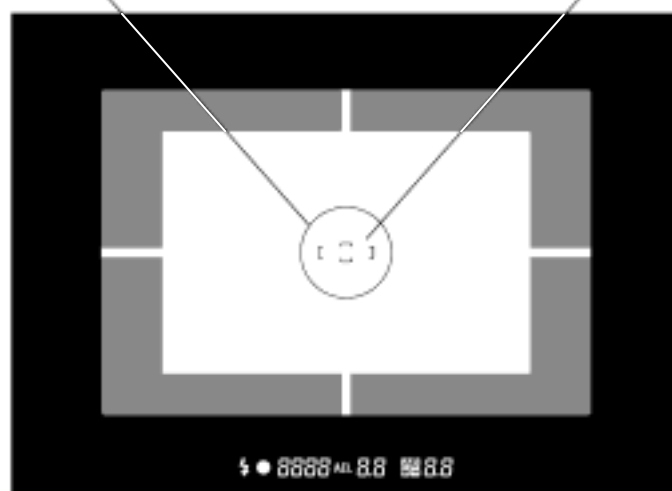
中央部分測光範囲表示

オートフォーカスフレーム

フラッシュ表示

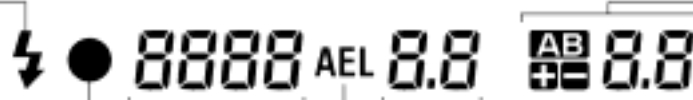
合焦表示

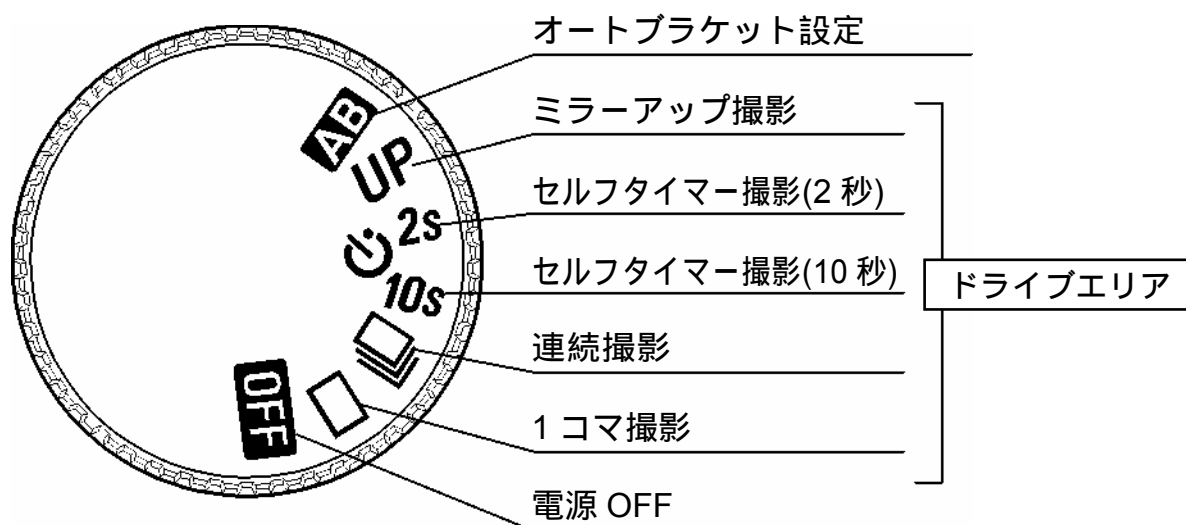
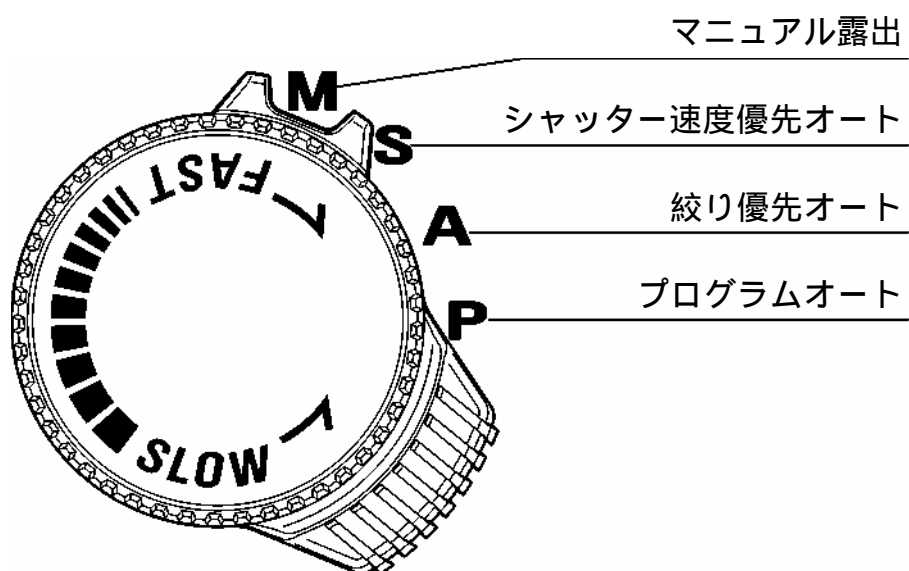
シャッター速度表示

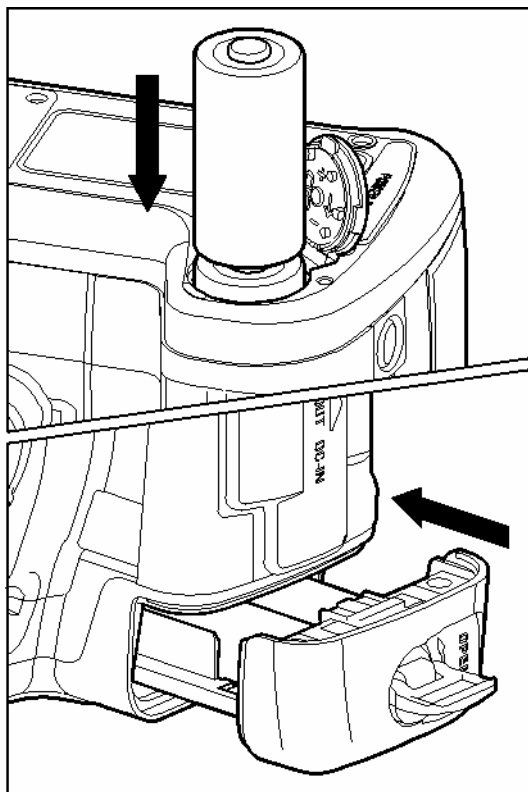
AEL

露出メーター表示

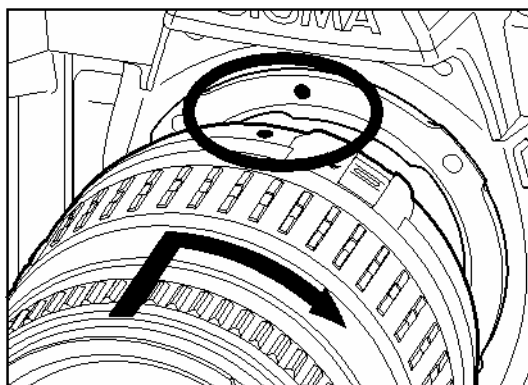
オートブラケット表示

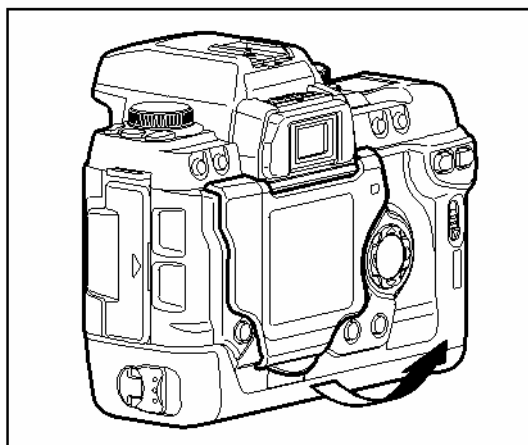
絞り値表示

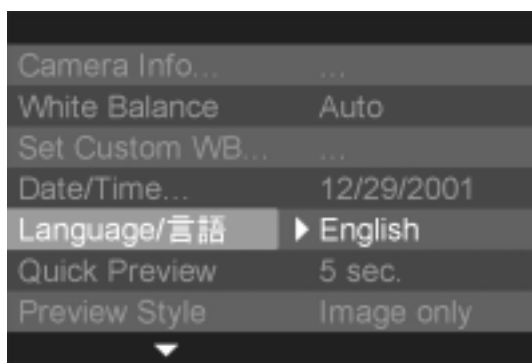
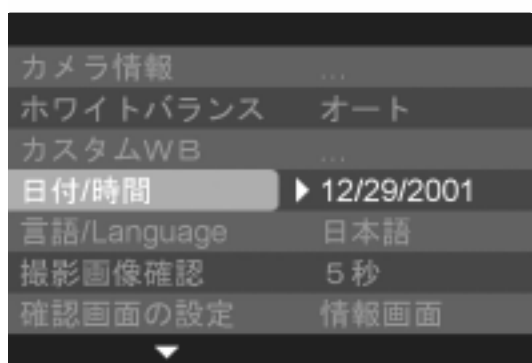
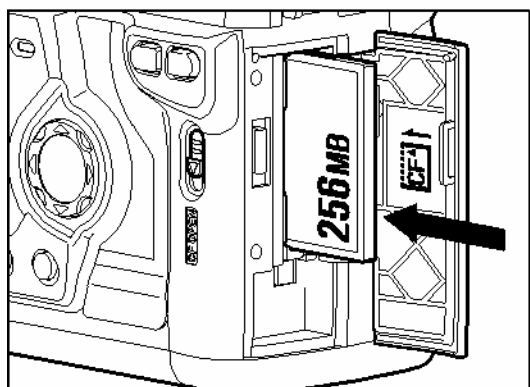
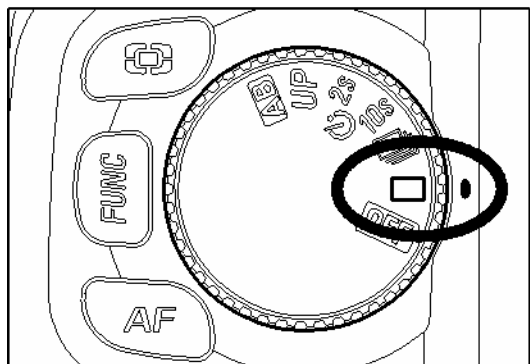
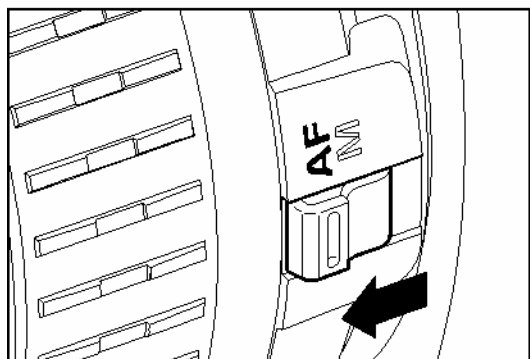
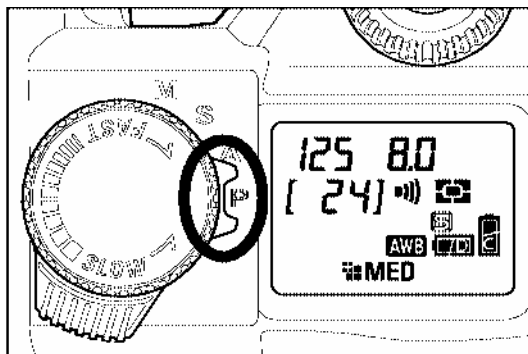
AE ロック表示

ダイヤル

D ダイヤル

S ダイヤル / モードレバー

操作の流れと参照項目

SD9 にはたくさんの機能がありますが、このページでおおよその流れをつかんで、各項目で操作の詳細をマスターして下さい。

電池を入れます（P.19）

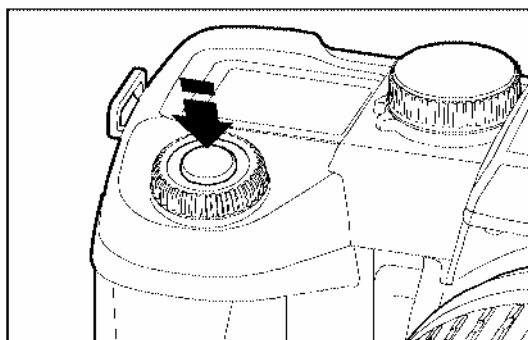
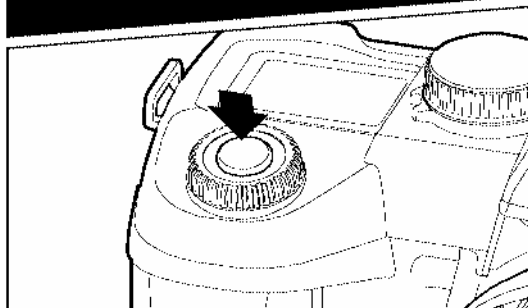
電池の向きを間違えないように、2 種類の電池を両方とも入れて下さい。
AC アダプターと AC ケーブルを使用して、家庭用電源を使用することができます。（**P.22**）

レンズを取り付けます（P.23）

カメラのマウントにある赤い丸とレンズ側の指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを右回りにカチッと音がしてロックされるまで回します。

液晶モニタカバーを外します。（P.10）

液晶モニタカバーを取り付けている場合は、カメラを使う準備のために各設定を行いますので、液晶モニタカバーを外します。

言語を設定します（P.25）
工場出荷時は英語に設定されていますので言語を変更します。

日付と時間を設定します（P.26）
画像データのファイルに撮影日時が正しく記録されるように日付と時間の設定をします。

CF カードを入れます（P.27）
CF カードドアを開き、CF カードのラベル面を手前にして、奥までしっかりと差し込みます。
（＊イジェクトボタンが飛び出します。）
CF カードドアをカチッと音がするまで閉じます。

D ダイヤルを □（1 コマ撮影）に合わせて電源を入れます。（**P.46**）

レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にします。（**P.43**）

露出のモードを選びます**（P.37）**

まずは **P**（プログラムオート）にセットしましょう。

ピントを合わせます**（P.43）**

オートフォーカスフレームに写したいものを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

撮影します

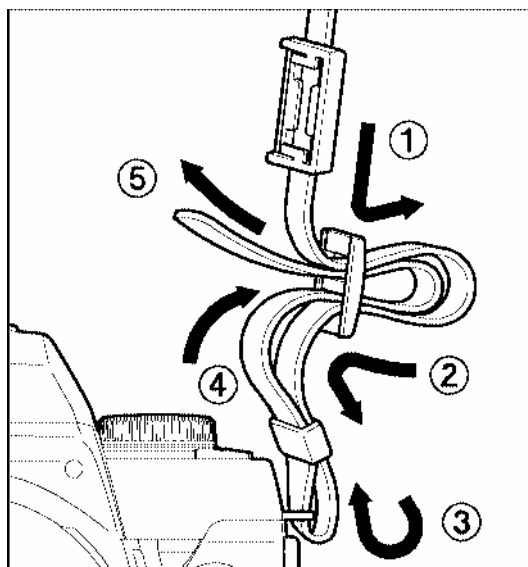
さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

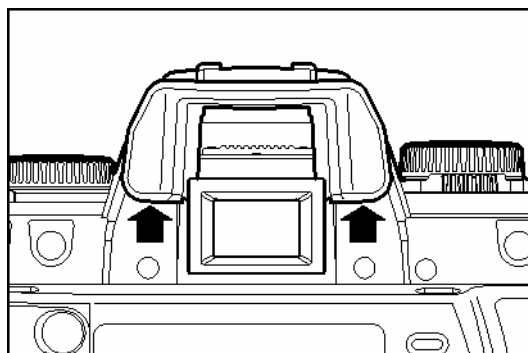
撮影した画像を確認します。**（P.63）**

画像が 2 秒間表示されます。

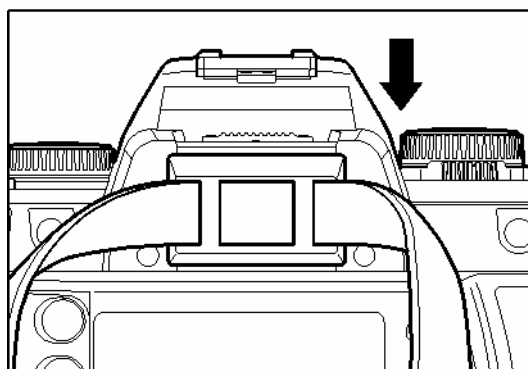
カメラを使う準備をする

撮影をはじめる前に必要な準備やチェックする項目について説明します。

ストラップの取り付け方

付属のストラップの両端を一旦ほどいて、ファインダーキャップを通してから、図のように左右の吊金具を通して取り付けます。

ファインダーキャップの使い方

セルフタイマーやリモコン撮影など、ファインダーから目を離して操作をする時に使用します。

1

アイピースカップを図のように外します。

2

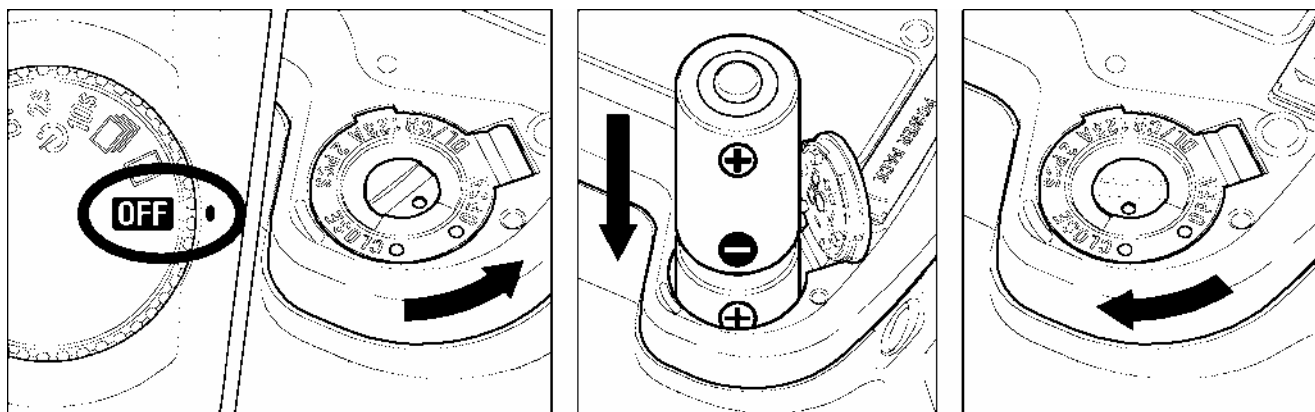
外したアイピースカップの代わりにファインダーキャップを差し込みます。

電池を入れる

SD9 は 2 種類の電池を使用します。必ず両方の電池を入れてからご使用下さい。

リチウム電池 CR123A（DL123A）の入れ方

主に撮影に関する機能に必要な電池です。リチウム電池 CR123A、または DL123A を 2 本使用します。

1

D ダイヤルが OFF の位置になっているのを確認し、グリップの底にある電池ブタのロックをコインなどで左に回して開きます。

2

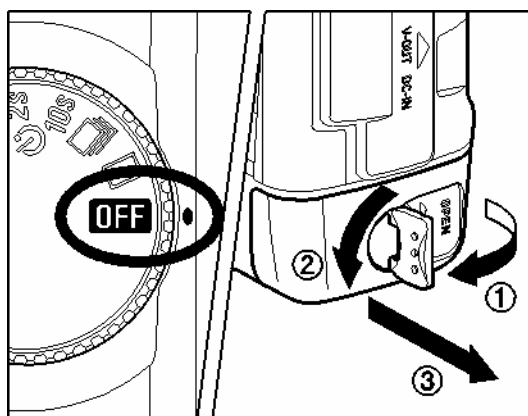
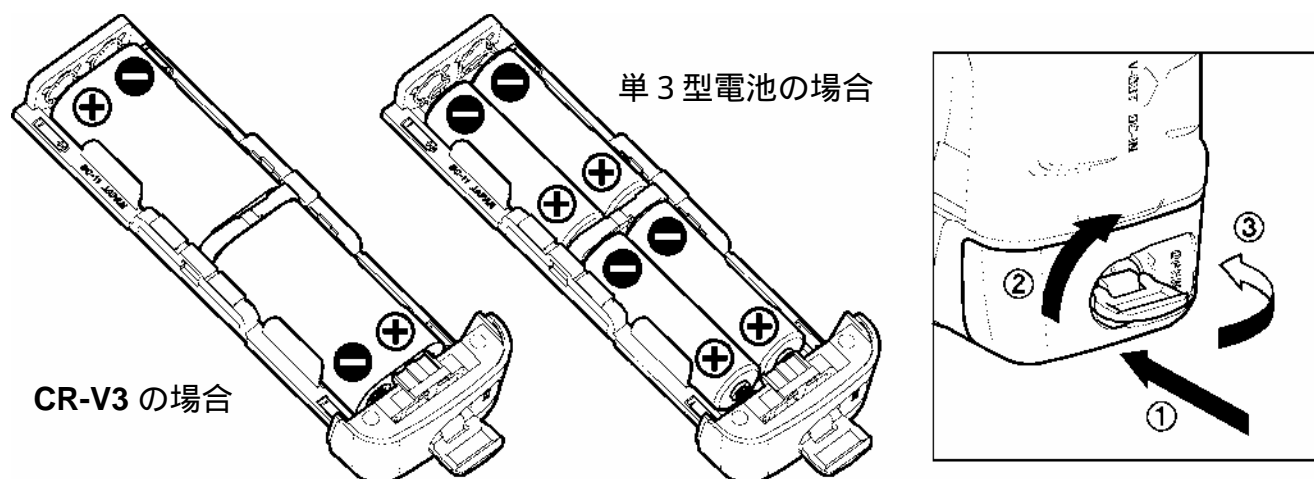
リチウム電池を電池ブタ側が＋になる向きで 2 本入れて下さい。（古い電池と新しい電池を混ぜて使わないで下さい。）

3

電池ブタのロックをコインなどでを右に回して閉じます。

リチウム電池 CR-V3 または単 3 形電池の入れ方

主に画像の記録や再生に必要な電池です。リチウム電池 CR-V3 を 2 本、または単 3 形電池 4 本を使用します。

1

D ダイヤルが OFF の位置になっているのを確認し、電池ケースのロックつまみを矢印の方向に回してロックを解除し、つまみをつかんだまま引っ張って電池ケースを引き出します。

2

電池を電池ケースの表示に従って入れて下さい。

3

電池ケースを差し込み、ロックつまみを解除したときとは逆方向に回してロックします。

●使用できる単 3 形電池は、アルカリ乾電池、ニッケル乾電池、ニッケル水素電池です。

●このカメラには充電機能はありません。ニッケル水素電池をご使用の場合は、電池メーカーの推奨する充電器で充電して下さい。

警 告 !!

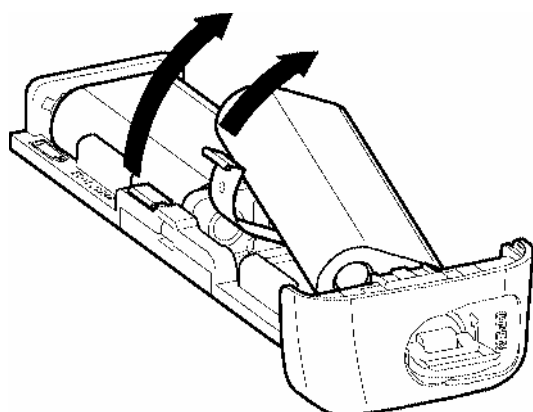
● 電池ケースの電池は、必ず同一のものを使用して下さい。下記の組み合わせでは絶対に使用しないで下さい。

① CR-V3 と単 3 型電池の組み合わせ

② アルカリ乾電池とニッケル水素電池など、他形式との組み合わせ。

③ 同一形式でも他メーカーとの組み合わせ。

④ 新しい電池と古い電池との組み合わせ。

● CF カードアクセスランプが点灯中は、絶対に電池を取り出さないで下さい。書き込み中のデータが失われます。また、CF カードやマイクロドライブが損傷する場合があります。

電池の取り外し方

電池ケースから電池を取り外す時は､図のように取り外しレバーを引き上げて下さい｡簡単に電池がはずれます。

電池のチェック

D ダイヤルがドライブエリアに設定されているとき、表示パネル上にバッテリーの容量を示す電池マークが表示されます。CR123A（DL123A）と CR-V3（または単 3 形）の電池残量は別々に表示されます。表示の意味と対応は下図の通りです。

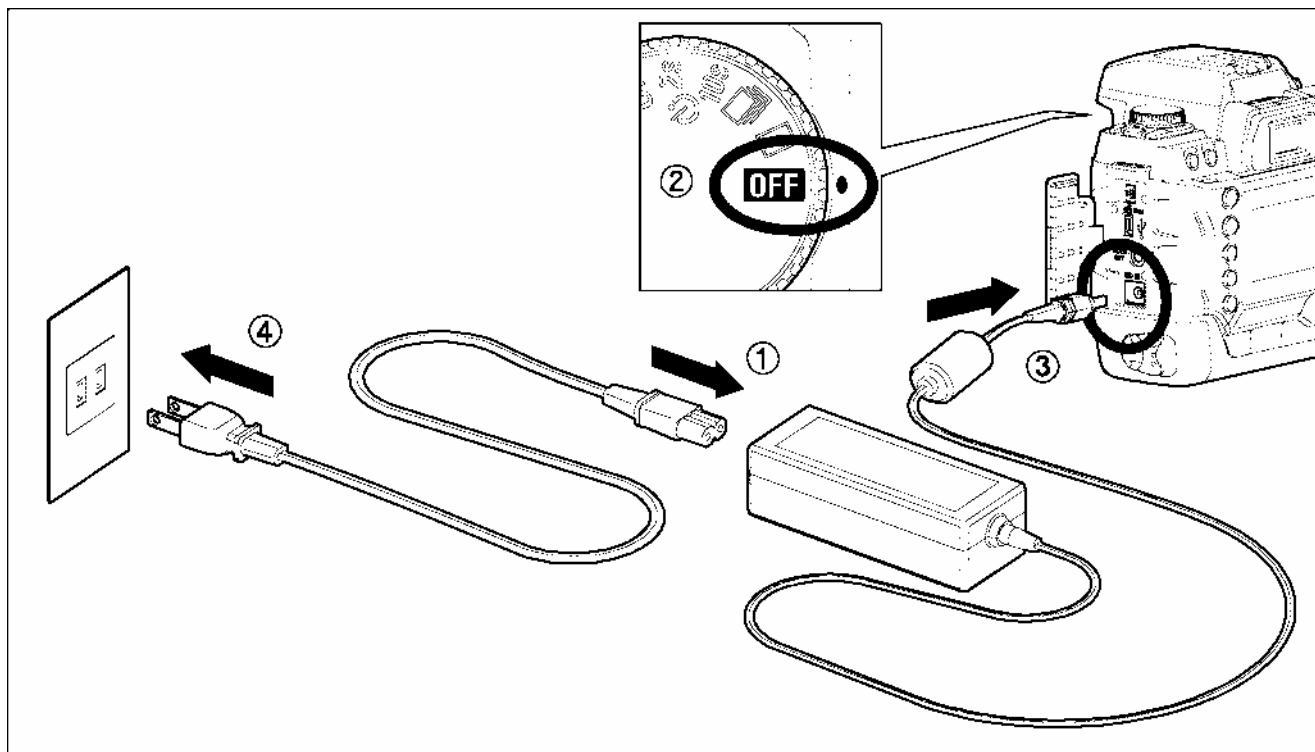
CR-V3 または 単 3 形電池	CR123A または DL123A	表示の意味と対応
		電池の容量が十分にあります。
		点滅した方の電池の容量が残り少なくなっています。 点滅した方の新しい電池をご用意下さい。
		点滅した方の電池の容量が殆どなく、カメラが作動しなくなります。 点滅した方の電池を交換して下さい。

オートパワーオフについて

電池の消耗を防ぐため、カメラ機能が操作されないで約 6 秒間過ぎると、表示パネルのシャッター速度表示と絞り値表示が消えて電源が OFF になります。ただし、D ダイヤルを OFF にしたときと異なり、微小ながら電気が流れており、シャッターボタンの半押しで ON になります。不用意にシャッターボタンに触れるとシャッターが切れてしまいますので、撮影の時以外はDダイヤルを OFF にして下さい。

液晶モニタも、操作がされない状態が続くと、自動的に消灯し電源が切れます。セットアップメニューの「LCD スリープ」で液晶モニタが消灯するまでの時間、「オートパワーオフ」の設定で電源が切れるまでの時間を変更することができます。詳しくは **107** ページ「**LCD スリープとオートパワーオフ**」の項目をご覧下さい。
液晶モニタが消灯した場合も、シャッターボタンの半押しでカメラの電源が ON になります。

家庭用電源の使い方

付属のＡＣアダプター（SAC-1）を使用して、家庭用電源でカメラを作動させることができます。長時間の撮影、画像の再生、コンピューターとの接続時等におすすめします。

1

AC ケーブルを AC アダプターに接続します。①

2

D ダイヤルが OFF の位置にあるのを確認してから、AC アダプターのプラグをカメラ本体に接続します。② ③

3

AC ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。④

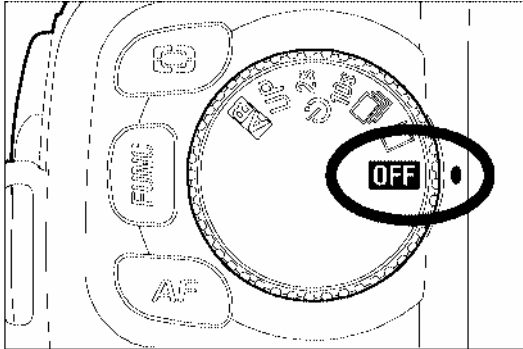
使い終わったら、D ダイヤルが OFF にし、プラグをコンセントから抜いて下さい。

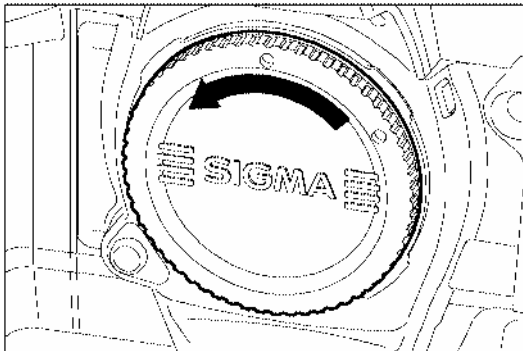
家庭用電源での作動中は、電池の有無、もしくは電池容量にかかわらず、表示パネルの電池マークはフルの表示になります。電池による作動に切り替えると、本来の残量表示に切り替わります。

警 告 !!

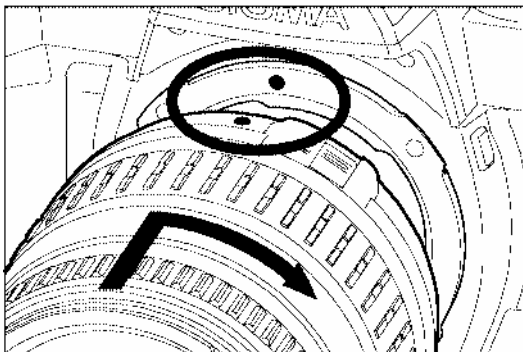
- CF カードアクセスランプが点灯中は、絶対に電源の切り替えを行わないで下さい。書き込み中のデータが失われます。また、CF カードやマイクロドライブが損傷する場合があります。

レンズを取り付ける

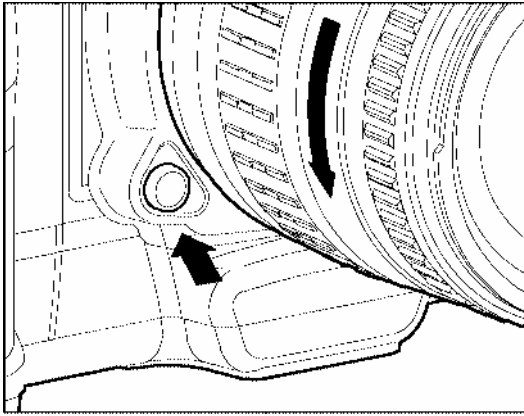
SD9 のマウントはシグマ SA マウントです。シグマ SA マウントには、一般レンズ取り付け用の SA-IB バヨネットマウント（内爪）と大口径レンズや超望遠レンズ用の SA-OB バヨネットマウント（外爪）の 2 種類が装備されています。取り付け方法はいずれも同じ手順です。

1

D ダイヤルを OFF にします。

2

レンズのリヤキャップと、ボディのマウントキャップを外します。

3

カメラのマウントにある赤い丸とレンズ側の指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを右回りにカチッと音がしてロックされるまで回します。

ご注意 !!

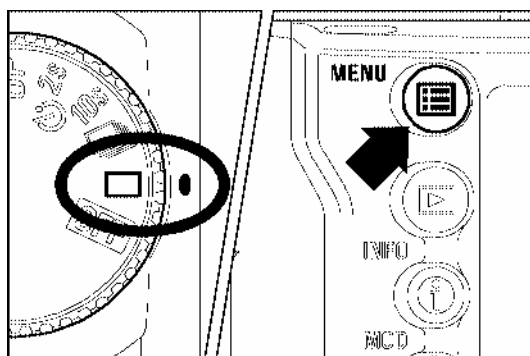
- 取り付けの際にレンズ着脱ボタンを押していると、ロックが不完全になる場合があります。この状態ではレンズが連動しないばかりか、レンズがボディから脱落する恐れがあります。必ずロックがされていることを確認して下さい。
- カメラのマウント部から見える四角い部分（ダストプロテクター）は特にキズが付きやすくなっています。指などで直接触れないようにして下さい。ゴミやほこりなどがある場合は、「カメラのお手入れ」（**P.101**）の項目をご覧ください。

4

レンズを取り外す時は、レンズ着脱ボタンを押しながら、左回りに止まるまで回し、静かに引き抜いて下さい。

ご注意 !!

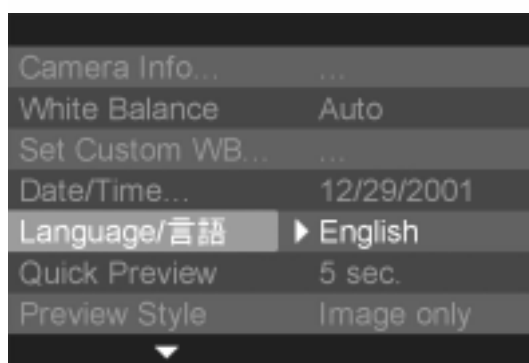
- レンズのマウント面には、電気情報接点等、レンズとカメラの連動装置があります。キズや汚れが付くと誤動作や故障の原因となります。リヤキャップを外したまま、レンズのマウント面を下に置かないで下さい。

言語の設定

液晶モニタに表示されるメニューやメッセージの言語は、英語が初期設定となっています。セットアップメニューの「言語の設定」で日本語に設定を変更して下さい。

1

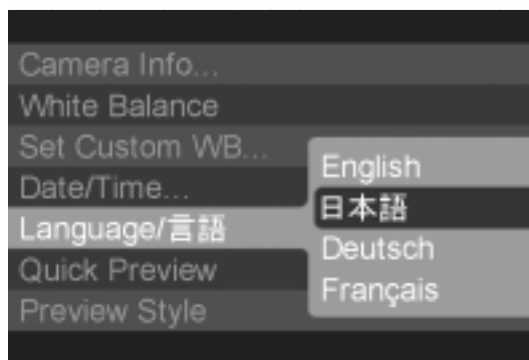
D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の< **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「Language」を選択します。

4

十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

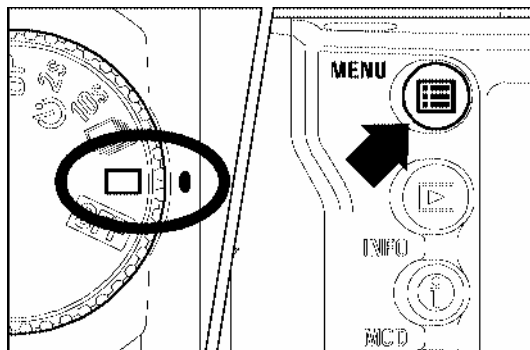
十字コントローラーの<▲/▼>で「日本語」を選択します。言語は下記の 4 種から選択できます。

English（英語）
日本語
Deutsch（ドイツ語）
Français（フランス語）

6

変更する場合は、十字コントローラーの<▶>か<✓**OK**>ボタンを、変更しない場合は、<◀>か<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。

日付と時間の設定

SD9 は、撮影した日付と時間を画像と共に記録します。正確な日付と時間が確実に記録されるために、初めて使用する、あるいは長期間使用していなかった場合は、日付と時間を正しく設定して下さい。

カメラ情報	...
ホワイトバランス	オート
カスタムWB	...
日付/時間	▶ 12/29/2001
言語/Language	日本語
撮影画像確認	5 秒
確認画面の設定	情報画面

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の<☰ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。(**P.96** 参照)

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「日付/時間」を選択します。

4

十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを押して、日付と時間の設定ページを開きます。

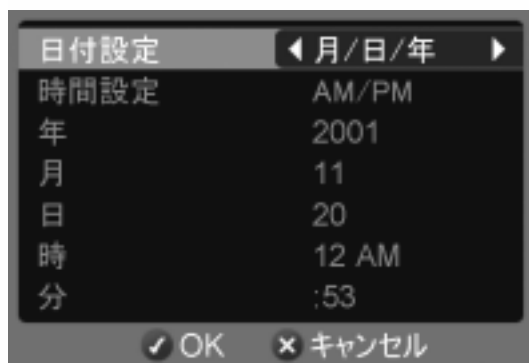
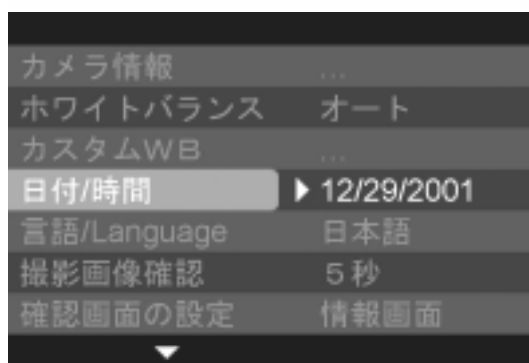
5

十字コントローラーの<▲/▼>で変更する項目を選択し、<◀/▶>で日付表示の順番や時刻等を修正します。

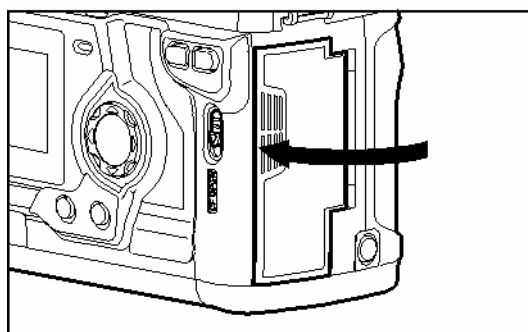
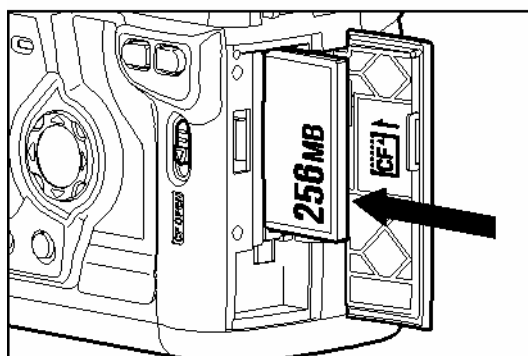
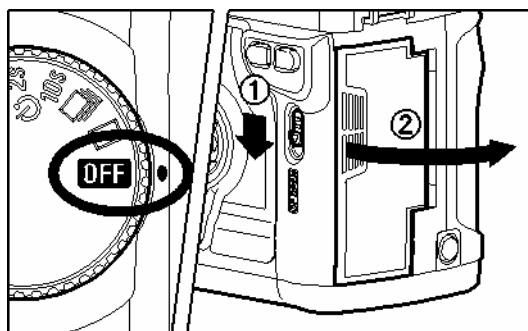
6

全て設定し、<✔ **OK**>を押すとメインメニューに戻ります。

設定を途中で止めたい場合は、<✖ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

メモ

- 日付表示は①月日年②日月年③年月日の 3 種類から選べます。
- カメラの内蔵時計は、カメラ動作用電池から内蔵の充電池に充電された電気で動いています。長期間カメラに電池が入っていない状態で、充電がされていない場合は、内蔵時計を再設定する必要があります。
- SD9 の日付と時間を、SIGMA Photo Pro のカメラメニュー内の「日付と時間の設定」を使ってコンピューターと同調させることができます。SIGMA Photo Pro disk (CD-ROM)の SIGMA Photo Pro 使用説明書を参照して下さい。)

CF カードの入れ方と取り出し方

SD9 では撮影した画像の記録に、コンパクトフラッシュ™（CF）カードを使用します。CF カードは Type I と Type II、およびマイクロドライブに対応しています。

CF カードの入れ方

1

D ダイヤルを OFF に合わせます。

CF カードドア開放レバーを下げて CF カードドアを開きます。

CF カードのラベル面を手前側にして矢印方向に、CF カードスロットに奥までしっかりと入れます。
＊イジェクトボタンが飛び出します。

4

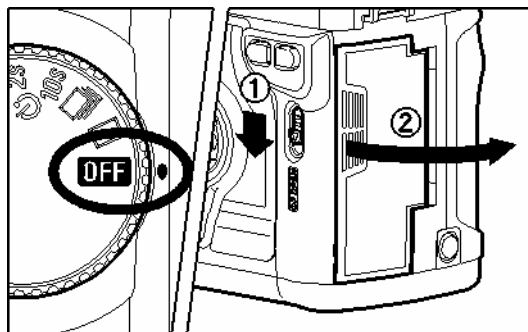
CF カードドアをカチッと音がするまで閉じます。

メ モ

- 必要に応じて使用前に CF カードを初期化して下さい。（**P.29** 参照）

撮影可能枚数の目安（256MB CF カード使用時）

HI	2268 x 1512 画素	32
MED	1512 x 1008 画素	54
LOW	1134 x 756 画素	102

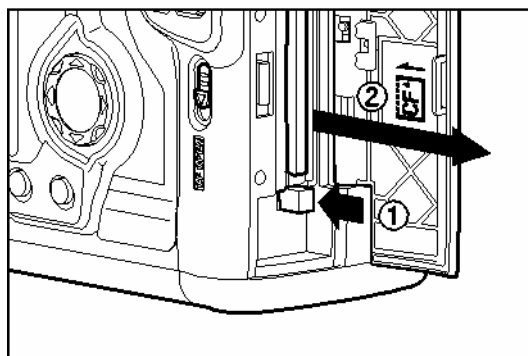
- 同一容量の CF カードでも、製造メーカーやタイプによって撮影可能枚数が増減する場合があります。
- 同一画素でも撮影する被写体やカメラの設定（ISO 感度の設定等）によって、ファイルサイズが多少異なり、撮影可能枚数が増減する場合があります。

CF カードの取り出し方

1

D ダイヤルを OFF に合わせます。

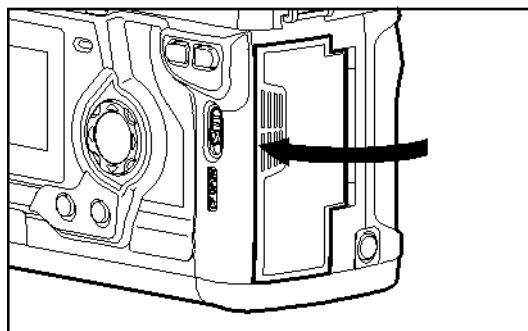
• CF カードアクセスランプが消えていることを確認してから OFF にして下さい。

2

CF カードドア開放レバーを下げて CF カードドアを開きます。

3

イジェクトボタンを押し込みます。

＊ CF カードが出てきます。

4

CF カードドアをカチッと音がするまで閉じます。

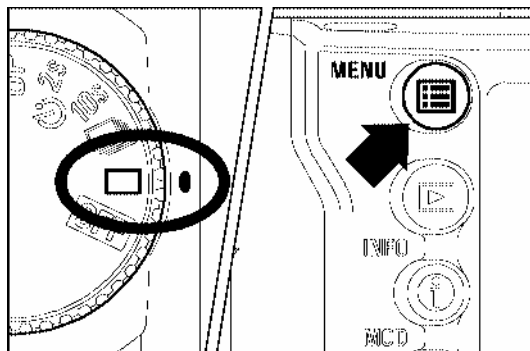
警 告 !!

- カメラの電源が入った状態で、CF カードドアを開けたり、CF カードを取り出したりすることは絶対にしないで下さい。
- CF カードアクセスランプが点灯中は、次のことは絶対に行わないで下さい。（CF カードアクセスランプ点灯中は、画像の書き込みや読み込み、消去がカメラと CF カードの間で行われています。次のことを行うと、画像データが消えたり、壊れる原因になります。）
  - ① CF カードドアを開けたり、CF カードを取り出さないで下さい。
  - ② 電池カバーを開けたり、電池を取り出さないで下さい。
  - ③ カメラに衝撃や振動を与えないで下さい。

メ モ

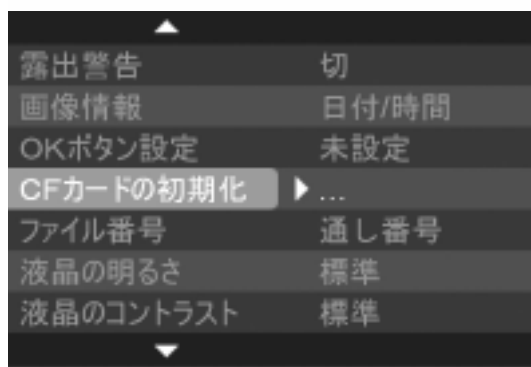
- D ダイヤルを OFF にしても、CF カードへのアクセスが終了するまでは、CF カードアクセスランプが点灯し、表示パネルに“ CF ”と表示され、電源が切れません。

CF カードの初期化

新しい CF カードは使用する前に初期化しなければなりません。また、他のファイルフォーマットで初期化されている場合や、データが壊れていたり、CF カードに異常がある場合も使用前に初期化する必要があります。

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

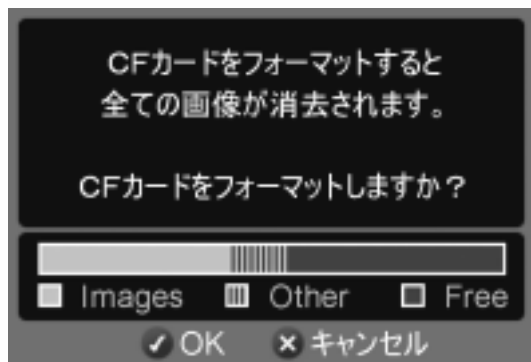
本体背面にある<☰ **MENU**>ボタンを押して、セットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「**CF カードの初期化**」を選択します。

4

十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを押して、確認ダイアログを開きます。

5

CF カードを初期化する場合は、<✓**OK**>を、中止する場合は<✕ **CANCEL**>を押して下さい。

警 告!!

● 初期化はロックされた画像とそれ以外のファイルもすべて消去します。初期化する前に CF カード内のデータを確認して下さい。カード内のデータ形式は確認ダイアログ画面（上図）のグラフで確認きます。”Images”は SD9 で撮影された画像、”Other”は他形式のファイル、”Free”は空いている領域を示しています。

メ モ

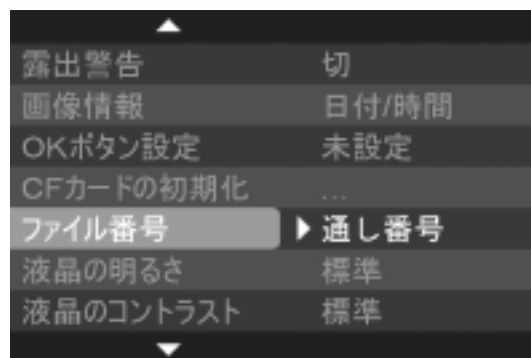
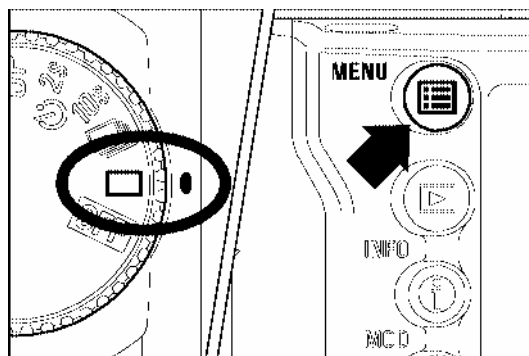
● 他のカメラや機器で CF カードを初期化すると、SD9 で正常に動作しなかったり、容量が少なくなっていることがあります。画像を最大限記録するには、使用前に SD9 で初期化して下さい。

ファイル番号の設定

撮影した画像には、自動的に 00001 から 99999 までのファイル番号が付けられます。画像を再生しているときは、情報欄の左隅に画像ごとにファイル番号が表示されます（**P.68** 参照）。また、ファイル番号は画像のファイル名にも表示されます。ファイル名は、5 ケタのファイル番号と拡張子が IMG の後に続きます。例えば、画像番号 00023 はファイル名 IMG00023.X3F と記録されます。SD9 で撮影された画像ファイルはすべて CF カードの IMAGES フォルダに記録されます。

ファイル番号は連番か、空の CF カードを入れるたびにリセットされるかのいずれかができます。設定はセットアップメニューの「ファイル番号」で行います。

ファイル番号設定項目

設定項目	設定内容
通し番号 （初期設定）	連続でファイル番号が付けられます。空の CF カードを入れたとき、最初のファイルに付けられるファイル番号は、以前の撮影で付けられた最後の番号より１つ大きい番号が付けられます。（SD9 で撮影した画像が記録されている CF カードを入れた場合、以前に付けられた最後の番号よりもカード内のファイルの番号が大きければ、その番号の続きが付けられます。）
オートリセット	空の CF カードを入れたり、使用中の CF カード内の画像を全て消去するたびに、ファイル番号が初期の番号 00001 にリセットされます。（SD9 で撮影した画像が記録されている CF カードを入れた場合、番号はリセットされずに次の番号が付けられます。）

ファイル番号の設定

1

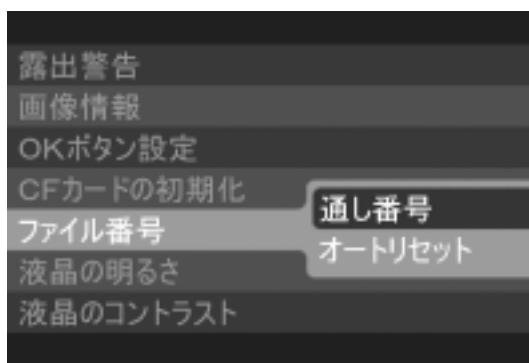
D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面にある<▤ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「ファイル番号」を選択します。

4

十字コントローラーの<▶>か<✔OK>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

十字コントローラーの<▲/▼>で希望の項目を選択します。

6

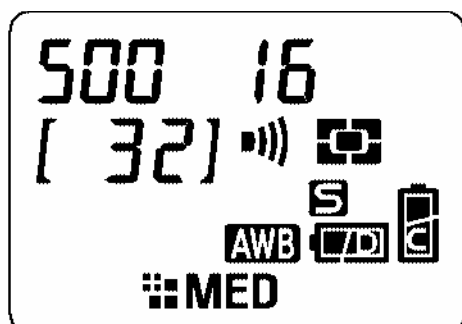
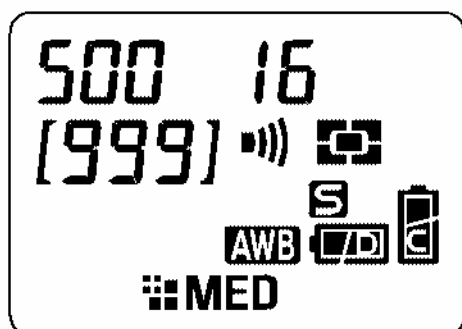
選択した内容で設定する場合は、十字コントローラーの<▶>か<✔OK>ボタンを、変更しない場合は、<◀>か<✖ CANCEL>ボタンを押して下さい。

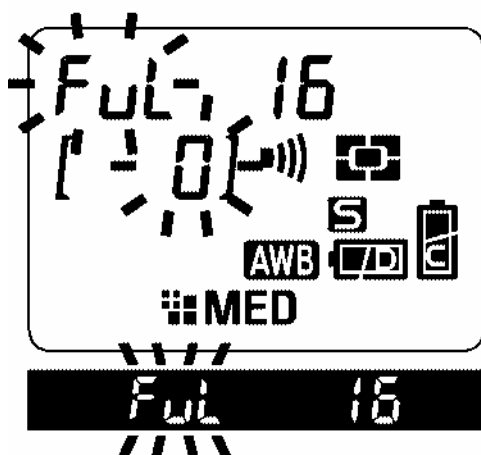
メモ

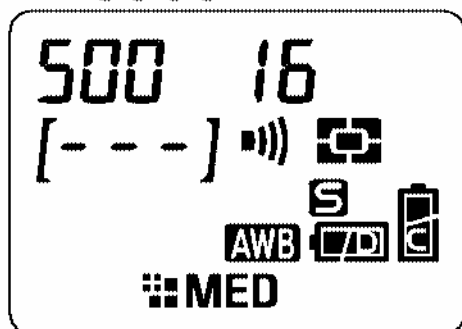
- 「通し番号」に設定しておくと、ファイルをコンピューターに転送したときに誤って上書きされる心配がありません
- 「通し番号」設定では、画像に付けられたファイル番号と撮影枚数の番号が違う場合があります。例えば、空の CF カードで初めて撮影した場合、撮影枚数の番号は常に 1 ですが、ファイル番号は 00001 から 99999 までのどれかの番号が付けられます。

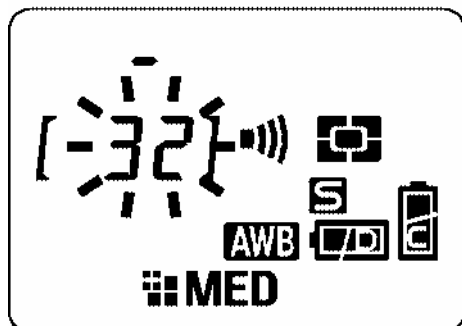
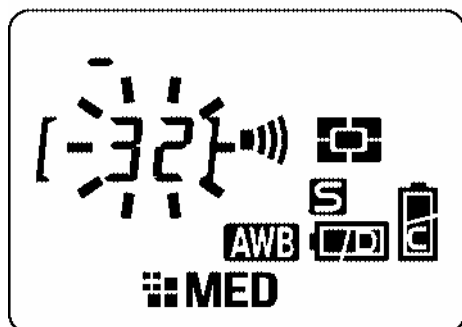
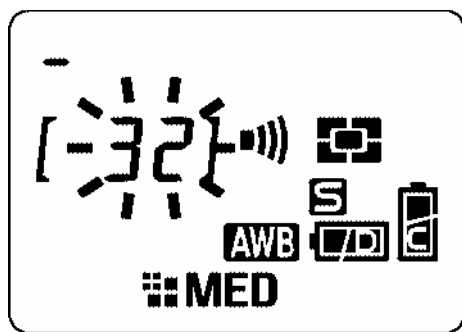
カウンター表示について

カウンターには現在設定されている記録画素数における、残りの撮影可能枚数を表示します。

＊撮影可能枚数は、記録画素数の設定を変更すると変わります。

例）残り撮影可能枚数 32 枚

＊ 残り撮影可能枚数が 999 枚以上の場合は、カウンターは 999 から変化しません。

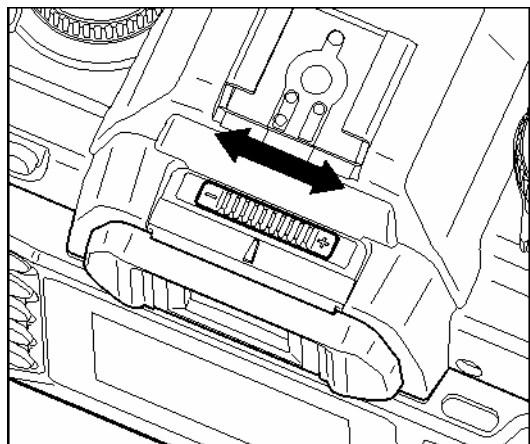
（おおよその撮影可能枚数は、カメラ情報ページ（**P.99** 参照）で確認することができます。）

記録カードの空き容量がいっぱいになり、残り撮影可能枚数が 0 になると、カウンター数値（0 と表示）とシャッター速度表示部（*FuL* と表示）が点滅します。

内部ファインダーには *FuL* が点滅表示されます。

記録カードがカメラ本体に入っていない場合は、カウンターが “ **- - -** ” と表示されます。

カウンター表示について

画像データを処理している状態（ビジー状態）では、シャッター速度表示部が図のようにアニメーションし、カウンター数値が点滅します。
内部ファインダーには、シャッター速度表示部がアニメーション表示されます。

ビジー状態中はシャッターが切れませんので、表示が元に戻ってから撮影してください。

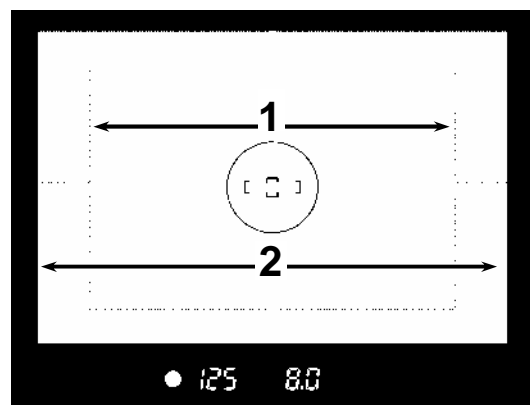
視度の調整について

ファインダーがハッキリ見えるように視度を調整します。

ファインダーを覗きながら、ファインダー中央のオートフォーカスフレームがハッキリ見えるように、視度補正レバーを左右にスライドして下さい。

メ モ

- 視度の調整できる範囲は、－3 ～＋1dpt です。
- 視度の調整をしてもファインダーがハッキリ見えない場合は、別売りの視度調整レンズを併用して下さい。

スポーツファインダーについて

このカメラは、撮影範囲より外側の状況を把握できる「スポーツファインダー」を採用しています。また、4 個所のスリットにより、構図決定時に水平、垂直が取り易くなっています。

1.撮影範囲

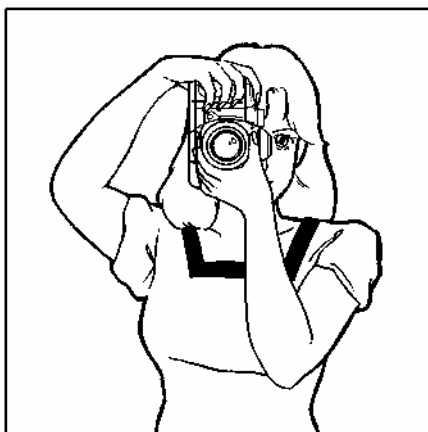
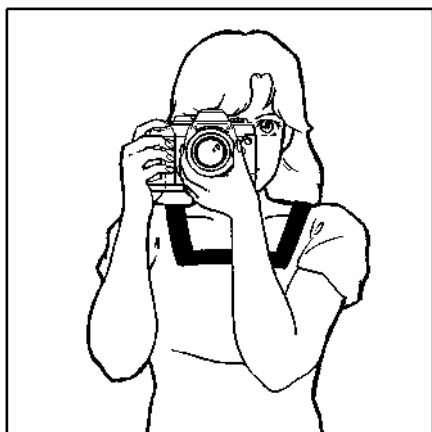
2.撮影範囲外の確認できる範囲

警告!!

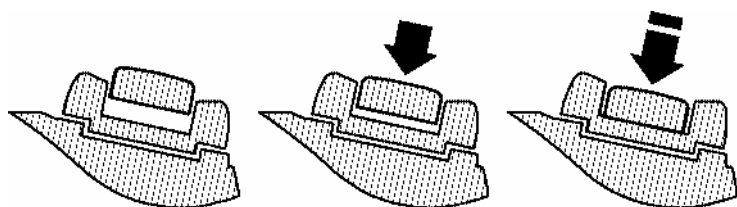
- レンズを着けたカメラで、太陽や強い光源を見ないで下さい。視力障害の原因となります。また、スポーツファインダーは、一定個所に長時間太陽を入れると損傷する恐れがあります。

カメラの構え方

手ブレをおこさずきれいな写真を撮るために、カメラは下記の要領でしっかり構えましょう。

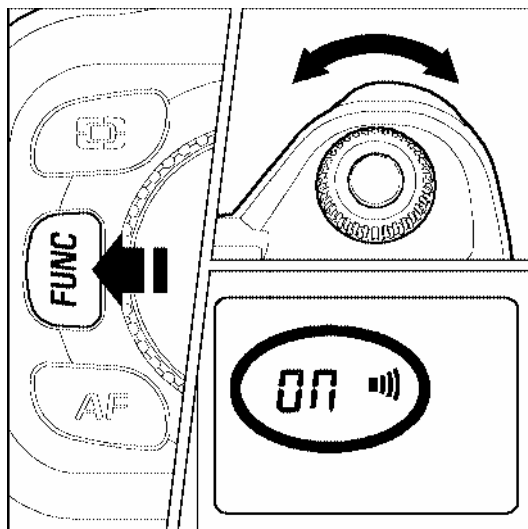
■ 右手でグリップを握ります。
■ 左手でレンズを下から支えるように持ちます。
■ カメラを額につけるようにしてファインダーをのぞきます。
■ わきをしめ、片足を半歩踏み出すとより安定します。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは 2 段階になっています。

軽く押して止まるところが 1 段目で、カメラが撮影状態になり、露出やピントの機構が作動します。この状態までシャッターボタンを押すことを " 半押し " と言います。半押しの状態からさらに押し込むとシャッターが切れます。

メ モ

● 撮影をする前に、何回かシャッターを切って " 半押し " の感覚をつかむと共に、カメラに慣れるように各部を操作して練習することをおすすめします。

電子音の設定

このカメラはピントが合ったときに“ ピピッ ”と電子音で知らせます。電子音は消すこともできます。

1

FUNC ボタンを 2 回押して（2 回目は押したまま）表示パネルに マークを表示させます。

2

FUNC ボタンを押したまま、C ダイヤルを回して、*on*（電子音を鳴らす）か **- -**（電子音を消す）を選択します。

メ モ

- 表示パネルに マークが点灯している時は電子音が設定されている状態、消えている時は電子音が設定されていない状態です。
- セルフタイマー、およびリモコン撮影の作動音は消すことができません。

基本撮影

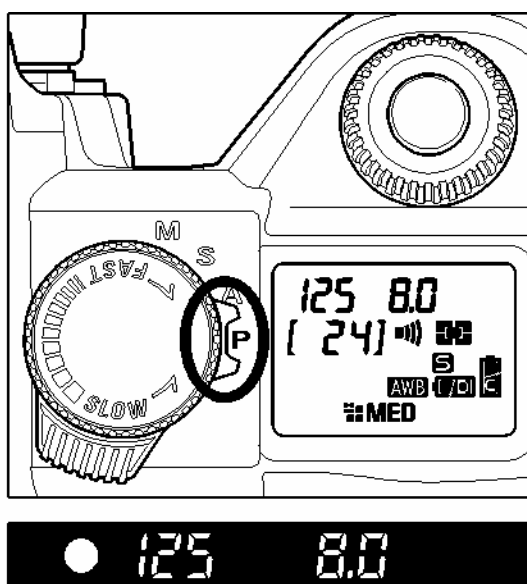
実際に撮影する上での基本的な操作を説明します。

露出のモードを選ぶ

露出を決める 4 つのモードの特徴と操作方法を説明します。

P プログラムオート

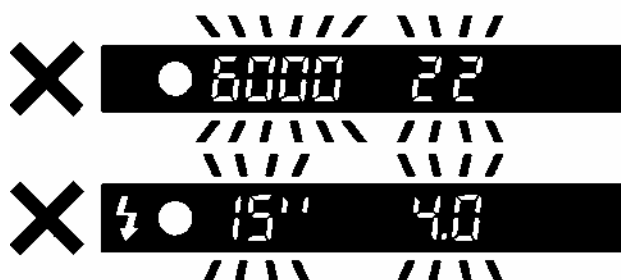
気軽な撮影にはこのモードを選びます。被写体の明るさに応じて、カメラが最適なシャッター速度と絞りを決めてくれます。

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせます。

2

モードレバーを **P** にします。

3

シャッターボタンを半押してピントを合わせ、ファインダー表示を確認し撮影します。

明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度と絞り表示が点滅して警告します。そのまま撮影すると露出が合いません。

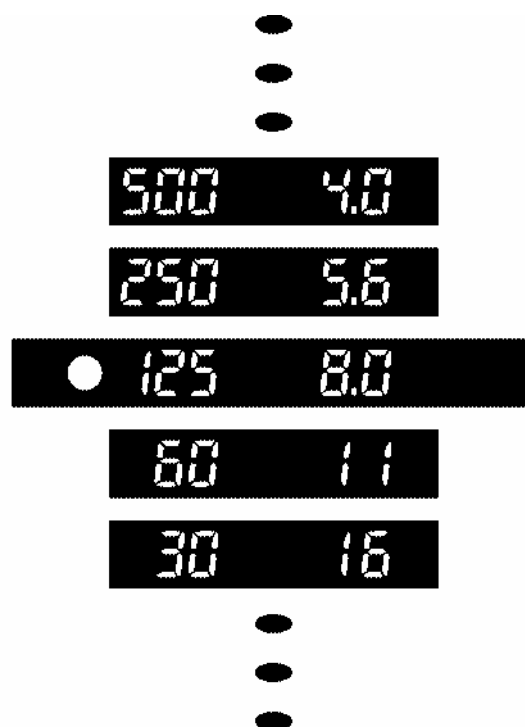
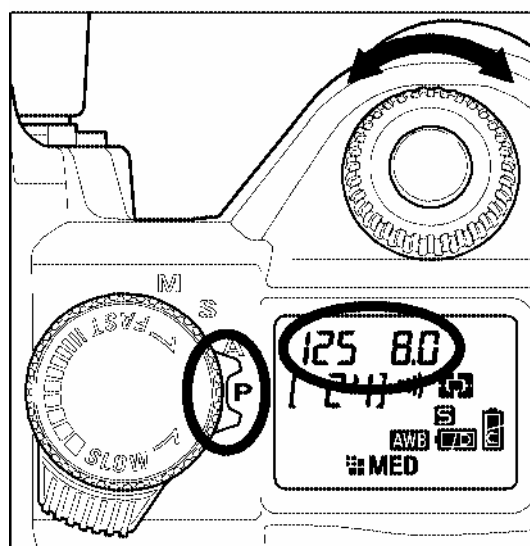
マークが点滅した時は、シャッター速度が遅くなり、手ブレをおこす可能性があります。フラッシュ撮影（**P.61**）をおこなうか、ブレを防止するために、三脚等を利用して撮影して下さい。

プログラムシフト

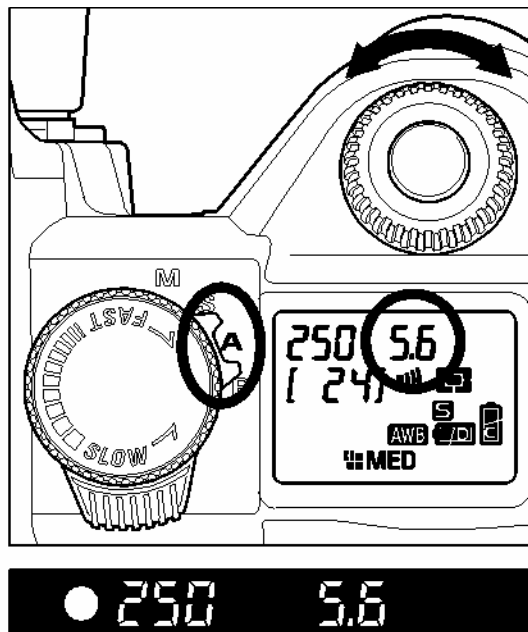
カメラが選んだシャッター速度と絞りの組み合わせを同じ露出を保ったままを変更することができます。希望するシャッター速度と絞りの組み合わせの表示がでるまで、C ダイヤルを回して下さい。

■ 撮影後は自動的に解除されます。

■ フラッシュを使用しているとき、プログラムシフトは行えません。

ご注意 !!

● ISO 感度の設定により、低速側のシャッター速度の範囲が変わります。
ISO100 の場合: 15 秒まで　ISO200 の場合: 1 秒まで　ISO400 の場合: 1 秒まで

A 絞り優先オート

希望の絞りをセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適なシャッター速度を決めてくれます。絞り込んでピントの合う範囲を広げたり、絞りを開けて背景をぼかすなど、絞りの効果を生かした撮影ができます。

1
D ダイヤルをドライブエリアに合わせます。

2
モードレバーを A にします。

3
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、C ダイヤルで希望の絞りを選びます。

4
ファインダー表示を確認し撮影します。

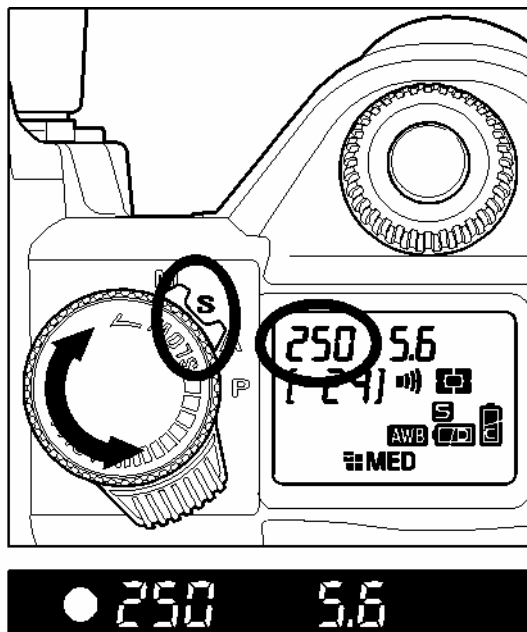
明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎる場合は絞り込み（数字を大きく）、暗すぎる場合は絞りを開けて（数字を小さく）、点滅が消えるように調整して下さい。

ご注意 !!

- ISO 感度の設定により、低速側のシャッター速度の範囲が変わります。
  ISO100 の場合: 15 秒まで　ISO200 の場合: 1 秒まで　ISO400 の場合: 1 秒まで

S シャッター速度優先オート

希望のシャッター速度をセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適な絞りを決めてくれます。高速シャッターで動きを止めたり、低速シャッターで動きを表現するなど、シャッター速度の効果を生かした撮影ができます。

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせます。

2

モードレバーを **S** にします。

3

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、S ダイヤルで希望のシャッター速度を選びます。

4

ファインダー表示を確認し撮影します。

明るすぎたり暗すぎた場合、絞り表示が点滅して警告します。明るすぎる場合はシャッター速度を速くし、暗すぎる場合はシャッター速度を遅くして、点滅が消えるように調整して下さい。

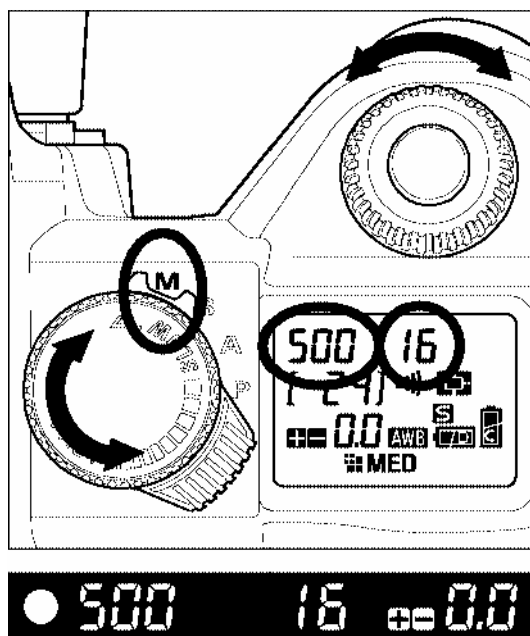
ご注意 !!

- ISO 感度の設定（**P.52**）により、選択できる低速側のシャッター速度の範囲が変わります。
  ISO100 の場合: 15 秒まで　ISO200 の場合: 1 秒まで　ISO400 の場合: 1 秒まで

M マニュアル露出

自分で希望のシャッター速度と絞りをセットします。カメラの露出メーターの数値に基づいて、わざと露出をずらして表現に工夫を加えたり、市販の外部露出計を利用して露出を決める場合などに使用します。

● 500 16 +− 0.0

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせます。

2

モードレバーを **M** にします。

3

シャッターボタンを半押してピントを合わせ、C ダイヤルで絞りを選び、S ダイヤルでシャッター速度を選びます。

4

ファインダー表示を確認し撮影します。

カメラの露出メーターに基づいて露出を決める場合

モードレバーを **M** にし、シャッターボタンを半押しすると、露出メーターの数値が表示されます。数値の表示例を以下に示します。

− **1.5**　適正露出に対して、1.5 段のマイナスの状態

+− **0.0**　適正露出

+ **3.0**　適正露出に対して、3 段のプラスの状態

露出メーターの表示は 0.5 段ピッチで±３段まで表示されます。表示範囲を超えた場合、露出メーターの数字が点滅表示されます。

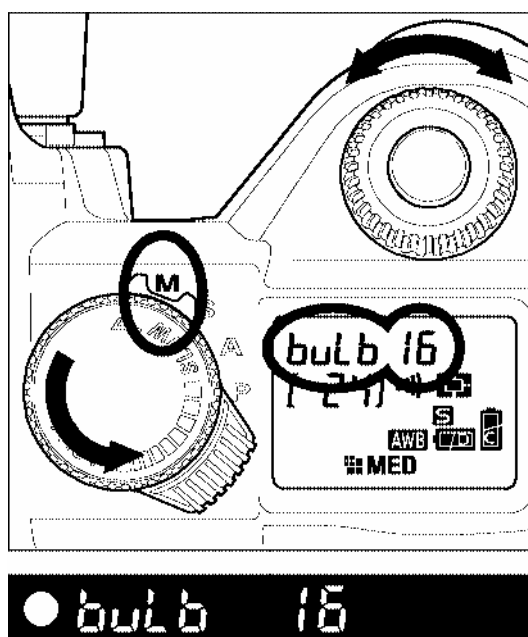
ご注意 !!

● ISO 感度の設定（**P.52**）により、選択できる低速側のシャッター速度の範囲が変わります。

ISO100 の場合: 15 秒までとバルブ　ISO200 の場合: 1 秒まで　ISO400 の場合: 1 秒まで

バルブ撮影

夜景の撮影など、長時間シャッターを開けておきたいときに使用します。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。バルブ撮影の時には、しっかりした三脚を使用しましょう。
バルブ撮影は ISO 感度が 100 に設定されている時のみ行えます。（ISO 感度の設定については **P.52** を参照して下さい。）

● buLb 16

1

D ダイヤルをドライブエリア（セルフタイマーを除く）に合わせます。

2

モードレバーを **M** にします。

3

S ダイヤルを回しシャッター速度表示部に b u L b を 表示させます。C ダイヤルで絞りを選びます。

4

希望の時間に達するまでシャッターを押し続けます。

ご注意!!

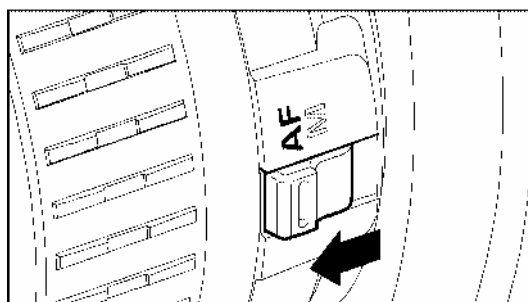
- ISO 感度が 100 に設定されている時のみ、バルブ撮影が可能です。ISO 200、ISO 400 ではバルブ撮影ができません。
- シャッターボタンを押してから約 15 秒でシャッターが閉じます。15 秒以上のバルブ撮影はできません。
- セルフタイマーとバルブ撮影は併用できません。バルブ撮影がセットされた状態で D ダイヤルをセルフタイマーに合わせた場合、1/180 秒でシャッターが切れます。

ピントを合わせる

オートフォーカスの設定方法や手動でのピント合わせについて説明します。

オートフォーカスについて

このカメラはAF対応レンズとの組み合わせでオートフォーカスが機能します。
また被写体に合わせた2種類のオートフォーカスモードを備えています。
（ミラーレンズ等、特殊なレンズとの組み合わせでは、手動でのピント合わせとなります。）

オートフォーカスによるピント合わせ

1

レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にします。

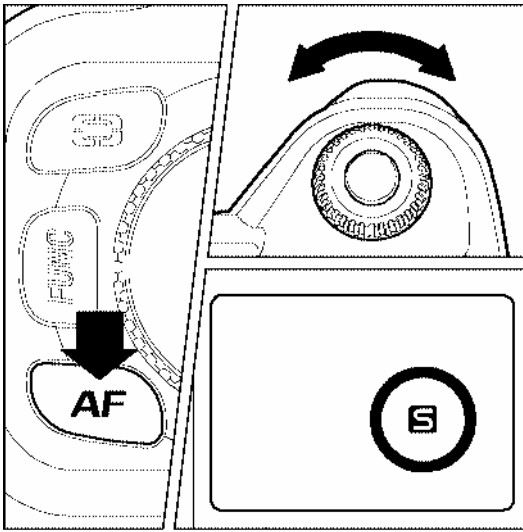
2

ファインダー中央のオートフォーカスフレームに写したいものを合わせ、シャッターボタンを半押しします。（ピントが合うと ファインダー内に合焦表示が点灯し、ピピッという電子音で知らせます。）

オートフォーカスは、次のような被写体にはピントが合わない場合があります。

■ 白い壁など、コントラストのない被写体
■ 画面の中央に強い光源がある場合
■ ビルの窓など、繰り返しパターンがある場合
■ 動きが速い場合
■ オートフォーカスフレーム内に近くと遠くのものが混在している場合

ピントが合わない時は、ほぼ同距離にある被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアル（手動）でのピント合わせを行って下さい。

オートフォーカスモードの設定

AF モードボタンを押しながら、C ダイヤルを回して S（シングル AF モード）か、C（コンティニアス AF モード）を選びます。

S シングル AF モード

ピントが合うまでシャッターが切れませんので、ピンぼけ写真を防ぎます。ピントが合うと、ファインダー内に合焦表示が点灯しピントが固定されます（フォーカスロック）。ピントを合わせ直したい時は、一旦シャッターボタンから指を離して再度半押しをして下さい。

■ 通常はこのモードに設定して下さい。

■ ピントが合うとファインダー内に合焦表示が点灯し、ピピッという電子音で知らせます。電子音が不要な場合は消すこともできます。（**P.36**「電子音の設定」をご覧ください。）

C コンティニアス AF モード

シャッターボタンを半押ししている間、オートフォーカスが作動し続けます。動いている被写体にオートフォーカス機能が追従している場合、動体予測機能により、シャッターが切れる瞬間の位置を予測してピント位置が調整されます。

■ ファインダー内の合焦表示、及び電子音による合焦サインは行われません。

■ フォーカスロックはできません。

■ 被写体の条件によってはオートフォーカス機能が追従できない場合があります。

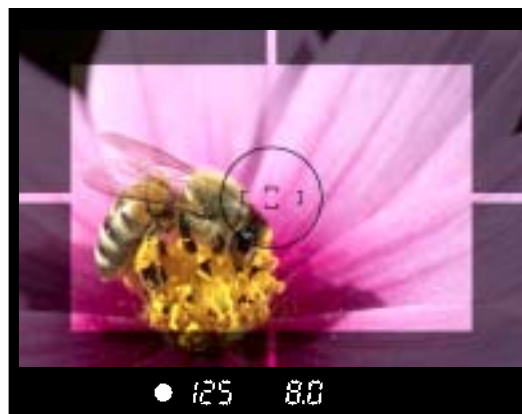
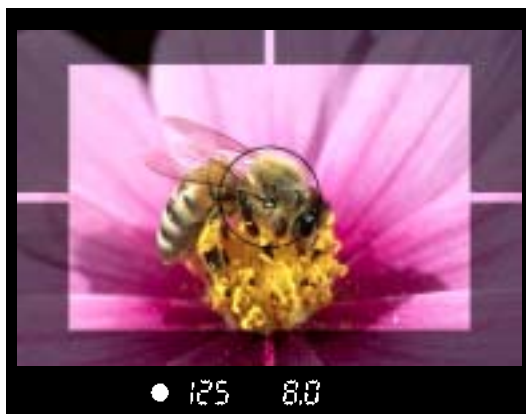
フォーカスロック撮影

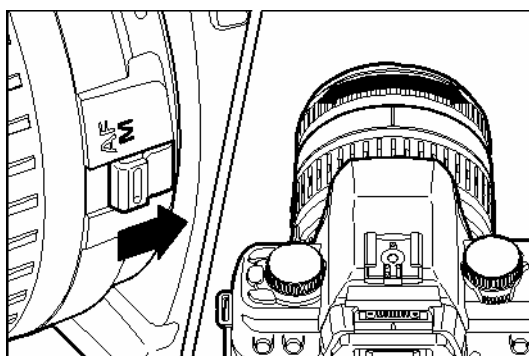
オートフォーカスフレームの外に被写体を配置したい時の撮影方法です。

1

被写体を中央に合わせ、シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。

2

シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。

マニュアル（手動）でのピント合わせ

オートフォーカスが苦手な被写体や、フォーカスロックが行えない場合、マニュアルでピントを合わせて下さい。

1

レンズのフォーカスモードを **M** にします。（表示パネルの AF モード表示が消灯します。）

2

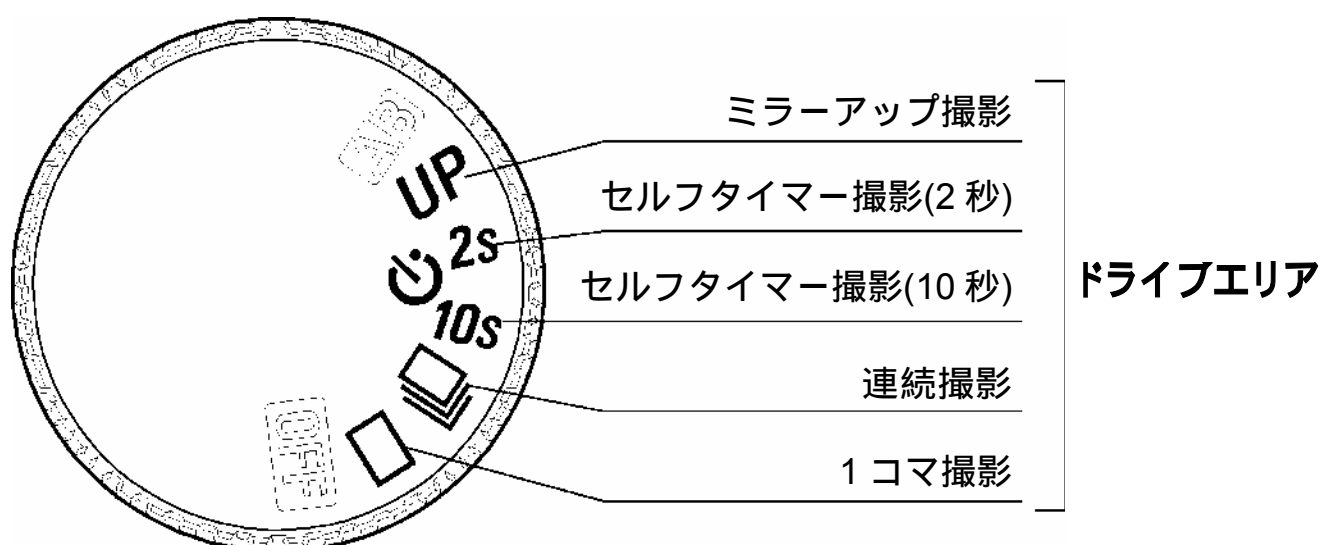
被写体がはっきり見えるようにレンズのフォーカスリングを回します。

■ F5.6 より明るいレンズでは、ファインダーの合焦表示でピントを確認することができます。シャッターボタンを半押しのまま、フォーカスリングを回すと、ピントが合った位置で合焦表示が点灯します（同時に電子音でも知らせます）。

ドライブモードを選ぶ

セルフタイマーなど、カメラの動作モードを説明します。

ドライブエリアについて

D ダイヤルのドライブエリアとは、カメラの動作モードを設定するエリアです。1 コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー、ミラーアップが含まれています。

□ １コマ撮影

シャッターを押して撮影が終了すると１コマ分撮影され、次の撮影のスタンバイ状態になります。通常は１コマ撮影にセットして下さい。

連続撮影

シャッターを押し続けている間、連続撮影ができます。

連続撮影時の最大撮影コマ数と速度は、おおむね以下のようになります。

	HI	MED	LOW
最大撮影コマ数 約（コマ）	6	14	30
最大撮影速度 約（コマ/秒）	1.9	2.4	2.5

ご注意!!

- AF モードが S（シングル AF モード）に設定されている場合、合焦ランプ点灯中は１コマ目のピント位置と露出がロックされ連続撮影が行われます。連続撮影中に被写体が動いたり、明るさが変化すると、ピントや露出が合わないことがあります。AF モードが C（コンティニアス AF モード）に設定されている場合、シャッターが切れるたびにピントを合わせますが、レリーズが優先されるため、ピントが合わないままシャッターが切れる場合があります。
- 外部フラッシュを使用して連続撮影をすると、充電中にも撮影が行われるので、場合によってはスローシャッターになることがあります。
- SD9 は連続撮影を可能にするため、撮影された画像データを一旦カメラ内蔵のバッファーメモリに書き込みます。このバッファーメモリには **HI** モードで最大 6 コマ分の画像データを書き込むことができます。連続撮影モードでシャッターを押し続けた場合、バッファーメモリに空き容量がなくなると、それ以上はシャッターが切れなくなります。画像データがバッファーメモリから CF カードに転送され、空き容量ができた時点で次の撮影が可能になります。

セルフタイマー撮影

記念撮影で撮影者も一緒に写りたい場合や、カメラブレを防ぐ目的で使用することができます。

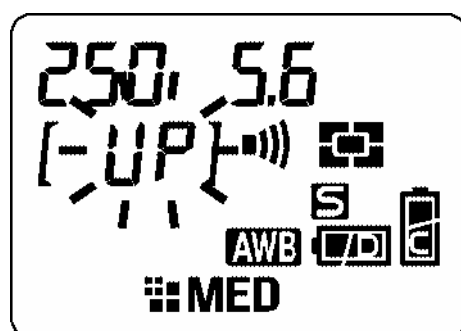
10 s にセットするとシャッターを押してから約 10 秒後にシャッターが切れます。

2 s にセットするとシャッターを押してから約 2 秒後にシャッターが切れます。

構図を決め、シャッターを半押ししてピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押し込むとファインダー表示が消え、セルフタイマーが作動します。作動中は電子音が鳴り、２秒前になると電子音が速くなり知らせます。表示パネルにはシャッターが切れるまでの秒数がカウントダウン表示されます。

■ 電子音の設定がOFFの状態でも、セルフタイマーは電子音が鳴ります。
■ セルフタイマーを作動中に解除をしたい場合は、Dダイヤルを回して他のポジションに変更します。
■ ファインダーから目を離して操作する場合は、ファインダーキャップを使用して下さい（**P.18**）。

UP ミラーアップ撮影

マクロ撮影など、シャッター作動時のミラーのショックをなくしたい場合、露光前にミラーを上げることができます。

シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせます。さらに押し込むとミラーが上がりピントと露出が記憶されます。シャッターボタンから指を離してもう１度シャッターを押すと露光され撮影が完了します。

ご注意!!

● ミラーアップは30秒で解除され、ミラーが戻ります。ミラーアップを再開したい場合はもう一度半押しからはじめてください。
● 強い光源が入り込むと、まれに漏光してしまうことがあります。強い光源下では、なるべくミラーアップ撮影をしないで下さい。

警告!!

● ミラーアップ状態でカメラを太陽に向けると、漏光してしまうばかりか、集光現象によりシャッター幕が異常に熱くなり、故障や火災の恐れがありますので絶対におやめください。

メ モ

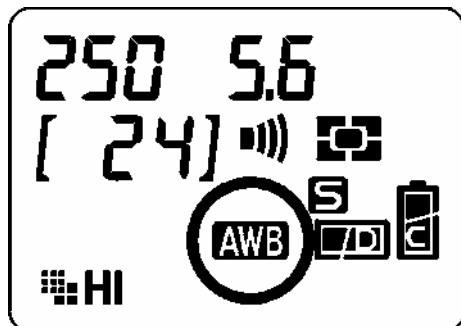
● ミラーアップ撮影は、別売りのリモートコントローラーRS-21（RS-11）を使用すると便利です。詳しくは **P58,59** をご覧ください。

応用撮影

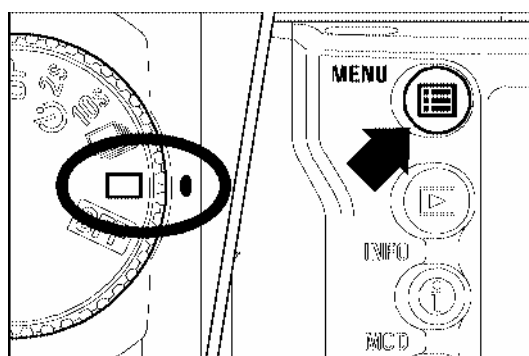
“ 写真の表現に工夫を加えたい ”そんな時に応えてくれる機能の説明をします。

ホワイトバランスの選択（WB）

人間の目は、照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整する能力をもっています。フィルムカメラの場合は、フィルターで調整したり、使用する光源に適したフィルムを選択して対処します。デジタルカメラは、人間の目のような調整能力をソフトウェアでおぎなうことができます。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

- 通常、ホワイトバランスは、初期設定の **AWB**（オートホワイトバランス）により自動調整されますが、マニュアルでセットすることも可能です。
- ホワイトバランスの設定は、液晶モニタのセットアップメニュー画面で行います。（次ページ参照）
- マニュアルでセットする場合は、照明の種類が明らかになっている必要があります。
- マニュアルでセットできる光源の種類は、次ページの表のとおりです。
- 次ページの表内の「カスタム」とは、実際の照明下で撮影し、取り込んだ画像を基準としてホワイトバランスを調整する、カスタムホワイトバランスモードです。（**P.51** 参照）

表示パネルでは、ホワイトバランスの設定がオートかマニュアルかを判断することができます。オートに設定されている場合は AWB と表示されます。
他のモードが選択されている場合は、AWB が消灯しています。

ホワイトバランスには以下のモードがあります。

モード	色温度	
オート（初期設定）	–	カメラが自動的に最適なホワイトバランスを決定します。通常はこのモードにセットして下さい。
晴れ	約 5400K	晴天の屋外で撮影するときに選択します。
日陰	約 8000K	晴天の屋外の日陰などで撮影するときに選択します。
くもり	約 6000K	曇天の屋外などで撮影するときに選択します。
白熱電球	約 3150K	白熱電球の照明下で撮影するときに選択します。
蛍光灯	約 4100K	白色蛍光灯下で撮影するときに選択します。
フラッシュ	約 5850K	エレクトロニックフラッシュ EF-500 DG を使用して撮影するときに選択します。
カスタム	—	セットアップメニューの「カスタム WB」で、実際に取り込んだ画像を基準とし、ホワイトバランスが設定されます。（**P.51**）

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面にある<**MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で、「ホワイトバランス」を選択します。

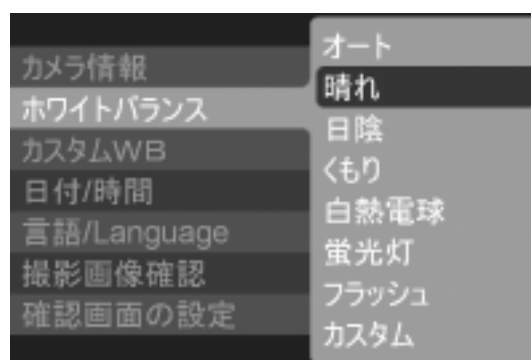
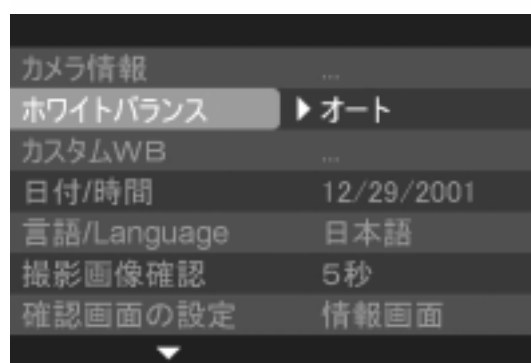
4

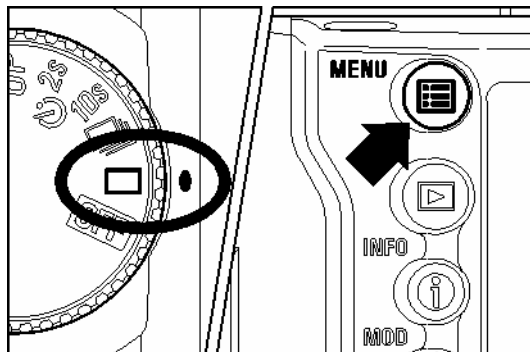
十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

十字コントローラーの<▲/▼>で希望のモードを選択します。

6

選択した内容で設定する場合は十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを、現在の設定を変更しない場合は<◀>か<✖ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

カスタムホワイトバランスの設定

カスタムホワイトバランスは、実際に取り込んだ画像を基準として、ホワイトバランスを設定する方法です。

1

D ダイヤルを □（1 コマ撮影）に合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面にある<☰ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で、「カスタム WB」を選択します。

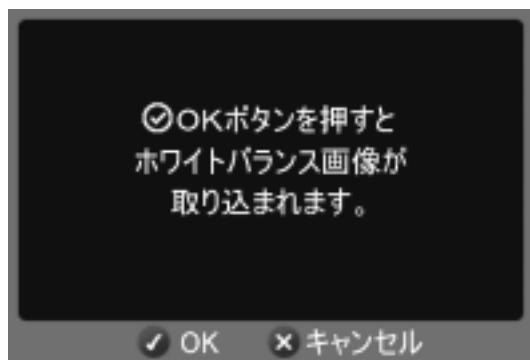
4

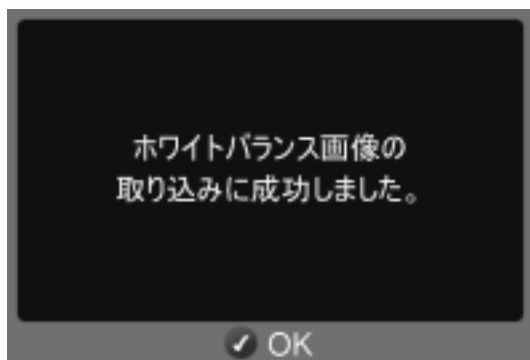
十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを押して確認ダイアログを開きます。

5

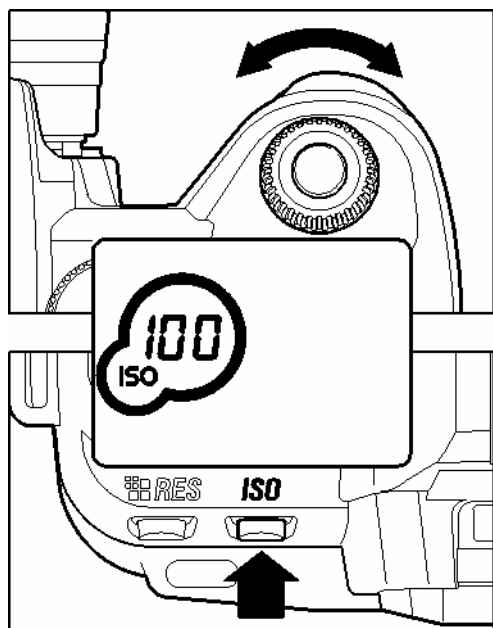
実際に撮影を行いたい照明下で、 基準にしたい白い被写体（白い紙や、白い壁など）にカメラを向けます。ファインダー内の中央部分測光範囲表示のサークル内に、白い部分がいっぱいになるようフレーミングして下さい。

6

<✔ **OK**>ボタンを押します（シャッターが切れ、カスタムホワイトバランスの基準が取り込まれます）。

7

取り込みがうまくいった場合は「ホワイトバランス画像の取り込みに成功しました。」とメッセージが液晶モニタに表示されます。「取り込みに失敗しました！」とメッセージが出た場合はもう一度、手順 **5** からやり直して下さい。中止したい場合は<✕ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

ご注意!!

- 「ホワイトバランス画像の取り込みに成功しました。」とメッセージが表示されたあとは、自動的にカスタムモードに設定されますので、そのまま本撮影をしてください。カスタムホワイトバランスモードを中止したい場合は他のモードに変更して下さい。
- ドライブモードが、□（1 コマ撮影）の時のみホワイトバランス画像の取り込みが行えます。D ダイヤルが □ 以外のポジションにセットされていると「取り込みに失敗しました！」とメッセージが表示されます。（取り込みが成功したあとに、希望のドライブモードにセットして下さい。）
- ホワイトバランス画像の取り込みの際は、露出のモードを **P**、**A**、**S** のいずれかにセットして下さい。**M** モードでも取り込みは行われますが、正確に取り込めない場合があります。
- ホワイトバランス画像の取り込みの際は、フォーカスモードをマニュアルにセットして下さい。オートフォーカスでは取り込み位置がずれて、正確に取り込めない場合があります。

ISO 感度の設定

フイルムカメラで、用途に合わせて感度の違うフィルムを選ぶように、撮影時の感度を選択することができます。（ISO 感度 **P.104**）

ISO 感度設定ボタンを押しながら C ダイヤルを回し、希望の ISO 感度値に設定します。

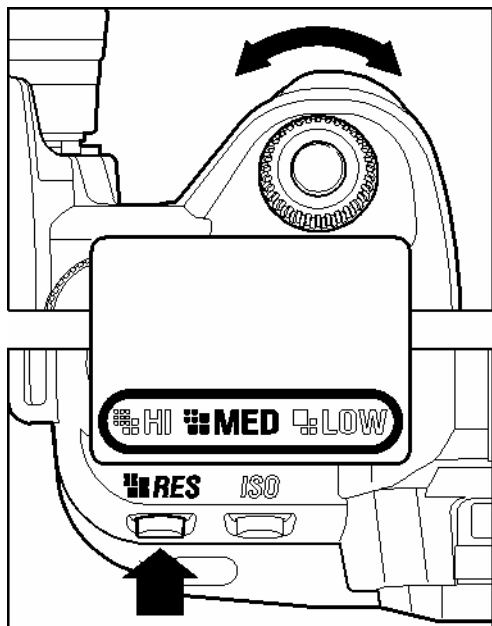
＊ ISO 感度は、100、200、400 のいずれかに設定することができます。

＊ ISO 感度値は、ISO 感度設定ボタンを押している場合のみ **ISO** のアイコンと共にカウンター表示部に表示されます。

メ モ

- ISO 感度は低い（数値が小さい）ほど画質が良くなる傾向にありますが、暗い場所では速いシャッター速度が選びにくくなります。ISO 感度が高い（数値が大きい）ほど、速いシャッター速度が選べるので、暗い場所では有利ですが、場合によっては若干ノイズが目立つ可能性があります。ISO 感度は被写体によって使い分けることが必要です。

記録画素の設定

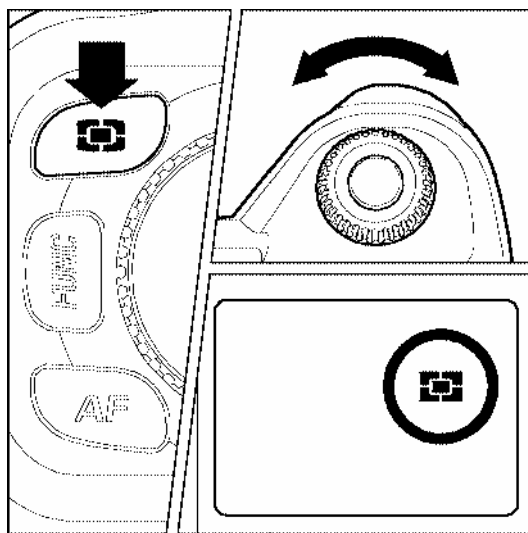
画像の使用目的によって、記録画素サイズを選択することができます。

RES ボタン（記録画素設定ボタン）を押しながら C ダイヤルを回し、希望の画素に設定します。

記録画素数およびファイルサイズ

記録画素数 モード	記録画素 約 (画素)	ファイルサイズ 約（MB）
HI	2268 x 1512 (343 万)	8
MED	1512 x 1008 (152 万)	4
LOW	1134 x 756 (85 万)	2

＊ 画像はすべて RAW データ形式で記録されます。
＊ ファイルサイズは被写体によって変化します。

測光モードの変更

被写体の状況に合わせ、３つの測光方式を選べます。

測光モードボタンを押しながら､C ダイヤルを回して希望の測光方式を選びます。

８分割式評価測光

画面を８つに区切り､それぞれの部分の測光情報をもとにカメラが被写体の状況を判断して最適な露出を算出します｡逆光や露出決定が難しい光線状態でも最適となる露出を判断します。（通常はこのモードにセットして下さい｡）

中央部重点平均測光

画面中央部分にウエイトを置き、画面全体の平均的な明るさを算出します。順光などの比較的光線状態が良い場合に、最適な露出がえられます。

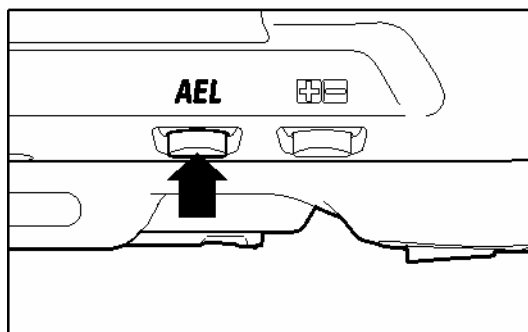
中央部分測光

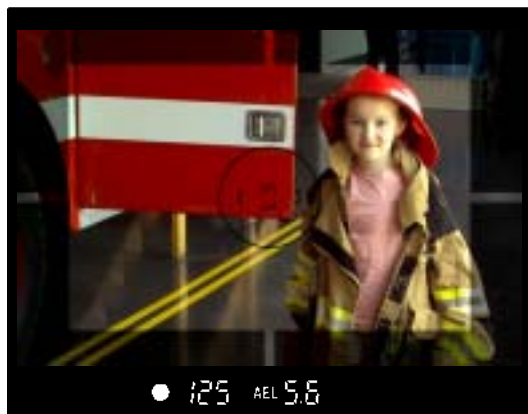
画面中央の部分測光範囲内の明るさのみを算出します。測光範囲外の明るさに影響されず、被写体の特定のポイントに露出を定めたいときに有効です。

AE ロック

AE ロックボタンを押すと、その時の露出が固定されます。特に中央部部分測光との組合わせで、画面中央部写したい被写体が無い場合などに便利です。

1

露出を合わせたい部分を画面の中央部に合わせシャッターボタンを半押しします。

2

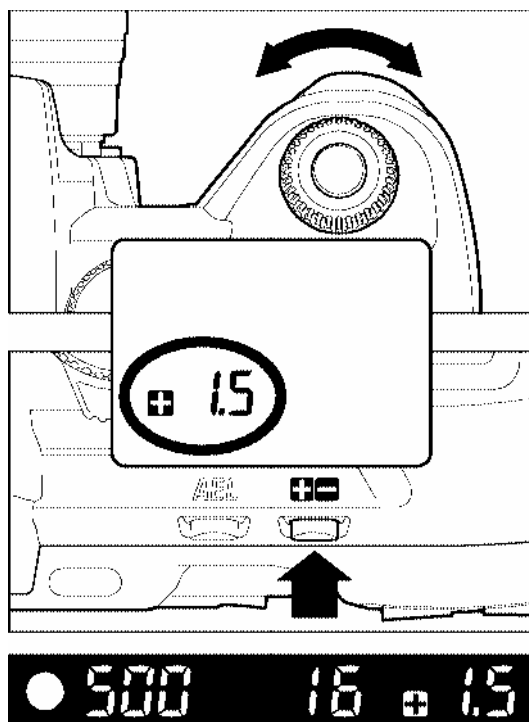
シャッターボタンを半押しのまま、AE ロックボタンを押します。(AE ロック中はファインダーのシャッター速度表示と絞り表示が固定され、**AEL** の文字が点灯します。)

3

AE ロックボタンを押したまま、好みの構図にしてシャッターを切ります。

■ AE ロック中にピントがずれてしまった場合、AE ロックを押したまま再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直すか、AE ロックボタンを押すのをやめ、再度手順 **1** から行ってください。

露出補正

カメラが判断した適正露出に対し、意図的に明るめにしたり、暗めにしたい場合、この機能を使います。

● 500 16 + 1.5

露出補正ボタンを押しながら、C ダイヤルを回して補正量をセットします。

■ 露出補正ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内に ⊞⊟ 0.0 と表示されます。⊞ を点灯させると明るめ（露出オーバー）、⊟ を点灯させると暗め（露出アンダー）となります。

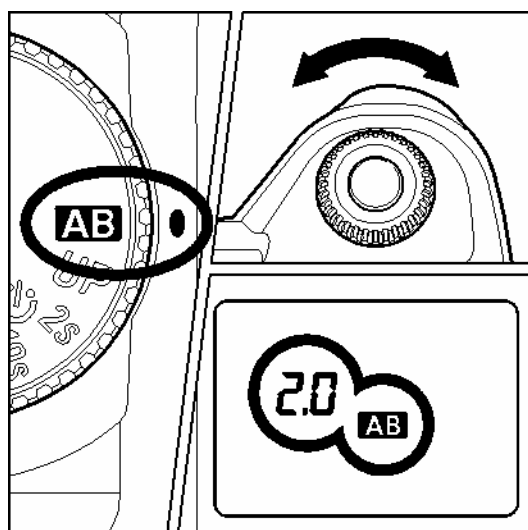
■ 補正量は 0.5 段ピッチで、±3 段までできます。

■ 例えば＋1.0 とセットすると、**A** モードの時はシャッター速度が 1 段遅くなります。**S** モードの時は 1 段絞りが開きます。**P** モードの時はシャッターが半段遅く、絞りが半段開きます。

ご注意!!

- 露出補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順で補正量を ⊞⊟ 0.0 に戻して下さい。
- 露出補正は **M** モードとの併用はできません。

オートブラケット機能

カメラが判断した適正露出をはさんで、明るめと暗めに露出をずらした写真を連続で撮ることができます。

1

D ダイヤルを AB に合わせます。

2

C ダイヤルを回して、ずらし量をセットします。（ずらし量は、0.5 段ピッチで±3 段まで設定できます。）

3

D ダイヤルをドライブエリアに戻します。

■ 適正、アンダー、オーバーの順序で撮影されます。

■ 例えば､ずらし量 2.0 にセットした場合の各露出モードでの ファインダー内表示は以下のようになります。

	P,A,S	M
1 コマ目	+− 0.0	測定値※
2 コマ目	− 2.0	測定値に対して−2.0EV の数値
3 コマ目	+ 2.0	測定値に対して＋2.0EV の数値

（※測定値とは設定した露出とカメラが判断した適正値との差の値です。）

■ 各モードでの補正は以下のように行われます。

P シャッターと絞りが共に変化します。

A シャッター速度が変化します。

S 絞りが変化します。

M 設定したシャッター速度を中心としてシャッター速度が変化します。

ご注意!!

● オートブラケット機能は自動的に解除されません｡撮影が完了したら同じ手順でずらし量を 0.0 に戻して下さい｡

■ 1 コマ目は、AB マークが点灯、2 コマ目は、AB マークがゆっくり点滅、3 コマ目は、AB マークが速く点滅し、何枚目の撮影かがわかります
■ セルフタイマーにセットした場合、3 コマ連続撮影となります。
■ オートブラケットの途中でドライブモードを変更することができます。ただし、セルフタイマーに変更すると、残りのコマは連続撮影されます。
■ フラッシュは併用できません。オートブラケットを設定しても、通常のフラッシュ撮影が行われます。

オートブラケットは露出補正と組み合わせて使用できます。

カメラが判断した適性露出に対して、明るめや暗めな露出を基準にしたオートブラケット撮影が可能です。前記の手順に従って、露出補正とオートブラケットの両方の設定を行って下さい。どちらを先にセットしても結構です。

ファインダー内の表示は、露出補正量と、オートブラケットのずらし量の合成された数値が表示されます。

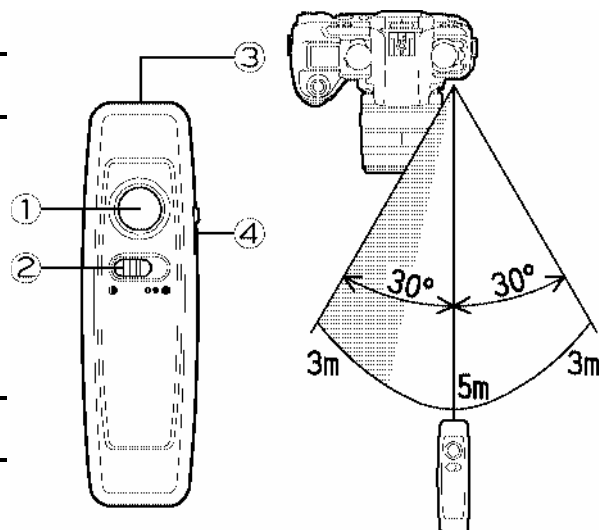
例えば、露出補正量＋1.5、オートブラケットのずらし量を 1.0 とセットした場合の動作、及びファインダー内表示は以下のようになります。

1 コマ目	＋ 1.5　露出補正量＋1.5、ずらし量なし
2 コマ目	＋ 0.5　露出補正量＋1.5 とずらし量－1.0 の合成値
3 コマ目	＋ 2.5　露出補正量＋1.5 とずらし量＋1.0 の合成値

リモコン撮影

別売りのリモートコントローラーRS-11、及び RS-21 を使用してシャッターを離れた所から切ることができます。使用可能範囲はいずれもカメラの正面から約 5m、左右 30°で約 3m です。但し使用レンズによっては、左方向からの有効角度・距離に制限がでる場合があります。

リモコンの各部の名称

① 送信ボタン
② ディレイタイム切換えスイッチ
③ 送信部
④ チャンネル選択スイッチ（RS-21 のみ）

リモコン撮影手順

リモコン側の設定

1 リモコンのディレイタイム切換えスイッチでディレイタイムを選択します。

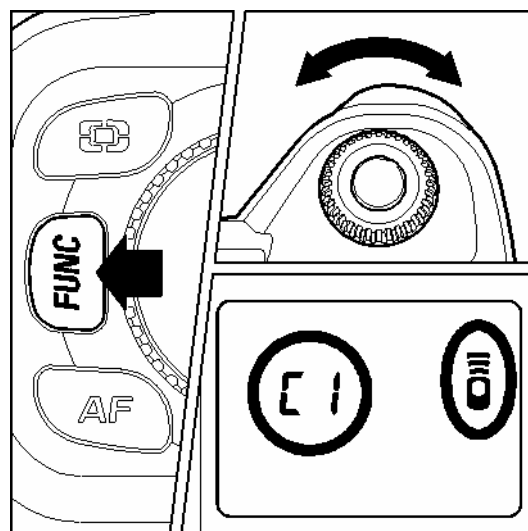
● 送信ボタンを押すとすぐにシャッターが切れます。
●●● 送信ボタンを押してから約 3 秒後にシャッターが切れます。

2 チャンネルを選択します（RS-21 のみ）

カメラ側の設定

3 カメラの ***FUNC*** ボタンを 1 回押して（押したまま）表示パネルに マークを表示させます。

4 ***FUNC*** ボタンを押したまま、C ダイヤルを回して、リモコンのチャンネルと一致するチャンネルを選択します（RS-11 は **C1** を選択します）。設定後は表示パネルに マークが点灯します。

5 構図を決めシャッターを半押ししピントを合わせてからピントがずれないようにレンズのフォーカスモードスイッチを **M** にします。（AF のままでは他のものにピントが合ってしまうことがあります。）

6 リモコンをもって予定の位置に立ち、リモコンをカメラの受信部に向けて送信ボタンを押します。
7 撮影が終了したら、手順３から同じ手順でリモコンモードを解除します（ -- を選択します）。

■連続撮影との併用はできません。Dダイヤルが連続撮影にセットされた場合、1コマ撮影となります。
■強い逆光時や距離が遠すぎる場合、リモコンが作動しない場合があります。リモコン撮影ができないときはセルフタイマーを使用して下さい。
■リモコンモードにしたまま約 5 分間放置されると、バッテリーの消耗を防ぐため電源が自動的に切れてリモコン撮影ができなくなります。カメラのシャッターボタンを半押しすることでリモコン撮影に戻ります。
■ファインダーからの逆入光で露出がずれることがありますので、ファインダーキャップを使用して下さい。

ミラーアップでの便利な使い方

ミラーアップとの併用時は、１回目のレリーズを本体のボタンで、２回目のレリーズでリモコンを使用すると、ピントをマニュアルにする手間がはぶけます。

1 D ダイヤルを ***UP*** に合わせ、リモコンモードをセットます。
2 カメラのシャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせます。さらに押し込むとミラーが上がりピントと露出が記憶されます。
3 リモコンをカメラの受信部に向け、送信ボタンを押して撮影します。

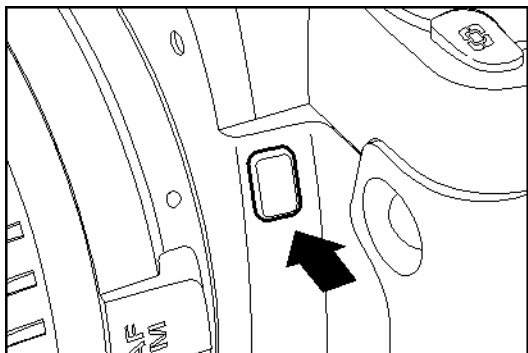
リモコンの電池交換

リモコンのバッテリーが消耗すると、リモコン撮影ができなくなります。撮影ができなくなった時は電池の交換をして下さい。電池はリチウム電池 3V（CR1220）を２個使用します。

1 ＋ドライバーでリモコン本体の止めネジを２本外し、本体を開けます。
2 電池の＋の面を上にして新しい電池を入れます。
3 本体を合わせドライバーでネジを締めます。

電池を交換しても作動しないときは、電池の向きが逆か、電池の性能が低下しているおそれがあります。

プレビューボタンと被写界深度

プレビューボタンを押すとその時の絞り値まで絞り込み、ピントの合う範囲を確認できます。

被写界深度の確認や、ボケの具合を確認することができます。ボタンから指をはなすと絞りは開放に戻ります。押している間は AE ロックが働いています。

被写界深度について

被写体にピントを合わせたときに、その被写体の前後にもピントの合っているように見える範囲があります。被写界深度とはこの鮮明に写るように見える範囲のことを指します。

被写界深度には次のような性質があります。

絞り込むほどに深くなる（ピントの合っているように見える範囲が広くなる）
同じレンズで同じものを撮影したとき、F8 と F22 では F22 の方が深い。

焦点距離が短い（広角）ほど深くなる
同じ距離の被写体を同じ絞りで撮影したとき、28mm と 50mm では 28mm の方が深い。

撮影距離が遠いほど深くなる
同じレンズで同じ絞りで撮影したとき、2m と 5m では 5m の方が深い。

フラッシュ撮影について

エレクトロニックフラッシュ EF-500 **DG** SUPER SA（別売）

エレクトロニックフラッシュ EF-500 **DG** ST SA（別売）

別売のシグマエレクトロニックフラッシュ EF-500 DG SUPER SA、または EF-500 DG ST SA を装着することにより、 STTL 方式による自動調光撮影や、マルチ発光撮影 (EF-500 DG SUPER SA のみ) などの多彩なフラッシュ撮影が可能となります。

EF-500 DG SUPER SA, EF-500 DG ST SA の特長

○ 最大ガイドナンバー50（ISO100 / m、105mm 時）の大光量。

○ 撮影レンズの焦点距離（28-105mm）に合わせて照射角が自動的に変化するオートズーム機能。内蔵のワイドパネルを使用することにより、17mm の画角まで対応します。

○ 上方向、左右方向に発光部を動かすことのできるバウンスヘッド機能。さらに下方向に 7° 動かすこともできますので、近接撮影時に威力を発揮します。

○ 同調速度に左右されず、最高シャッター速度 1/6000 秒まで対応可能な FP 発光(EF-500 DG SUPER SA のみ)。

○ シグマ SA-7、SA-9 にもご使用になれます。

ご注意 !!

● SD9 に使用できるクリップオンタイプのフラッシュは EF-500 **DG** SUPER SA、及び EF-500 **DG** ST SA のみです。名称に **DG** と表記されていない他のシグマ用フラッシュ、シグマ製の他メーカー用のフラッシュ、および他メーカーのフラッシュは使用できません。

PC シンクロターミナルアダプターST-11（別売）について

SD9 は別売の PC シンクロターミナルアダプターST-11 を使用して、シンクロコード接続のフラッシュを使用することができます。スタジオ撮影等に便利なアクセサリーです。

ご注意 !!

- PC シンクロターミナルアダプターST-11 を使用してのフラッシュ撮影では、S-TTL による自動調光撮影はできません。
- カメラの露出モードを **M**、シャッター速度をフラッシュ同調速度 1/180 秒以下にセットし、ご使用のフラッシュの使用説明書に従って撮影して下さい。
- シンクロ端子極性が、中央のピンがプラス、外周部がマイナスのもののみ対応しています。逆の極性のものをご使用の場合は市販の変換コード等を利用してください。

警 告!!

- シンクロ端子電圧が 250V 以上のフラッシュは使用できません。カメラの故障の原因となります。シンクロ端子の仕様につきましては、各メーカーにお問い合わせください。

撮影画像の再生、消去、編集

ここでは、撮影した画像の再生、消去、編集の仕方について説明します。

メ モ

- 他のカメラで撮影した画像や、ファイル名を変更したり、CF カード内の IMAGES フォルダから移動させた画像ファイルは、表示できない場合があります。画像ファイルの名前や番号についての詳しい内容は「ファイル番号の設定」をご覧ください。（**P.30**）

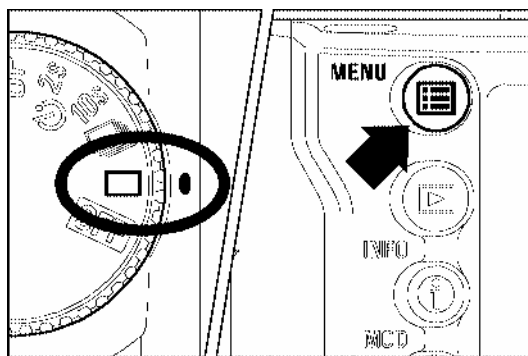
撮影画像確認

SD9 では、撮影後すぐに液晶モニタに画像を自動的に表示させることができます。この機能は、露出や構図を即座にチェックするのに役立ちます。

撮影画像確認時間の設定

撮影直後の画像を液晶モニタに表示させる時間を設定します。表示させない、もしくは他の操作をするまで表示させることもできます。設定の変更はセットアップメニューで行います。

撮影画像確認時間設定項目

設定項目	設定内容
切	表示しません
2 秒（初期設定）	2 秒間表示します。（液晶モニタが 2 秒後に自動的に消えます。）
5 秒	5 秒間表示します。
10 秒	10 秒間表示します。
ホールド	①シャッターボタンを押す ②**CANCEL** ボタン、**MENU** ボタンのいずれかを押す ③LCD スリープかオートパワーオフの設定時間に達する、のいずれかの操作をするまで表示し続けます。

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の<☰ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

カメラ情報　…
ホワイトバランス　オート
カスタムWB　…
日付/時間　12/29/2001
言語/Language　日本語
撮影画像確認　▶5秒
確認画面の設定　情報画面

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「撮影画像確認」を選択します。

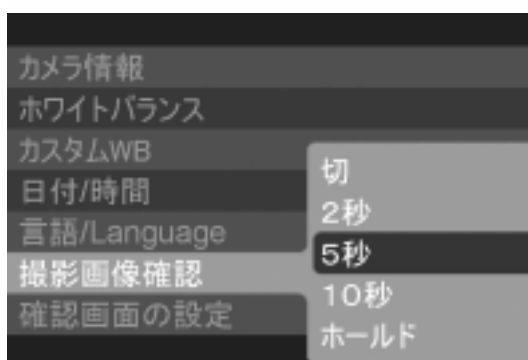
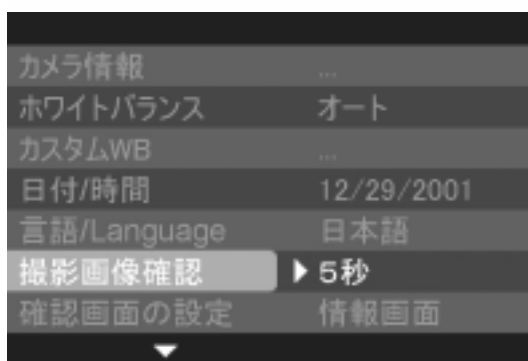
4

十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

十字コントローラーの<▲/▼>で希望の表示時間を選択します。

6

設定する場合は、十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを、設定を変更しない場合は<◀>か<✖ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

メモ

- 手動で撮影画像確認画面の表示を消す場合は、<✖ **CANCEL**>ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして下さい。
- 撮影画像確認画面では、拡大表示、モディファイメニューの各操作、他の画像への切りかえはできません。
- <✔**OK**>ボタンの設定により撮影画像確認画面の表示中に以下の操作が可能になります。
  * 露出警告の表示/非表示、*「ロック/解除」、*「マーク/解除」、*「回転 ↱」、*「回転 ↰」
  詳しくは **P.90** をご覧ください。
- 撮影画像確認画面の表示中に<▶ **VIEW**>ボタンを押すと、撮影画像確認で設定された時間は無視され、表示が継続されます。

撮影画像確認画面の設定

再生画像は、露出警告なしのフルスクリーン、情報スクリーンのいずれかで表示できます。設定の変更はセットアップメニューで行います。

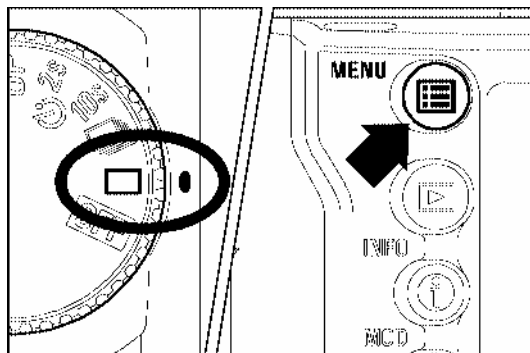
撮影画像確認画面設定項目

設定項目	設定内容
画像のみ（初期設定）	フル画面で再生する。
情報画面	情報画面で再生する。

カメラ情報 …
ホワイトバランス オート
カスタムWB …
日付/時間 12/29/2001
言語/Language 日本語
撮影画像確認 5秒
確認画面の設定 ▶ 画像のみ

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の<**MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「確認画面の設定」を選択します。

4

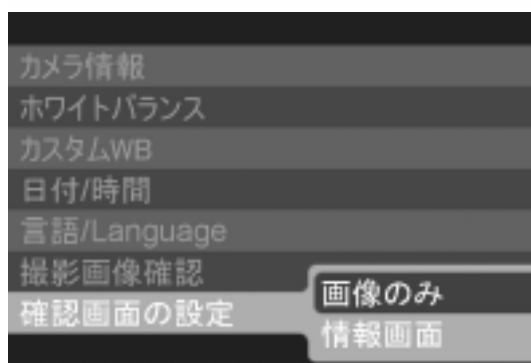
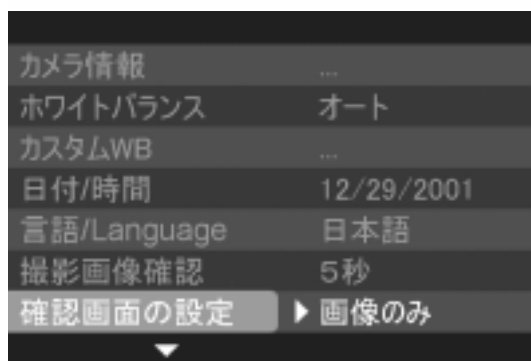
十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

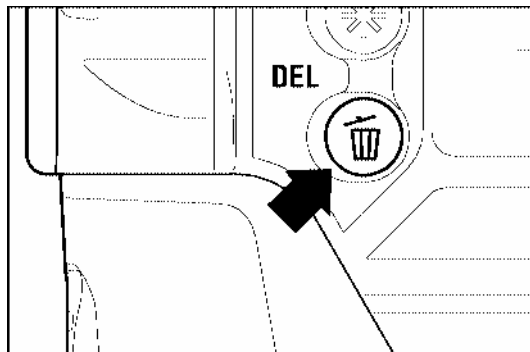
十字コントローラーの<▲/▼>で希望の表示タイプを選択します。

6

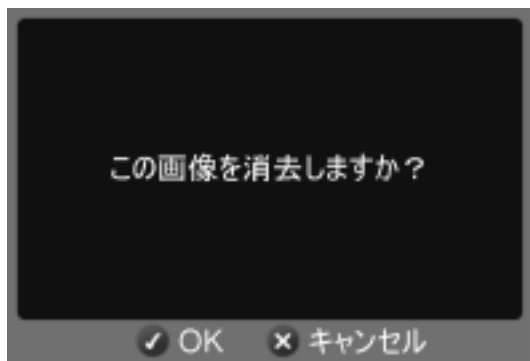
設定する場合は十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを、設定を変更しない場合は<◀>か<✕ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

メ モ

- <ⓘ INFO>ボタンを押すと、画面設定に関わらず現在表示されている再生画像を、フル画面と情報画面とに切り換えることができます。

撮影確認画像を消去する

液晶モニタに表示されている撮影確認画像のデータを消去することができます。

1

撮影確認画像が表示中に<🗑 **DEL**>ボタンを押します。

- 確認ダイアログが開きます。

2

消去する場合は<✔ **OK**>ボタンを、しない場合は<✖ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

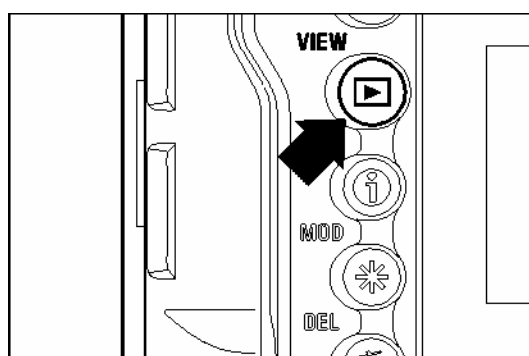
- 画像が消去されると確認ダイアログが閉じ、液晶モニタが消灯します。

メ モ

- 誤って消去した場合は、消去の取り消しをすることができます。（消去の取り消しについては **P.80** をご覧ください。）

撮影画像の再生

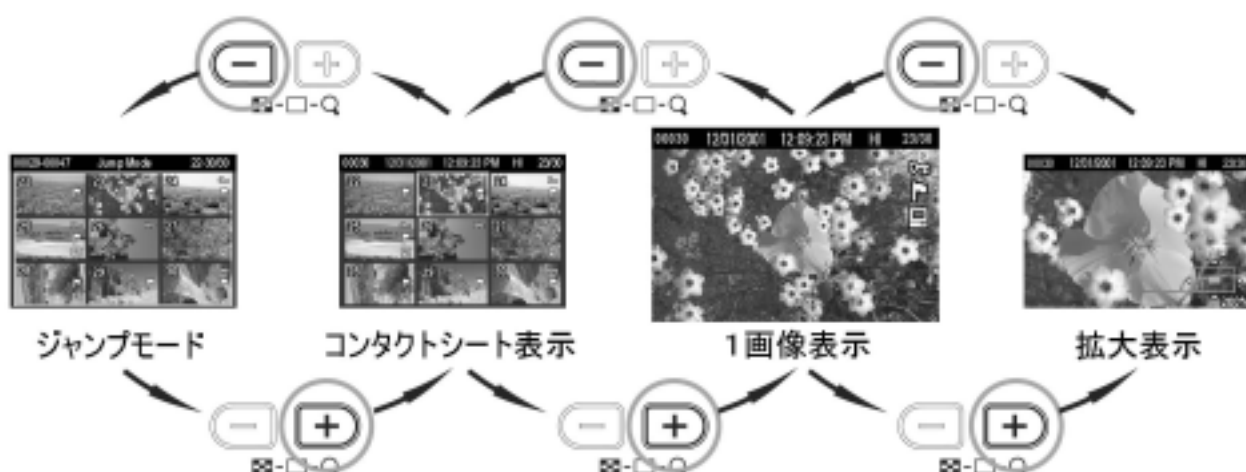
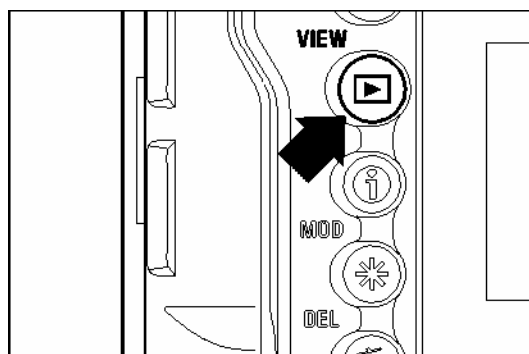
SD9 で撮影した画像を様々な方法で再生することができます。

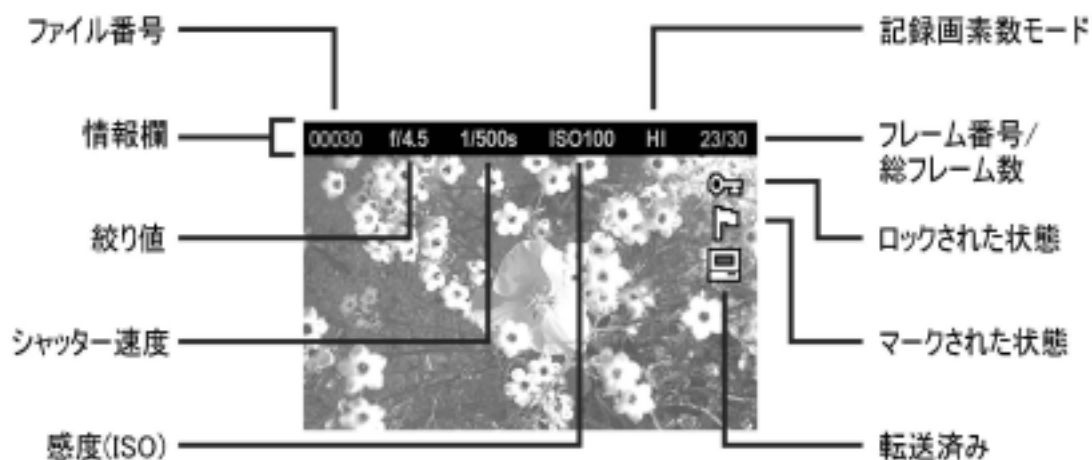
SD9 で撮影した画像を再生するには、本体背面の<▶ **VIEW**>ボタンを押します。CF カードに最後に記録された画像が、1 画像再生で液晶モニタに表示されます。

本体背面の<▶ **VIEW**>ボタンを押すと、液晶モニタが点灯し画像が再生されます。

- 再度、<▶ **VIEW**>ボタンを押すと液晶モニタが消灯します。

メモ

- 撮影画像を再生してから新たに撮影した画像がない場合は、最後に再生した画像が表示されます。
- CF カードに画像がない場合は、"画像がありません" と警告表示されます。（**P.110** 参照）
- 画像の再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

ズームコントローラー<━/╋>を使用すると画像再生の表示の仕方を切り替えることができます。

1 画像再生

記録された画像を見るには、本体背面の<▶ VIEW>ボタンを押します。

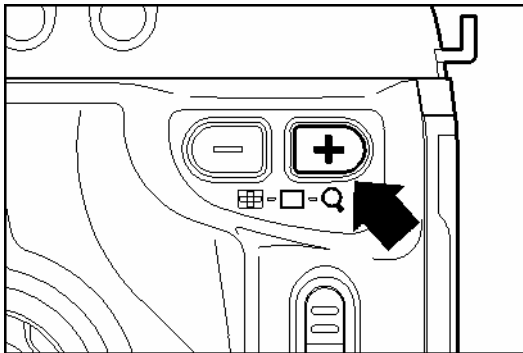
<✕ CANCEL>ボタンを押すと、ジャンプモードやコンタクトシート表示、拡大表示から 1 画像再生に戻ります。

1 画像再生中は：

- 十字コントローラーの<▶>を押すと、次の画像を表示します。
- 十字コントローラーの<◀>を押すと、前の画像を表示します。
- 十字コントローラーの<▼>を押すと、3 コマ次の画像を表示します。
- 十字コントローラーの<▲>を押すと、3 コマ前の画像を表示します。

メモ

- 画像データの読み込みが終わるのを待たずに、次の画像に移ることができます。
- 十字コントローラーを押したままにすると、より速く画像を切り替えることができます。画像の切替えは、ボタンを離すまで自動的に行われます。
- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の画像で十字コントローラーの<◀>を押すと最後の画像が表示されます。また、最後の画像で十字コントローラーの<▶>を押すと最初の画像が表示されます。

拡大して表示する（拡大表示）

画像を詳細に見たりピントをチェックするのに、記録画素数によっては 5 段階の拡大表示ができます。

1 画像再生でズームコントローラーの<＋>を押します。

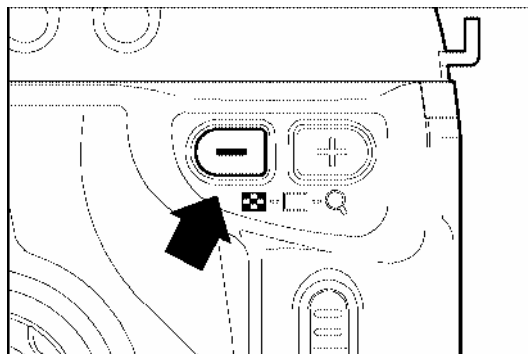
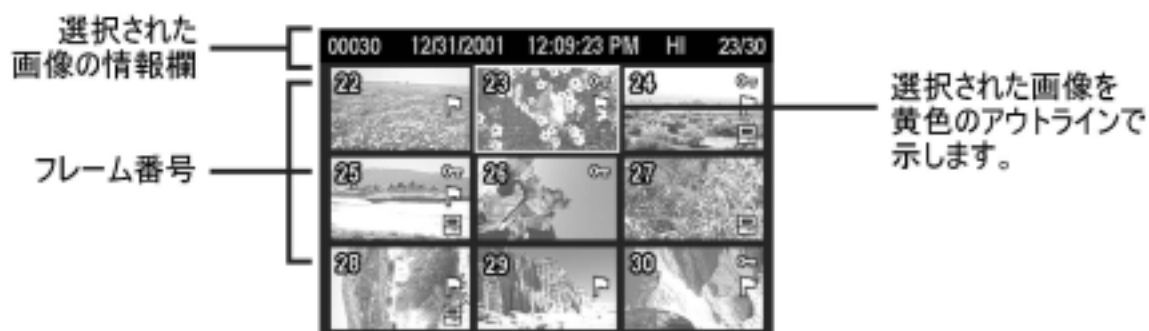
拡大表示中は：

- ズームコントローラーの<＋>を押すと拡大されます。最大倍率は 400%です。
- ズームコントローラーの<－>を押すと縮小されます。
- 十字コントローラーの<▲/▼>で上下方向に、<◀/▶>で左右方向に再生部分を移動できます。
- <✕ CANCEL>ボタンを押すと、1 画像再生表示に戻ります。

メモ

- 拡大表示中は十字コントローラーで画像の切替えは出来ません。ズームコントローラーでフル画像に戻った時、もしくは<✕ CANCEL>ボタンを押して拡大表示から抜けると、十字コントローラーによる画像の切替えが出来るようになります。

9 画像表示（コンタクトシート表示）

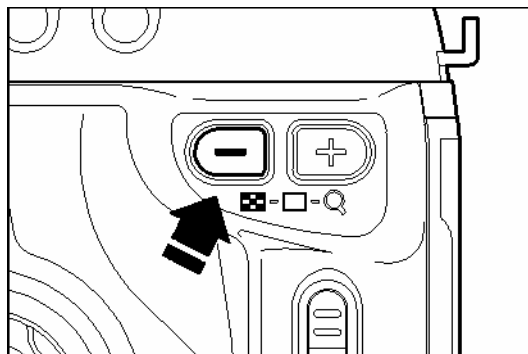
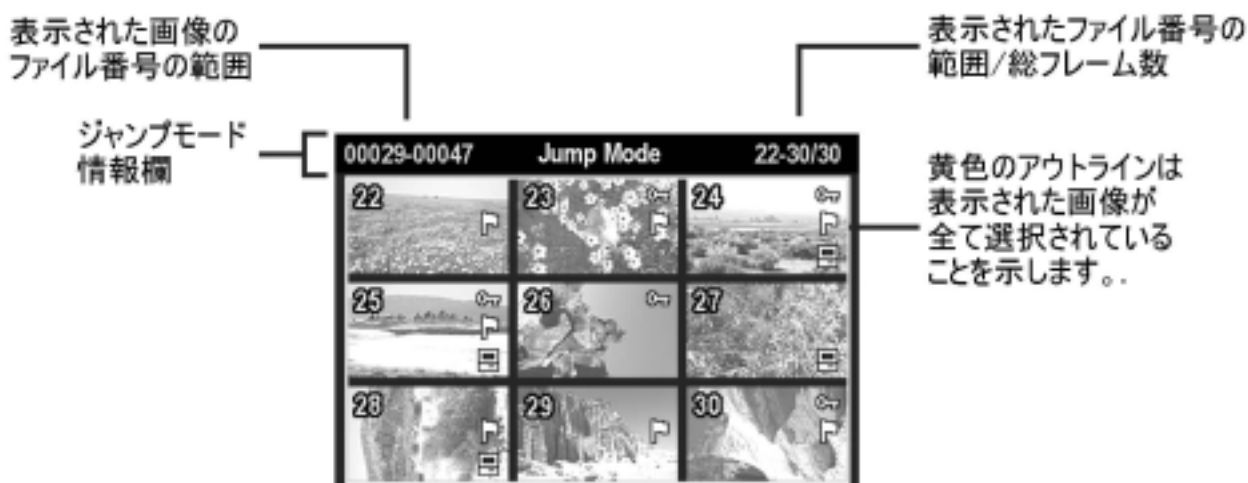
9 画面表示の「コンタクトシート」では、複数の画像を一度に表示することができます。

1 画像再生でズームコントローラーの<━>を押します。

コンタクトシート表示では：

- 十字コントローラー<▲/▼/◀/▶>で画像の選択切替えができます。
- ズームコントローラーの<＋>か< ✕ **CANCEL**>ボタンを押すと、1 画像再生に戻ります。
- ズームコントローラーの<━>を押すとジャンププモードになります。

メモ

- 最後の列で十字コントローラーの<▶>を押すと、最初の 9 画像が表示されます。

1度に1ページ表示する（ジャンプモード）

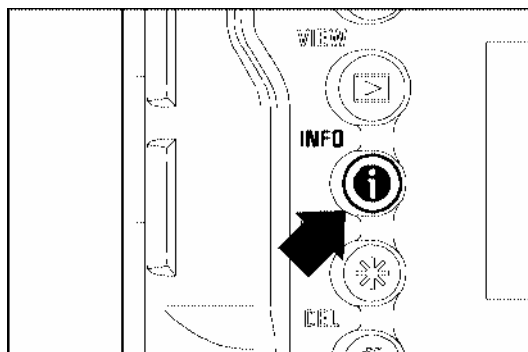
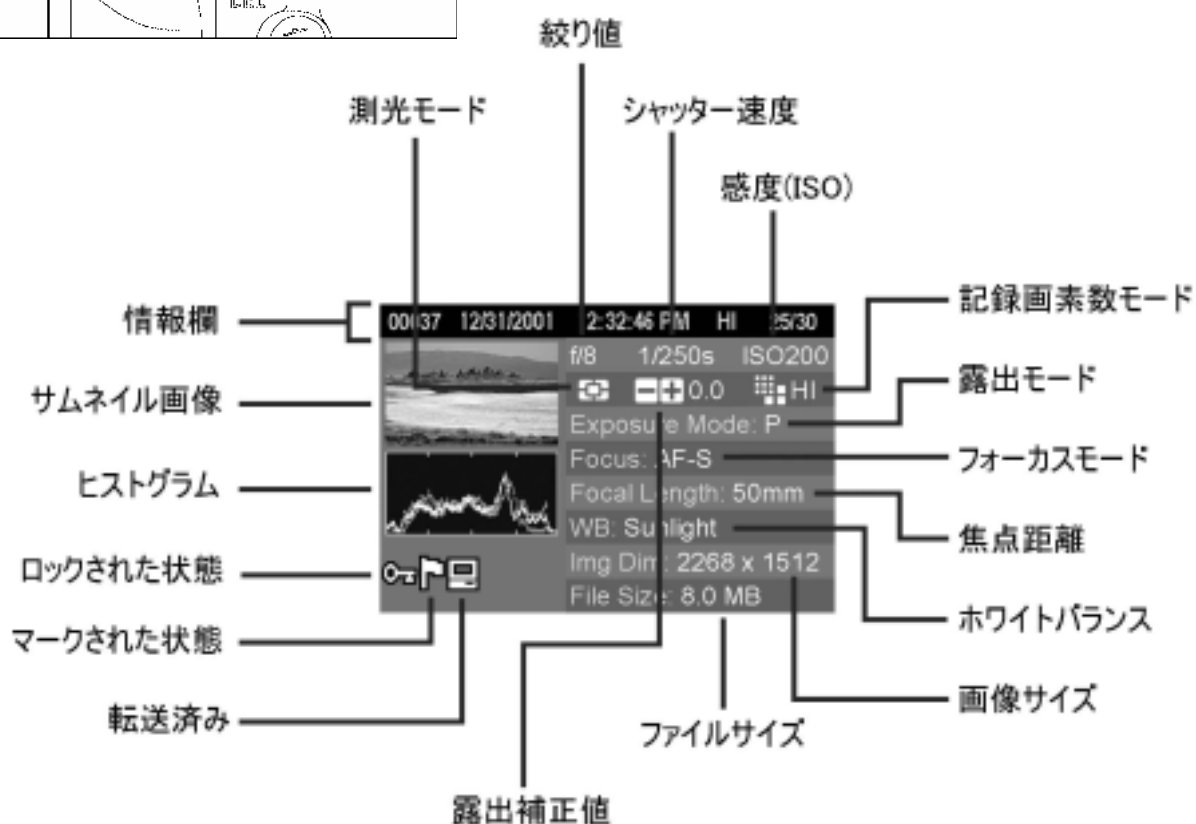
より速く画像をまとめて見たり、最初あるいは最後のページに一気にスキップするときにジャンプモードを使用します。

1 画像再生でズームコントローラーの<━>を 2 回（コンタクトシート表示からは 1 回）押します。

ジャンプモードでは：

- 十字コントローラーの<▼>押すと、次のページを表示します。
- 十字コントローラーの<▲>押すと、前のページを表示します。
- 十字コントローラーの< ▶ >押すと、最後のページを表示します。
- 十字コントローラーの< ◀ >押すと、最初のページを表示します。
- ズームコントローラーの<✚>を押すと、コンタクトシート表示に戻ります。
- <✖ **CANCEL**>ボタンを押すと、1 画像再生に戻ります。

メモ

- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の 9 画像のページで十字コントローラーの<▲>を押すと、最後のページが表示されます。最後のページで十字コントローラーの<▼>を押すと、最初のページが表示されます。

画像情報を見る

<ⓘ INFO>ボタンを押すと、画像ごとの追加情報が表示されます。シャッター速度や絞り値以外に、測光モードやフォーカスモードなど、詳細な情報が表示されます。（画像情報スクリーン）

1 画像再生、コンタクトシート表示、拡大表示で、<ⓘ **INFO**>ボタンを押します。

画像情報スクリーンでは：

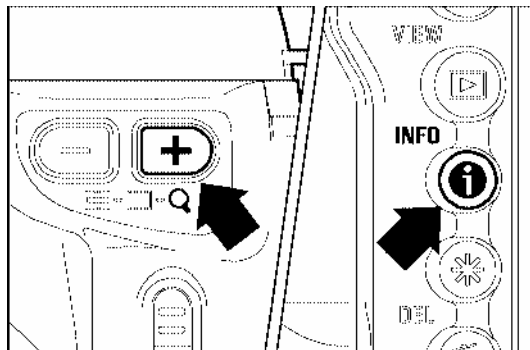
- 再度、<ⓘ **INFO**>ボタンを押すか、< ✕ **CANCEL**>ボタンを押すと直前の再生モードに戻ります。
- 1 画像再生と同様に、十字コントローラー<▲/▼/◀/▶>で画像の切替えができます。（例外については次の項目を参照）

ご注意 !!

- 露出補正値の欄は、露出モードが **M** の時は露出メーターの数値が表示されます。適正より 3 段を越えて撮影されても、露出メーターの表示範囲（±3.0）を越えた表示はされません。

拡大表示での画像情報スクリーン

拡大表示で画像情報スクリーンにすると、画像の特定領域の詳細なヒストグラム情報を見ることができます。

- ヒストグラムについての詳細は次の項目をご覧ください。

1

画像を任意の倍率にし、調べたい領域を表示させせます。（**P.69** 参照）

2

<ⓘ **INFO**>ボタンを押します。

拡大された部分の画像が小さく表示され、その部分のみのヒストグラム値が表示されます。

拡大部の画像情報スクリーンでは：

- 十字コントローラーの<▲/▼>で上下方向に、 <◀/▶>で左右方向に再生部分を移動できます。（ヒストグラム値が自動的に変わります。）
- ズームコントローラー<━/✚>で拡大縮小ができます。
- <✕ **CANCEL**>ボタンを押すと、拡大表示を解除しフル画像の画像情報スクリーンが表示されます。（再度、<✕ **CANCEL**>ボタンを押すと画像情報スクリーンを閉じます。）
- <ⓘ **INFO**>ボタンを押すと画像情報スクリーンを閉じ、拡大表示に戻ります。

メモ

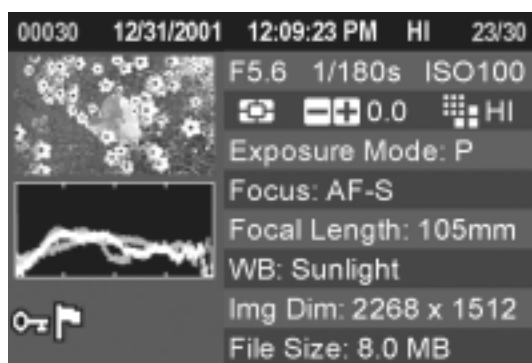
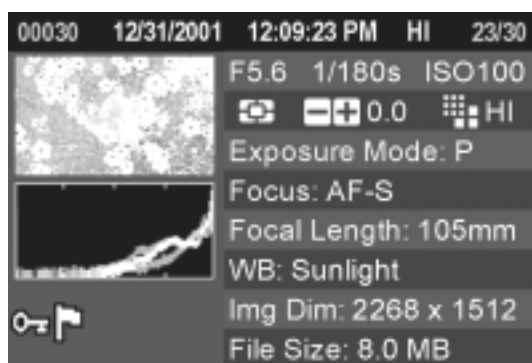
- 拡大部の画像情報スクリーン表示中は、十字コントローラーで画像の切替えを行うことは出来ません。ズームコントローラーでフル画像に戻った時、もしくは<✕ **CANCEL**>ボタンを押して拡大表示を終了すると、切替えができるようになります。

ヒストグラム

ヒストグラムは、画像の明るさの分布をグラフ表示にしたものです。水平軸は明るさのレベルを示し、左方向ほど暗く、右方向ほど明るくなります。垂直軸は各明るさの画素の登場回数を表しています。グラフの分布状態を見ることにより、露出の判断の参考にすることができます。

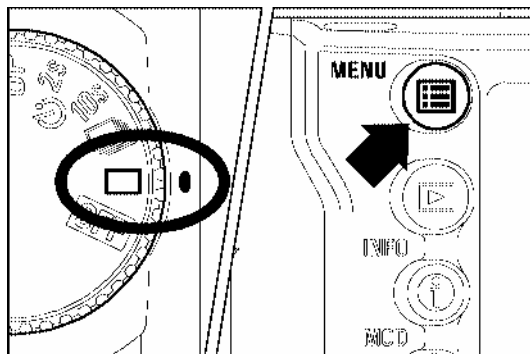
SD9 のヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。

フル画像時のヒストグラムを調べることによって、画像全体の露出を判断することができます。また、拡大表示でのヒストグラムを見ることにより、任意の部分の露出を判断することもできます。

このヒストグラムは､画素の分布が暗い方向にかたより､明るい方向に殆ど存在していません｡従って露出不足で全体に暗めの画像であることを示しています。
一般に左側にかたよっているヒストグラムは､上記のように露出が不足している場合か､もしくは適正露出でも､暗い部分や暗めの被写体が画面に占める割合が大きく､暗い画素で構成された画像の場合です。

このヒストグラムは､ほぼ均一に画素が分布されており､適正に露出された画像であることを示しています｡ただしヒストグラムは､被写体の色や画面に占める割合などによって大きく左右されますので､一概に適正露出であるとは限りません。

このヒストグラムは､画素の分布が明るい方向にかたより､右端に多くの画素が存在しています。従って露出オーバーで全体に明るめ画像であることを示しています。
一般に､右側にかたよっているヒストグラムは､上記のように露出がオーバーしている場合か､もしくは適正露出でも明るい部分や明るめの被写体が画面に占める割合が大きく､明るい画素で構成された画像の場合です。

露出オーバー警告

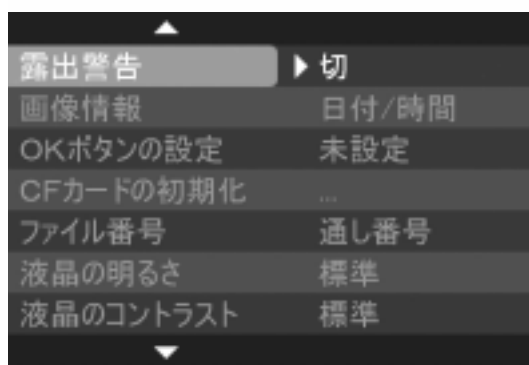
露出オーバーで画像が飛んでしまっているハイライト部分を、赤の点灯で表示します。露出オーバー警告は、画像情報スクリーンでは常に表示されますが、その他の表示では消すことができます。

露出警告	▶ 切
画像情報	日付/時間
OKボタンの設定	未設定
CFカードの初期化	...
ファイル番号	通し番号
液晶の明るさ	標準
液晶のコントラスト	標準

露出オーバー警告の消し方

1

Dダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の<▤ **MENU**>ボタンを押して、セットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「**露出警告**」を選択します。

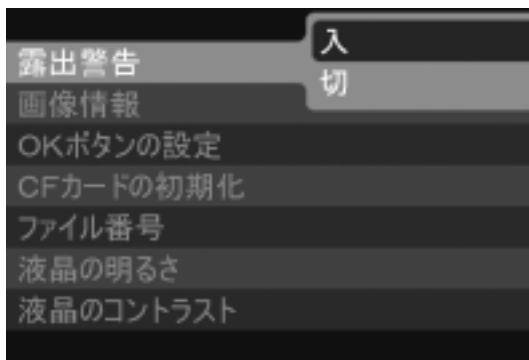
4

十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

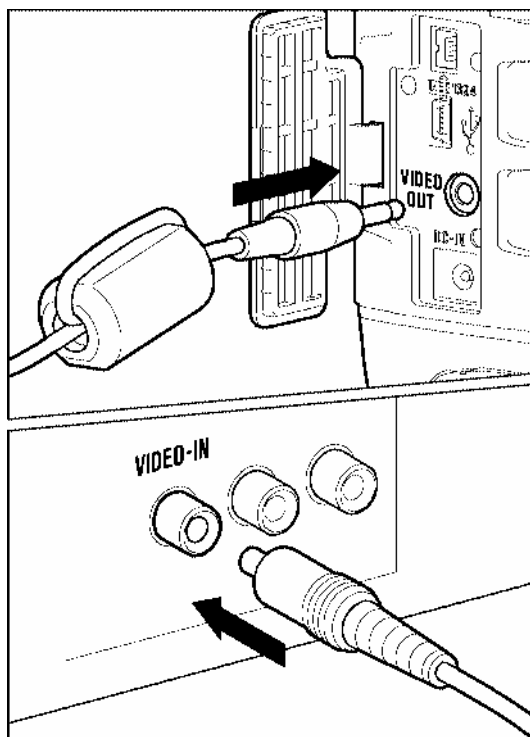
十字コントローラーの<▲/▼>で「**切**」を選択します。

6

設定する場合は、十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを、しない場合は<◀>か<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。

メ モ

- <✓ **OK**>ボタンを「露出警告」入／切のショートカットボタンに設定することもできます。（**P.90** 参照）<✓ **OK**>ボタンの設定は、上記セットアップメニューによる「露出警告」の設定内容に影響しません。

TV で見る

SD9 では、付属のビデオケーブルを使用してテレビやビデオデッキに接続し、記録した画像をテレビで見たり、ビデオに録画することができます。

ビデオ機器との接続

1

コネクターカバーを開きます。

2

ビデオケーブルをカメラの<**VIDEO OUT**>端子と、テレビやビデオデッキのビデオ入力端子に接続します。

3

カメラとビデオ機器の電源を入れます。

警 告 !!

● ビデオ機器との接続には、付属の専用ビデオケーブル以外は使用しないで下さい。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。

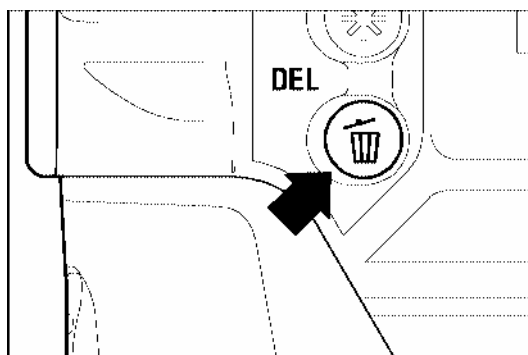
メ モ

● 電池の消耗を防ぐため、付属の AC アダプターを使用することをお薦めします。
● ビデオ出力のモードは、初期設定では NTSC 方式になっています。PAL 方式の機器に接続する場合は、セットアップメニューでビデオ出力のモードを PAL 方式に変更してお使い下さい。（**P.96** 参照）

画像の消去

CF カードに記録された画像を消去する方法を説明します。

CF カードに記録された画像を、デリートメニューで 1 画像ずつあるいは複数まとめて消去することができます。誤って消去しても元に戻すことも可能です。

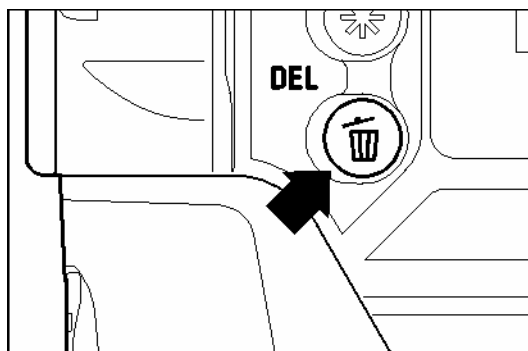
- デリートメニューは、ジャンプモードや画像情報スクリーンの他に、全ての再生モード（1 画像再生、コンタクトシート表示、拡大表示）で開くことができます。

デリートメニューの開き方

本体背面の< **DEL**>ボタンを押して下さい。

- 取り消す場合は、再度< **DEL**>ボタンを押すか、<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。

デリートメニュー

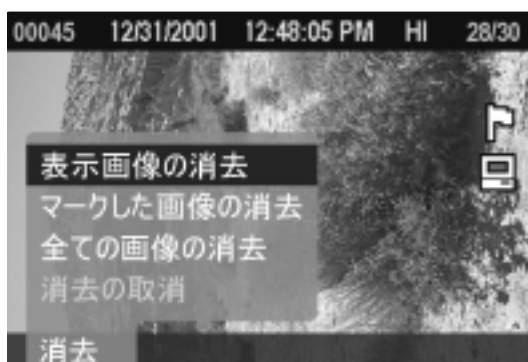
メニュー項目	設定内容
表示画像の消去	現在選択されている画像のみ消去します。 （ジャンプモードから開いている場合は選択できません。）
マークした画像の 全消去	CF カード内に記録されたマークした画像を全て消去します。 （画像のマークについては **P.85** をご覧ください。）
全ての画像の消去／ ロックしていない画像の全消去	CF カードに記録された全ての画像を消去します。ロックされた画像がある場合は、メニュー項目の表示が「ロックしていない画像の全消去」に変わります。 （画像のロックについては **P.82** をご覧ください。）
消去の取消	誤って消去した画像をもとに戻します。

1 画像消去する

1

コンタクトシート表示か 1 画像再生で、消去する画像を十字コントローラーの<▲/▼/◀/▶>で選択します。

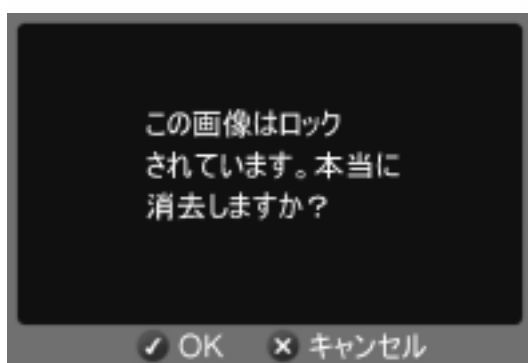
2

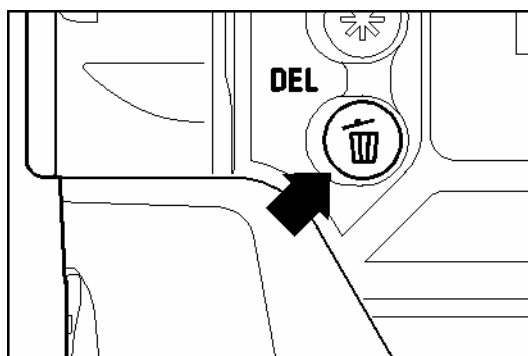
<🗑 **DEL**>ボタンを押してデリートメニューを開きます。

- 初期設定では「**表示画像の消去**」が選択されています。

3

<✓ **OK**>ボタンを押して消去します。

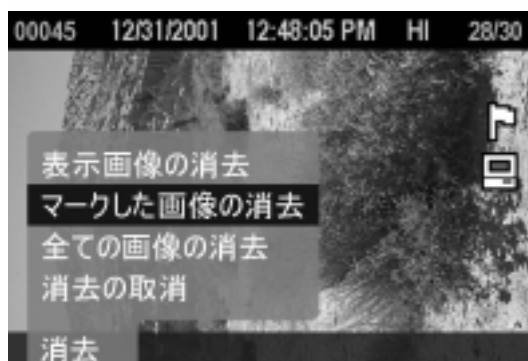
- 画像がロックされていない場合は、確認なしに消去します。
- 画像がロックされている場合は、本当に消去して良いか確認ダイアログが開きます。画像のロックを解除して消去する場合は<✓ **OK**>ボタンを、しない場合は<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。.

メモ

- 誤って消去した場合は、消去の取り消しをすることができます。（消去の取り消しについては **P.80** をご覧ください。）
- ジャンプモードからデリートメニューを開いた場合は、「**表示画像の消去**」は選択できません。代わりに「**マークした画像の全消去**」が初期設定で選択されています。

複数の画像を消去する

1

<🗑 **DEL**>ボタンを押してデリートメニューを開きます。

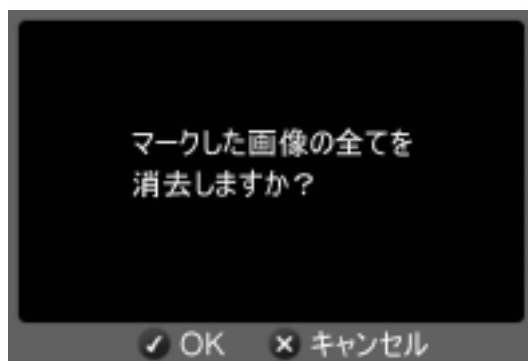
2

十字コントローラーの<▲/▼>で「**マークした画像の全消去**」あるいは「**すべての画像の消去**」を選択します。

- ロックされた画像がある場合は、「**マークした画像の全消去**」はロックされていない画像のみを消去する「**ロックしていない画像の全消去**」に変わります。ロックされた画像を消去するには、初めにロックを解除して下さい（**P.82** 参照）。すべての画像がロックされている場合には複数の画像の消去はできません。
- マークされた画像がない場合は、「**マークした画像の全消去**」は選択できません。

3

<✔**OK**>を押すと、確認ダイアログが開きます。

4

全ての画像を消去する場合は<✔**OK**>ボタンを、消去を中止する場合は<✖**CANCEL**>ボタンを押して下さい。

メモ

- ロックとマークがかけられた画像は、「**マークした画像の全消去**」では消去できません。ロックされた画像は初めにロックを解除して下さい。マークされた画像はロックされない限り消去から保護されません。
- 画像以外のファイルや、ロックされた画像を含む全ての画像ファイルを消去する場合は、セットアップメニューの「**CF カードの初期化**」を行います。（**P.29** 参照）

消去の取り消しをする

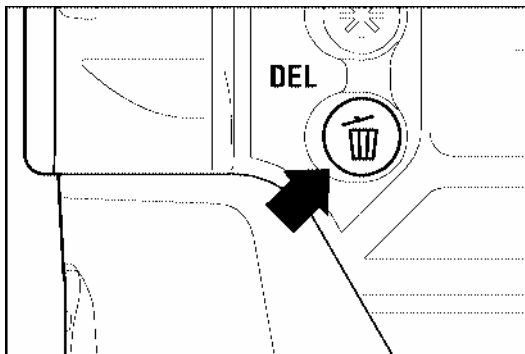
SD9 の特徴的な機能の 1 つが誤って消去した画像をもとに戻す機能です。

警 告 !!

● 消去の取り消し作業は、画像を消去したあと、すぐに実行して下さい。

消去の取り消しは、次のいずれかで消去した場合に可能です。

●撮影画像確認の消去機能で消去した場合。（**P.66** 参照）

●画像再生のデリートメニューの各方法で消去した場合。（**P.77** 参照）

1

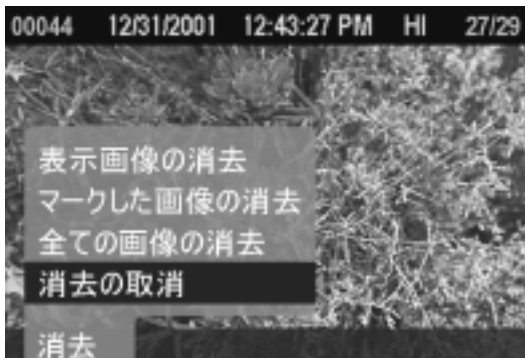
誤って消去したら直ちに<🗑 **DEL**>ボタンを押してデリートメニューを開きます。

2

十字コントローラーの<▲/▼>で「**消去の取消**」を選択します。

● 修復可能な画像がない場合は、「**消去の取消**」は選択できません。

3

<✓ **OK**>ボタンを押すと最後に行った消去が取り消され、画像がもとに戻ります。

•消去の取り消しをすると、消去された画像が元の場所に戻り、選択された状態になります。

•複数画像の消去の取り消しをした場合は、元の並び順で戻り、元に戻った画像の最初のコマが選択された状態になります。

次の操作をしてしまうと、消去の取り消しをすることは出来ません。

●さらに別の画像を消去してしまった場合。

●さらに別の画像を撮影して CF カードに記録してしまった場合。

●カメラの電源を切ってしまった場合。（手動で切った、あるいはオートパワーオフ設定で自動的に切れた）

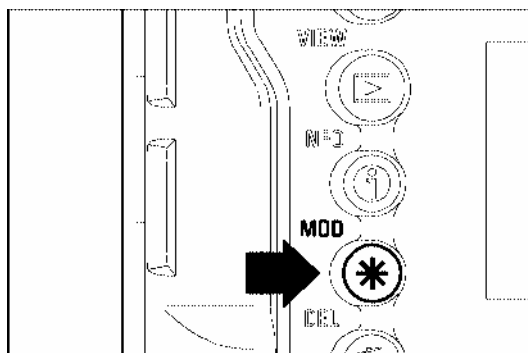
●CF カードをカメラから取り出してしまった場合。

●CF カードを初期化してしまった場合。

●消去の取り消しをする前に、CF カードの空き容量がなくなってしまった場合。

画像を編集する

自動的に画像を再生するほか、ロックしたり、マークしたり、回転させるといった画像の編集をモディファイメニューから行うことができます。

モディファイメニューには、ロックメニュー、マークメニュー、画像回転メニュー、スライドショーがあります。

モディファイメニュー

本体背面の<✳ MOD>ボタンを押します。

- 再度、<✳ MOD>ボタンを押すか<✕ CANCEL>ボタンを押すと、モディファイメニューを閉じます。

メモ

- モディファイメニューは、ジャンプモードや画像情報スクリーン以外にも、全ての再生モード（1 画像再生、コンタクトシート表示、拡大表示）で開くことができます。
- たくさんの画像に同じ編集を簡単に行えるよう、再度メニューを開くと最後に行った編集が選択されています。

画像をロックする

ロックは、誤って画像を消去することを防ぎます。ロックした画像をデリートメニューで消去する場合は、ロックを解除しなければなりません。

画像ロック設定メニュー

メニュー項目	設定内容
ロック／ロック解除	現在選択されている画像のみをロックします。既にロックされている場合は、「ロック解除」と表示されます。 （ジャンプモードから開いた場合は、選択できません。）
マーク画像を全てロック／ マーク画像を全てロック解除	マークされた画像を全てロックします。 （画像のマークは **P.85** をご覧ください。） マークされた画像が既に全てロックされている場合は、「マーク画像を全てロック解除」と表示されます。
全てロック	全ての画像をロックします。
全てロック解除	全ての画像のロックを解除します。

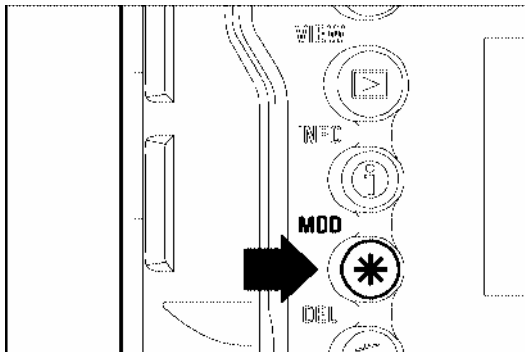
警 告!!

- ロックされていても、CF カードの初期化を行うと画像は消去されます。CF カードの初期化を行うときは十分注意して下さい。

メ モ

- ロックされた画像は、コンピューターでは「読み取り専用」と表示されます。

1 画像ロック

1

コンタクトシート表示や 1 画像再生のとき、十字コントローラーの<▲/▼/◀/▶>でロックする画像を選択します。

2

<✱ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

3

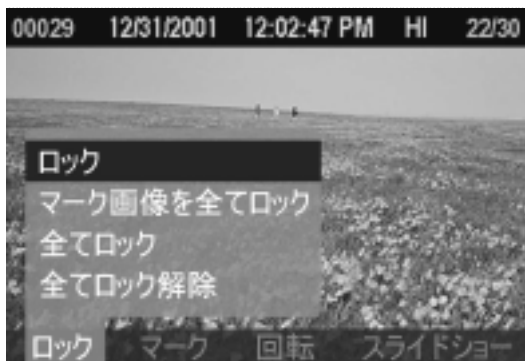
十字コントローラーの<◀/▶>でロックメニューを選択します。

4

十字コントローラーの<▲/▼>で「ロック」を選択します。

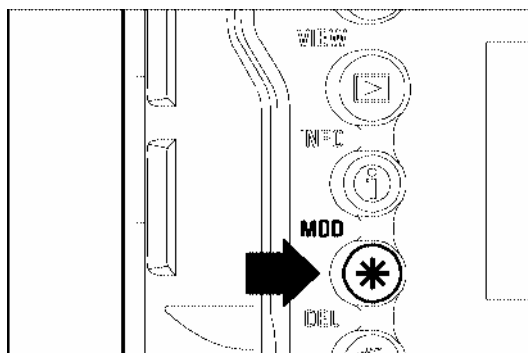
- 選択した画像が既にロックされている場合は、「ロック解除」と表示されます。

5

<✓ **OK**>ボタンを押すとロックします。ロックされた画像には右上隅に マークが表示されます。

メ モ

- ロックを解除するには、ロックされた画像を選択し、上記と同じ手順で解除します。
- ジャンプモードからロックメニューを開いている場合は、「ロック」は選択できません。

複数画像のロック

1

<✱ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

2

十字コントローラーの<◀ / ▶>でロックメニューを選択します。

3

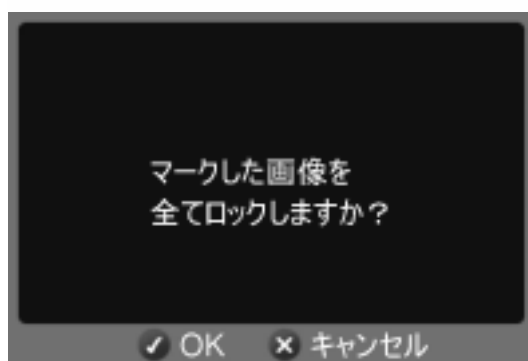
十字コントローラーの<▲/▼>で「マーク画像を全てロック」か「全てロック」を選択します。

- マークされた画像が全てロックされている場合は、「マーク画像を全てロック」は「マーク画像を全てロック解除」と表示されます。
- 全ての画像がロックされている場合は、複数画像のロック機能は選択できません。（「ロック解除」、および「全てロック解除」のみ選択できます。）

4

<✔ **OK**>ボタンを押すと確認ダイアログが表示されます。

5

ロックする場合は<✔ **OK**>ボタンを、ロックしない場合は <✖ **CANCEL**>ボタンを押します。ロックされた画像には全て、右上隅に 🔑 マークが表示されます。

メ モ

- 全ての画像をロック解除するには、ロックメニューの「全てロック解除」を選択します。
- <✔ **OK**>ボタンを画像ロックのショートカットボタンに設定することができます。（**P.90** 参照）

画像をマークする

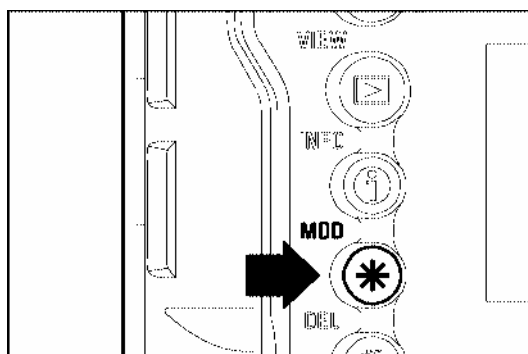
画像をマークすると、お気に入りの画像の区分け、スライドショー用の画像の選別、デリートメニューの「マークした画像の全消去」（**P.79**）で消去する画像の選別に便利です。

画像マーク設定メニュー

メニュー項目	設定内容
マーク／マーク解除	現在選択されている画像のみマークします。既にマークされている場合は、「マーク解除」と表示されます。（ジャンプモードからマークメニューを開いている場合は選択できません。）
全画像マーク	全ての画像をマークします。（既にマークされている場合は、選択できません。）
全画像マーク解除	全てのマークされた画像をマーク解除します。

メモ

- カメラでマークした画像は、**SIGMA Photo Pro** でもマーク状態と表示されます。

1 画像マーク

1
コンタクトシート表示や 1 画像再生で、十字コントローラーの<▲/▼/◀/▶>でマークする画像を選択します。

2
<✳ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

3
十字コントローラーの<◀/▶>でマークメニューを選択します。

4
十字コントローラーの<▲/▼>で「マーク」を選択します。

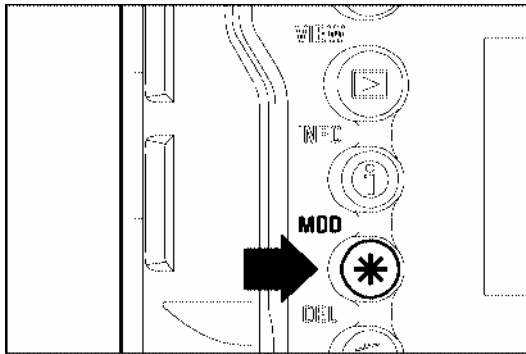
- 選択した画像が既にマークされている場合は、「マーク」は「マーク解除」と表示されます。

5
<✔ **OK**>ボタンを押すと画像をマークします。マークされた画像の右上隅には、⚐ マークが表示されます。

メモ

- マークを解除するには、マークされた画像を選択し上記と同じ手順で解除します。
- ジャンプモードからマークメニューを開いた場合は、「マーク」は選択できません。
- <✔ **OK**>ボタンを画像のマークのショートカットボタンに設定することもできます。（**P.90** 参照）

全画像マーク

1

<✱ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

2

十字コントローラーの<◀ / ▶>でマークメニューを選択します。

3

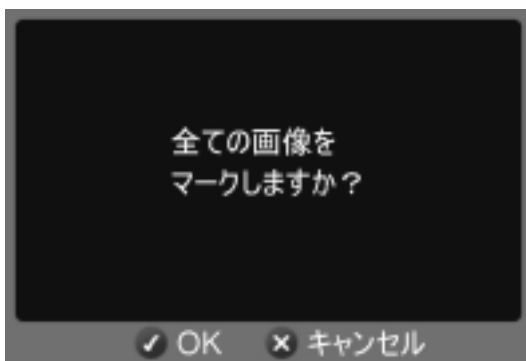
十字コントローラーの<▲/▼>で「**全画像マーク**」を選択します。

- 既に全ての画像がマークされている場合は、「**全画像マーク**」は選択できません。

4

<✓ **OK**>ボタンを押すと確認ダイアログが開きます。

5

マークする場合は<✓ **OK**>ボタンを、マークしない場合は<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。マークされた画像には右上隅に ⚐ マークが表示されます。

メ モ

- マークされた画像を全て解除するには、マークメニューの「**全画像マーク解除**」を選択します。

画像を回転する

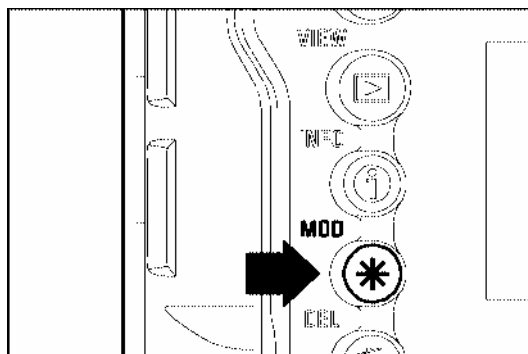
ポートレートなど縦方向で撮った画像を、液晶モニタやテレビで見やすいように回転させることができます。向きを変えた画像は、スライドショーのほかにも全ての再生モードで変更されています。

メ モ

- 画像を回転させると画面の表示は小さくなりますが、画像データのクオリティは変わりません。
- カメラで回転させた画像は、**SIGMA Photo Pro** でも同じ向きで表示されます。

画像回転設定メニュー

メニュー項目	設定内容
回転 ↷	現在選択されている画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
回転 ↶	現在選択されている画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。

1

コンタクトシート表示や 1 画像再生のとき、十字コントローラーの<▲/▼/◀/▶>で回転させる画像を選択します。

2

<✱ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

3

十字コントローラーの<◀/▶>で回転メニューを選択します。

4

十字コントローラーの<▲/▼>で回転方向（時計回り「回転 ↷」あるいは反時計回り「回転 ↶」）を選択します。

5

画像を回転させる場合は<✓ **OK**>ボタンを、しない場合は<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。

メ モ

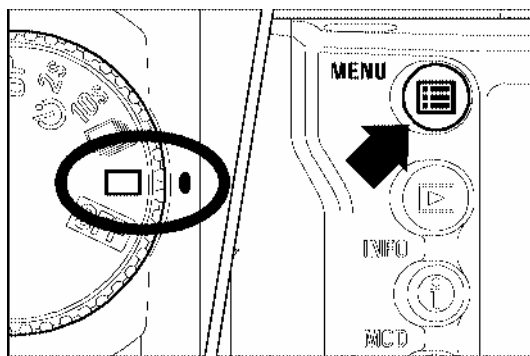
- 180 度回転する場合は同じ方向に 2 回、回転させます。
- 元に戻すには、反対方向に回転させます。
- <✓ **OK**>ボタンを画像回転のショートカットボタンに設定することもできます。（**P.90** 参照）
- ジャンプモードからは画像回転メニューは選択できません。

OK ボタンに機能を割り当てる（ショートカットボタン）

<✓ **OK**>ボタンに他の機能を割り当てることができます。よく使う機能を割り当てて、1 アクションで簡単に行うことができます。

OK ボタンに割り当て可能な機能
- 画像のロック
- 画像のマーク
- 画像の回転
- 露出警告

ショートカットボタンの設定

1

本体背面の<☰ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

2

十字コントローラーの<▲/▼>で「**OK ボタンの設定**」を選択します。

3

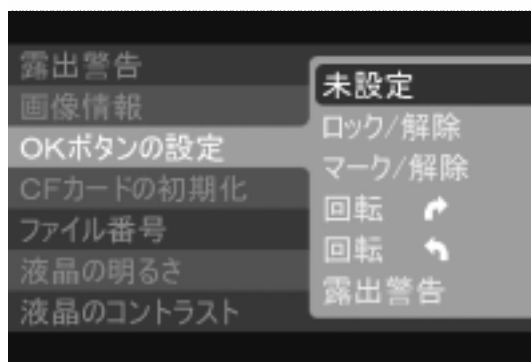
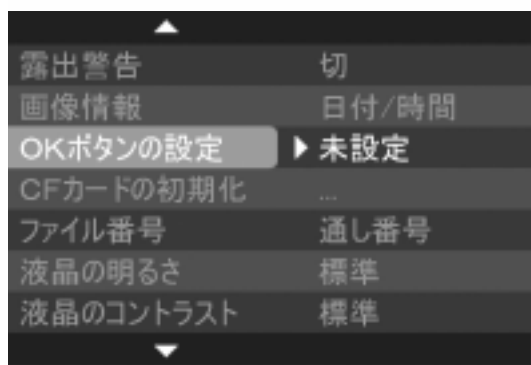
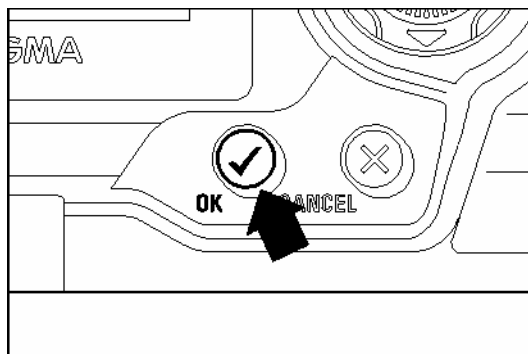
十字コントローラーの<▶>か、<✓ **OK**>ボタンを押すとサブメニューが開きます。

4

十字コントローラーの<▲/▼>で希望のショートカットを選択します。ショートカットの項目には「**未設定**」、「**ロック／解除**」、「**マーク／解除**」、「**回転** ↷」、「**回転** ↶」、「**露出警告**」があります。

5

設定する場合は十字コントローラーの<▶>か<✓**OK**>ボタンを、設定しない場合は<◀>か<✕ **CANCEL**>ボタンを押します。

割り当てた機能を解除するには、サブメニューの「**未設定**」を選択して下さい。

割り当てされた<✓ **OK**>ボタンの使い方

1

<▶ **VIEW**>ボタンを押して記録されている画像を開きます。

2

十字コントローラーの<▲/▼/◀ / ▶>で画像を選択します。

3

<✓ **OK**>ボタンを押します。割り当てられた機能に応じて以下のような状態になります。

＊「**ロック／解除**」に設定した場合

ロックしていない画像上<✓ **OK**>ボタンを押すとロックされます。既にロックされている画像上で<✓ **OK**>ボタンを押すとロックが解除されます。

＊「**マーク／解除**」に設定した場合

マークしていない画像上で<✓ **OK**>ボタンを押すとマークされます。既にマークされている画像上で<✓ **OK**>ボタンを押すとマークが解除されます。

＊「**回転** ↷」、もしくは「**回転** ↶」に設定した場合

<✓ **OK**>ボタンを押すたびに、画像が設定した回転方向に 90 度回転します。

＊「**露出警告**」に設定した場合

セットアップメニューの「**露出警告**」が「**入**」にセットされていると、<✓ **OK**>ボタンを押している間だけ露出警告表示が OFF になります。「**切**」にセットされていると、<✓ **OK**>ボタンを押している間だけ、露出警告表示が ON になります。

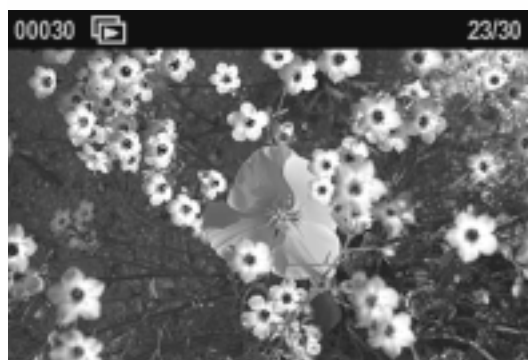
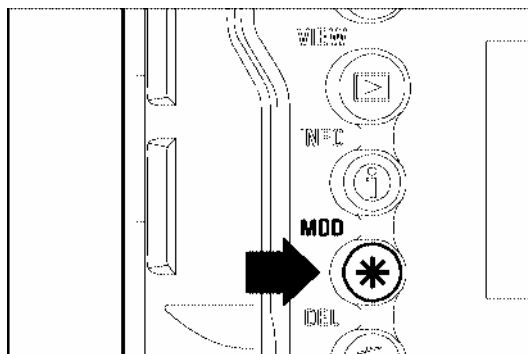
ご注意!！

- ダイアログボックスやメニュー、エラー表示が出ている場合は、<✓ **OK**>ボタンをショートカットボタンとして使用することはできません。
- ジャンプモードでは<✓ **OK**>ボタンをショートカットボタンとして使用することはできません。

スライドショーを見る

SD9 のスライドショー機能を使用すると、全ての画像あるいは選択した画像のみを自動的に再生します。

スライドショーメニュー

メニュー項目	設定内容
再開	停止していたスライドショーを再開します。（停止していなければ使用できません。）
全画像	全ての画像のスライドショーをします。
マークのみ	全てのマークされた画像のスライドショーをします。
ロックのみ	全てのロックされた画像のスライドショーをします。
設定	スライドショーの設定を変更します。

スライドショーの見方

1

特定の画像を選択してスライドショーを見たい場合は、見たい画像にマークやロックをします。

2

<✱ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

3

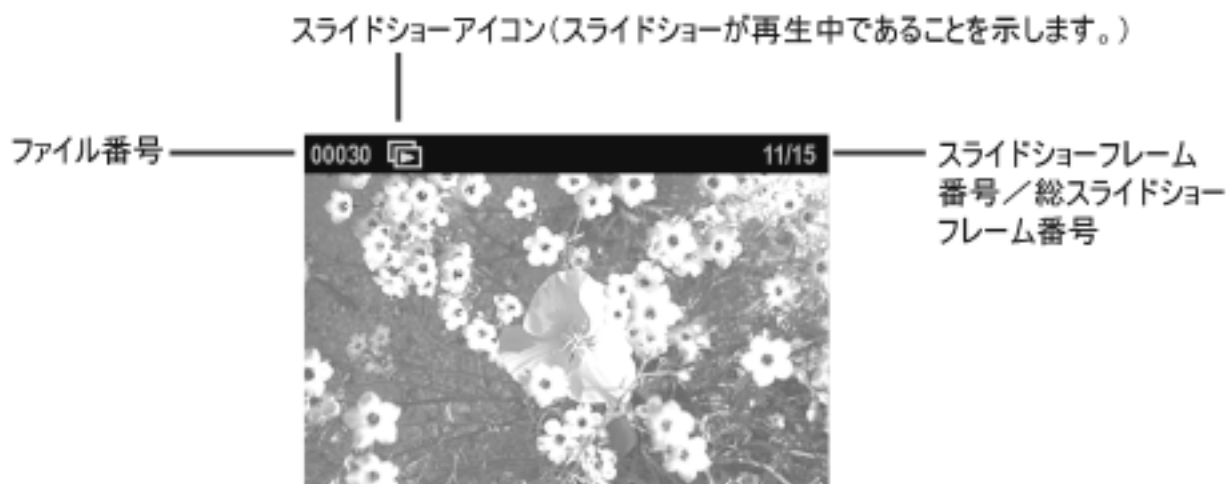
十字コントローラーの<◀/▶>でスライドショーメニューを選択します。

4

十字コントローラーの<▲/▼>で項目（全画像、マークのみ、ロックのみ）を選択します。

5

<✔ **OK**>ボタンを押すと、モディファイメニューが閉じ、スライドショーが始まります。

メ モ

- スライドショーの最中は、<INFO>、<MOD>、<DEL>、ズームコントローラー<ー/＋>の各ボタンは機能しません。追加情報を見たり、画像の消去や編集をするには、<CANCEL>ボタンでスライドショーを中止して下さい。
- オートパワーオフと LCD スリープは、スライドショー中は働きません。
- 電池の消耗を防ぐため、スライドショー中は AC アダプターの使用をお薦めします。
- 最良の状態で見るために、スライドショーで見る画像を正しい向きに回転させ、本体内蔵の液晶モニタをご使用下さい。

手動切換え

十字コントローラーの＜ ▶ ＞で次の画像に進みます。
十字コントローラーの＜ ◀ ＞で前の画像に戻ります。

メ モ

- 手動切換えをやめても、設定された表示間隔の時間が経つと、自動的に次の画像に進みスライドショーを続けます。表示間隔の初期設定は 2 秒ですが、変更したい場合は、**P.95**「スライドショーの設定を変更する」をご覧ください。

スライドショーの停止／一時停止

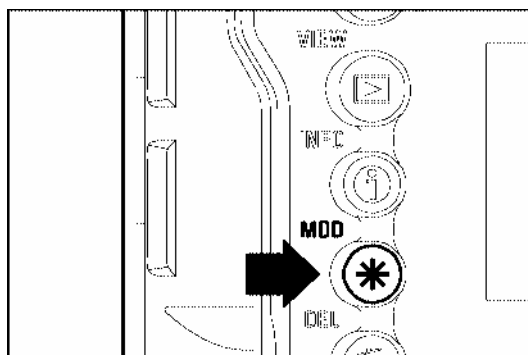
< ✕ **CANCEL** >ボタンを押すとスライドショーを停止して、直前に使用していた再生モード（1 画像再生、コンタクトシート表示など）に戻ります。

- スライドショーを停止すると、現在選択されている画像が表示されます。

スライドショーの再開

1

<✳ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

2

十字コントローラーの<◀ / ▶>でスライドショーメニューを選択します。

3

まだ選択されていなければ、十字コントローラーの<▲/▼>で「**再開**」を選択します。

4

<✔ **OK**>ボタンを押すとスライドショーを再開します。

- 停止した画像の次の画像から再開します。

メ モ

- 最後の画像が表示され自動的に停止した場合は、再開することは出来ません（**P.95** のスライドショーの繰り返し設定を参照）
- <☰ **MENU**>、<▶ **VIEW**>、シャッターの各ボタンを押すとスライドショーは停止します。この場合はスライドショーを再開することは出来ません。

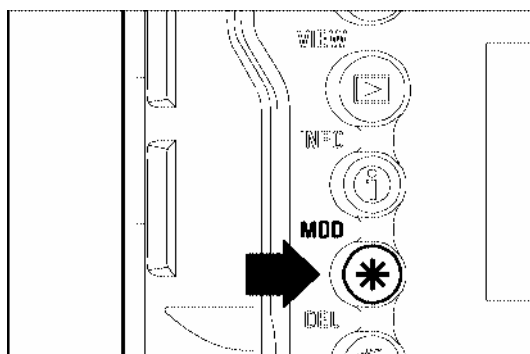
スライドショーの設定を変更する

画像を表示する時間の間隔や、繰り返すか否かの設定をすることができます。

設定	項目	設定内容
表示間隔	**2** 秒（初期設定）、**5** 秒、 **10** 秒、マニュアル	画像が表示される時間を設定します。（「マニュアル」に設定するとボタンを押さない限り、画像は切り替わりません。）
繰り返し	はい（初期設定）、いいえ	スライドショーを繰り返すか、自動終了するかを設定します。

1

<✳ **MOD**>ボタンを押してモディファイメニューを開きます。

2

十字コントローラーの<◀／▶>でスライドショーメニューを選択します。

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「**設定**」を選択します。

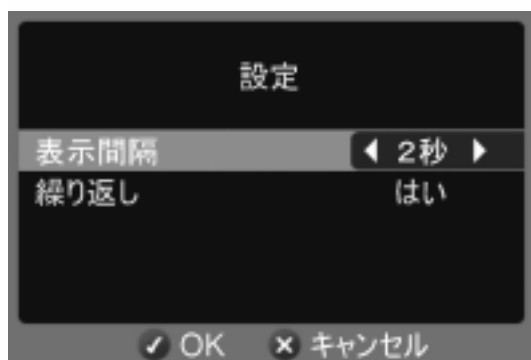
4

<✓ **OK**>ボタンを押してスライドショー設定ページを開きます。

5

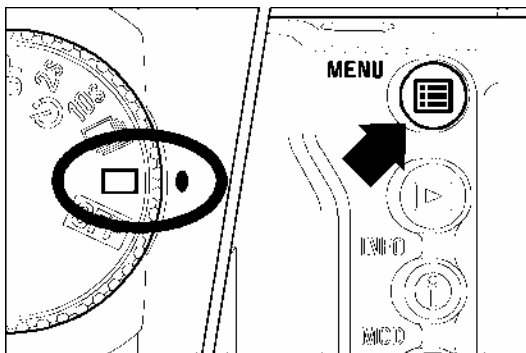
十字コントローラーの<▲/▼>で設定を、<◀／▶>で設定項目を選択します。

6

全ての設定を完了したら、<✓ **OK**>ボタンを押して設定を保存しスライドショーメニューに戻ります。

カメラのセットアップメニュー

ここではカメラのセットアップメニューについて説明します。

カメラのセットアップメニューの使い方

セットアップメニューには 2 種類の項目があります。1 つはダイアログ画面を開くもの、もう１つは設定項目をサブメニューでリスト表示するものです。

セットアップメニューの開き方

本体背面の<☰ **MENU**>ボタンを押します。

- 再度<☰ **MENU**>ボタンを押すと、セットアップメニューが閉じ液晶モニタが消灯します。

セットアップメニューでは：

- 十字コントローラーの<▲/▼>でメニュー項目を選択します。
- 十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンでサブメニューかダイアログが開きます。

セットアップサブメニューでは：

- 十字コントローラーの<▲/▼>で設定項目を選択します。
- 十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンで新しい設定にします。
- 十字コントローラーの<◀>か<✖ **CANCEL**>ボタンで変更せずにメニューを閉じます。

メニューリスト

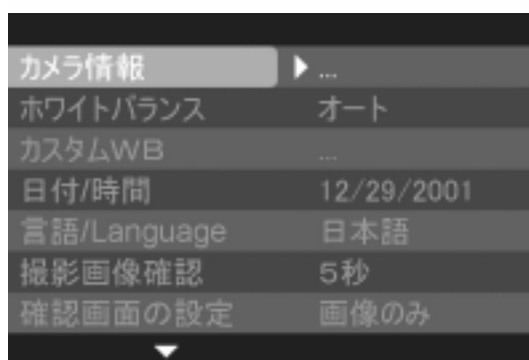
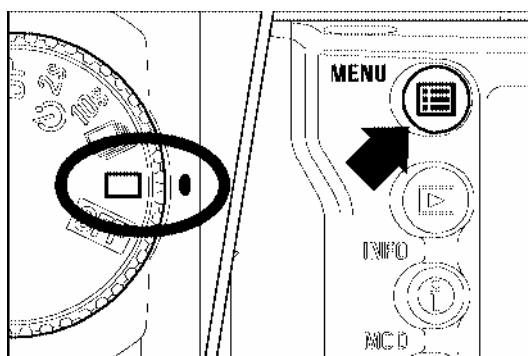
項目	オプション	設定内容	頁
カメラ情報	[ダイアログ]	カメラ情報のページを開きます。（情報ページではカメラの設定状態や CF カードの使用状況などが確認できます。）	**99**
ホワイトバランス	オート＊ 晴れ 日陰 くもり 白熱電球 蛍光灯 フラッシュ カスタム	撮影時の光源の種類に応じて、ホワイトバランスのモードを選択します。	**49~52**
カスタム **WB**	[ダイアログ]	カスタムホワイトバランス設定に使用する画像を取り込みます。	**51,52**
日付/時間	[ダイアログ]	画像データに記録される日付と時間を設定します。	**26**
言語	英語＊ 日本語 ドイツ語 フランス語	メニューやメッセージで表示される言語を選択します。	**25**
撮影画像確認	切 2 秒＊ 5 秒 10 秒 ホールド	撮影後、液晶モニタに自動的に表示される確認画像の表示時間を設定します。	**63,64**
確認画面の設定	画像のみ＊ 情報画面	確認画像に表示される情報の種類を設定します。	**65**
露出警告	入＊ 切	再生画像に露出オーバーの警告を表示するか否かを設定します。	**75**
画像情報	撮影情報＊ 日付／時間	画像ごとに表示される情報欄の表示内容を設定します。	**—**
OK ボタン設定	未設定＊ ロック／解除 マーク／解除 回転 ↷ 回転 ↶ 露出警告	＜✔ **OK**＞ボタンに割り振る機能を設定します。	**90,91**

CF カードの初期化	[ダイアログ]	CF カードを初期化します。 （CF カード内の全てのデータを消します。）	**29**
ファイル番号	通し番号* オートリセット	新しい CF カードをカメラに入れたとき、もしくはＣＦカードを初期化した後などの、ファイル番号の付き方の設定です。	**30**
液晶の明るさ	暗く 標準* 明るく	液晶モニタのバックライトの明るさを設定します。（画像データには影響しません。）	—
液晶のコントラスト	高 標準* 低	液晶モニタのコントラストを設定します。（画像データには影響しません。）	—
LCD スリープ	30 秒＊ 1 分 2 分 5 分 10 分 15 分 30 分 切	操作をしない時に、自動的に液晶モニタが消灯するまでの時間を設定します。 （切）は自動的に消灯しなくなる設定です。	**107,108**
オートパワーオフ	10 秒 30 秒＊ 1 分 5 分 切	操作をしない時に、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。 （切）は自動的に電源が切れなくなる設定です。	**107,108**
作動音	長 短* 切	ボタンが正常に押されたことを知らせる音の長さを設定します。 （この設定はピントが合ったときに鳴る電子音とは異なります。電子音を設定するには **P.36** をご覧ください。）	—
ビデオ出力	NTSC * PAL	カメラを TV やビデオにつないだときのビデオ出力方式を設定します。ご使用の地域に合った方式に切換えます。	**76**
設定の初期化	[ダイアログ]	全ての設定を初期設定に戻します。 （言語は英語に設定されます。）	—

＊は初期設定の項目を示しています。項目によっては、販売国で設定が異なることがあります。

カメラ情報ページ

カメラ情報ページでは、撮影設定（ISO、記録画素数、ホワイトバランスなど）と CF カード情報が一覧で表示されます。

カメラ情報	▶ ...
ホワイトバランス	オート
カスタムWB	...
日付/時間	12/29/2001
言語/Language	日本語
撮影画像確認	5秒
確認画面の設定	画像のみ

カメラ情報ページの見方

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の<☰ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で「カメラ情報」を選択します。

4

十字コントローラーの<▶>か<✔ **OK**>ボタンを押してカメラ情報ページを開きます。

5

見終わったら、<✔ **OK**>ボタンを押してカメラ情報ページを閉じます。情報ページを閉じるとメインメニューに戻ります。

参考資料

カメラのスペックなどを説明します。

別売アクセサリー

リモートコントローラー RS-21

シャッターを離れた所から切ることができる、ワイヤレスのリモコンです。シャッターが切れるタイミングを 2 段階で設定する機能、他の SA、SD カメラの誤作動を防止できるチャンネル設定の機能を備えています。（詳しくは **P.58** をご覧ください。）

パワーパック SD

縦位置グリップとしても使用できるバッテリーパックです。リチウム電池 CR-V3 を 4 本、もしくは単 3 型電池を 8 本使用し、撮影可能回数を約 2 倍に伸ばすことができます（撮影の設定や使用電池を同一条件で比較した場合）。また、縦位置用レリーズボタンが装備されていますので、縦位置でも安定したホールディングで撮影することができます。

エレクトロニックフラッシュ EF-500 DG SUPER SA

最大ガイドナンバー50（ISO100・m）の大光量オートズームフラッシュです。S-TTL 方式による自動調光撮影や、マルチ発光撮影などの多彩なフラッシュ撮影が可能となります。（詳しくは **P.61** をご覧ください。）

エレクトロニックフラッシュ EF-500 DG ST SA

最大ガイドナンバー50（ISO100・m）の大光量オートズームフラッシュです。S-TTL 方式による自動調光撮影により、気軽にキレイなフラッシュ撮影が可能となります。EF-500 DG SUPER SA 同様、オートズーム機能や、バウンスヘッド機能を備えています。（詳しくは **P.61** をご覧ください。）

PC シンクロターミナルアダプターST-11

シンクロコード接続のフラッシュを使用することができます。スタジオ撮影等に便利なアクセサリーです。（詳しくは **P.62** をご覧ください。）

ケーブルレリーズスイッチ CR-11

カメラ本体のレリーズソケットに接続して、カメラに触れずにシャッターを切ることができます。ミラーアップ撮影や、超望遠レンズを使用する場合など、少しでもブレを軽減したいときに効力を発揮します。（カメラのレリーズソケットに接続して使用します。半押し機能はありませんので、露出はカメラのシャッターボタンを半押しして確認して下さい。ピント合わせはマニュアルでご使用下さい。）

視度補正レンズ

カメラ内蔵の視度補正機能で補正しきれない場合は、視度補正レンズをファインダーに取り付けることにより、補正幅を広げることができます。-4 から+3 まで、7 種類のレンズを用意しています。

お手入れについて

■ ダストプロテクターの清掃は、市販のブロワーでホコリを吹き飛ばすだけにして下さい。ブロワーブラシのブラシの部分はキズが付きますので使わないで下さい。万一、ダストプロテクターのガラス部分にに指紋などがついてしまった場合は、市販のブロワーでホコリを吹き飛ばしたあとに、柔らかい清潔な布で軽く拭いて下さい。また、ダストプロテクターは非常に薄くできています。拭きとりの際に、力を入れすぎると破損する恐れがありますのでご注意下さい。

■ ボディやレンズのお手入れにシンナーやベンジンなどの有機溶剤は表面の仕上げをいためますので絶対に使用しないで下さい。ボディやレンズの鏡筒部は柔らかい清潔な布で軽く拭いて下さい。レンズ面についたほこり等は市販のブロワーで軽く吹き飛ばす程度にし、指紋などがついてしまった場合は市販のレンズクリーナーを使用して慎重に拭きとって下さい。

■ 注油の必要はありません。注油は逆効果の恐れがありますので絶対にしないで下さい。

■ 液晶モニタにほこりやゴミ等が付着した場合は、市販のブロワーで吹き飛ばして下さい。汚れがひどいときは柔らかい清潔な布で軽く拭いて下さい。

撮像素子のクリーニングについて

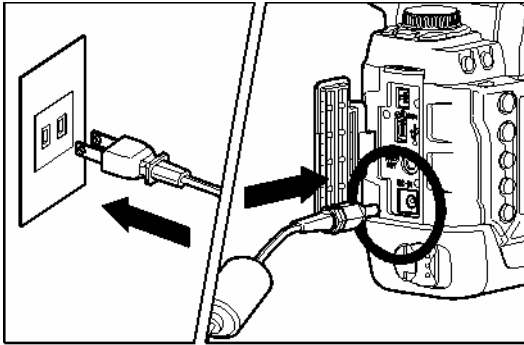
SD9 はボディ内部にホコリの侵入を防ぐために、ダストプロテクターを装備していますが、まれに撮像素子にホコリが付着し、撮影画面に写り込むことがあります。その場合は、以下の要領で撮像素子のクリーニングを行って下さい。

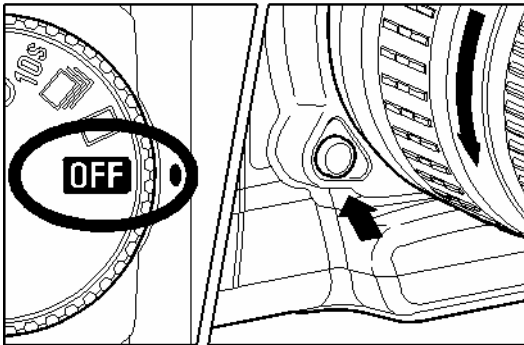
- 非常に慎重な作業が必要になりますので、極力、弊社営業所にクリーニングをお申し付け下さい。

警 告 !!

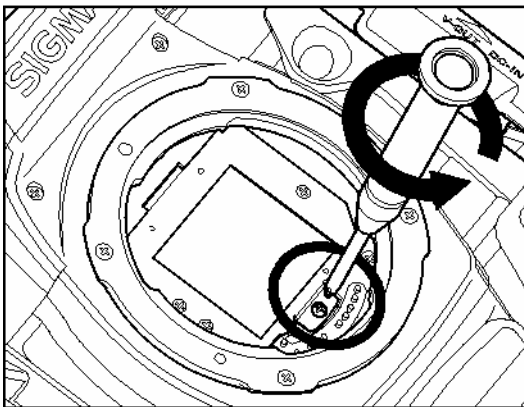
- 撮像素子はカメラの心臓部ともいえる重要な部分です。最善の注意をはらって作業をして下さい。
- スプレー式のエアクリーナーは使用しないで下さい。噴射する角度によっては液体が噴き出し、撮像素子を傷める可能性があります。

○ 撮像素子のクリーニングには、以下の用具をご用意下さい。

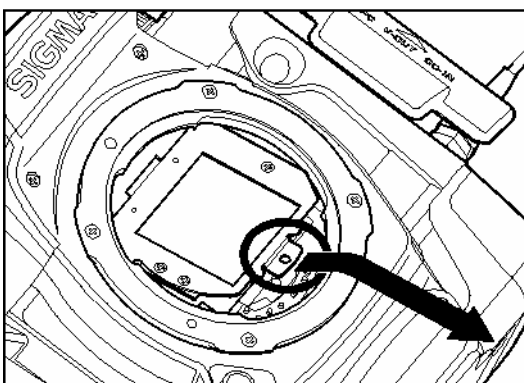
- プラスの精密ドライバー
- ブロワー（ブラシのついていないものを使用して下さい。ブラシ付のものは撮像素子にキズをつける恐れがあります。）

1

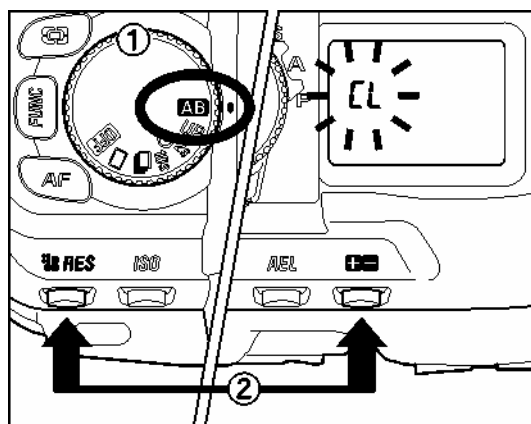
CF カードをあらかじめ取り外しておきます。
CF カードが入いったままだとクリーニングモードにセットできません。

AC アダプターをカメラとコンセントに接続し、家庭用電源でカメラを作動できる状態にします。（**P.22** 参照）

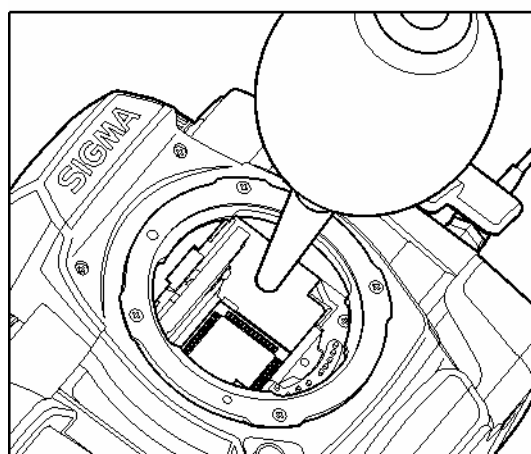
3

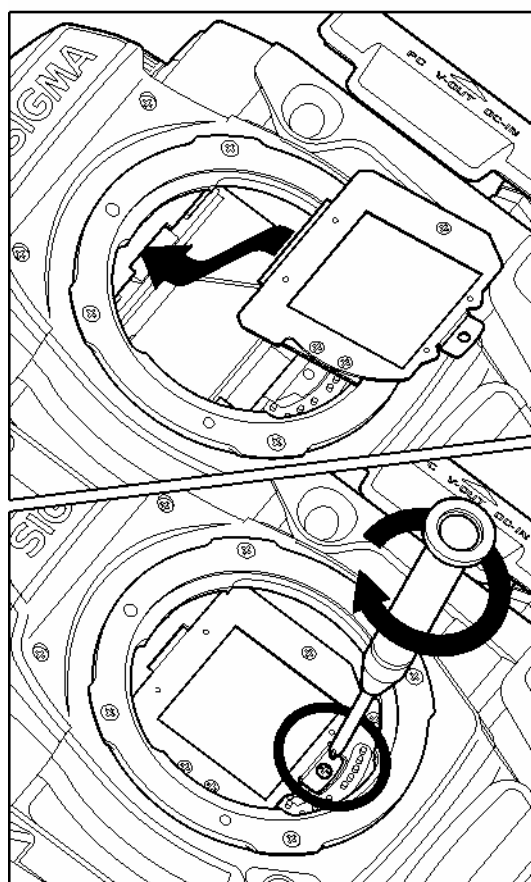
D ダイヤルを OFF にし、レンズを外します。

4

ダストプロテクターを固定しているビスをプラスの精密ドライバーでゆるめ、取り除きます。（外したビスがミラーボックス内に落ちないように十分注意して下さい。）

固定ビスは図で示している１個所のみです。他のビスは絶対に外さないで下さい。

5

ダストプロテクターの図に示す部分をつまみ、矢印の方向に引き抜きます。（ガラス部分に触れないように注意して下さい。）

6

D ダイヤルを AB にセットし、**RES** と +− ボタンを同時に押します。
（表示パネルに **CL** と点滅表示されます。そのまま約3 秒間押し続けるとシャッターが開き、撮像素子が見える状態になります。）

7

ブロワーで慎重に撮像素子のホコリを吹き飛ばして下さい。
ブロワーの先がマウント面より内側に入り込まない位置で作業して下さい。万一、電源が切れてしまった場合、シャッター幕やミラーが作動し、ブロワーの先が接触すると、カメラガ破損する恐れがあります。

8

D ダイヤルを OFF に戻し、ダストプロテクターのガラス部分にホコリが付いていないことを確認し、図のようにはめ込み、ビス止めして固定します。

上記の手順でホコリが取りきれない場合は弊社営業所にご相談下さい。
万一、ダストプロテクターのガラス部分に指紋が付いてしまった場合は、ブロワーでほこりを吹き飛ばした後に、柔らかい清潔な布で軽く拭いて下さい。

基本用語の解説

AE
Auto Exposure の略で、カメラに内蔵された露出計の値をもとに、自動的に最適な露出（シャッター速度と絞り値の組み合わせ）が決定されます。

AE ロック
AE モードのまま露出を固定する方法です。例えば被写体を画面の中央から外れた構図にしたい場合、一旦被写体を中央に置いて測光値を固定すれば、構図を変えてもバックの明るさに影響されません。（このカメラでは AE ロックボタンを使用します。）

AF
Auto Focus の略で、カメラに内蔵されたセンサーによって、自動的にピントを合わせる機能です。

AF ロック
AF モードのままピントを固定する方法です。例えば被写体を画面の中央から外れた構図にしたい場合、一旦被写体を中央に置いてピントを固定すれば、構図を変えてピントがずれません。（このカメラではシャッターボタンの半押しを利用します。）

CF（コンパクトフラッシュ）カード
小型のフラッシュメモリーカードで、比較的大容量のものが用意されています。（このカメラでは撮影画像の記録に使用します。）

CMOS
Complementary Metal Oxide Semiconductor（相補性金属酸化膜半導体）の略で、画素数分のフォトダイオード、増幅装置、ワイヤーからなる撮像素子です。CMOS センサーのメリットは、1 画素ごとに電気信号を増幅し取り出せる構造になっており、応答速度に優れ、消費電力が少ないことがあげられます。

EV
Exposer Value の略で露光量を表す単位で、被写体の明るさとフィルムの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。フィルムに与えられる光量が２倍になると EV 値は＋１、半分になると EV 値は－１変化します。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じて EV 値が使われます。

ISO 感度
ISO（国際標準機構）感度として表記されている、フィルムの光に対する感度の強さを示す数値です。ISO 感度は数値が大きくなるほど光に対する感度が強くなります。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じて ISO 感度が使われます。

JPEG
Joint Photographic Experts Group の略です。カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を復元したときの画像は劣化します。

NTSC (National Television Standards Committee)
アメリカや日本などが採用している地上波アナログカラーテレビ放送の映像信号方式。アナログ・コンポジット方式ともいう。仕様を作成したアメリカの標準化委員会（National Television Standards Committee）の略称がそのまま方式名になっている。
水平方向の走査線数が 525 本で 1 秒間に 30 フレームで構成されてる。

PAL (Phase Alternation by Line)
旧西ドイツで開発され、フランス以外の西ヨーロッパ諸国をはじめ、中国などのアジア諸国やアフリカなどで採用されている地上波アナログカラーテレビ放送の映像信号方式。
水平方向の走査線数が 625 本で毎秒 25 フレームで構成されている。

RAW
撮像素子からの情報を特別な演算処理を加えず、コンピューター上での画像処理を前提としたデータ形式です。画像の劣化しない方式で圧縮されたデータを専用ソフトで解凍、画像処理ができますので、高画質を保ったまま補正を加えることが可能です。

色温度
光源から出る光の色合いを、温度を表わすケルビン（K）という単位を使って数字で表わしたもの。基準となる太陽光は 5600 K 付近となり、色温度が低いと赤味が強い光となり、高いと青味が強い光となります。ちなみにタングステン光は 3200 K 程度、コンピューターのディスプレイは 9300 K 程度に設定されています。

オートパワーオフ機能
ムダな電力消費を防ぐため、一定の時間カメラを操作せずに放置すると、自動的に電源を OFF にする機能です。

絞り値
撮像素子に当たる光の量をレンズ内の絞り羽根を開けたり閉じたりして調整しますが、この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り値と言います。数値が小さいほど明るく、大きくなるほど暗くなります。

シャッター速度
撮像素子に当たる光の量をカメラのシャッターの開いている時間で調整しますが、このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度と言います。

ヒストグラム (histogram)

一般的には分布図のことだが、画像用語としては画像の明るさの分布を表わしたもの。水平軸は明るさのレベルを表し、垂直軸が各明るさでの画素の登場回数を表わしている。
SD9、および SIGMA Photo Pro のヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。

ホワイトバランス

人間の目は照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整されます。デジタルカメラは、白いものが白く写るように照明光の色に合わせた調整が必要です。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

マイクロドライブ (Microdrive)

IBM 社が開発した CF+ TypeII に準拠している超小型ハードディスク。マイクロドライブは磁気ディスクであるため、1GB クラスの容量ならばフラッシュメモリーを使用している CF カードより大幅に安価である。内蔵のモーターでディスクを回転させ、データの読み書きを行なうため、CF カードよりに比べて消費電力が多めではあるが、記録画素の増大でより容量の大きな記憶媒体を必要とするデジタルカメラの上位機種などで、対応可能なものが多い。

露出

撮影するために撮像素子に当てる光の量を露出といいます。また、撮像素子の感度に合わせて適切な光量を当てることを適正露出と言います。露出は、「絞り値」と「シャッター速度」の組み合わせで調整します。

LCD スリープとオートパワーオフ

SD9 は電池の消耗を抑えるために、ある一定の時間操作しない状態が続くと、自動的に電源が OFF になります。電源が OFF になるまでの時間は、セットアップメニューの「**LCD** スリープ」と「オートパワーオフ」の設定で変更することができます。

LCD スリープとは

ある一定の時間操作しない状態が続いたとき、電池の消耗を抑えるため、自動的に液晶モニタの表示を OFF にします。LCD スリープ中は、カメラの電源は ON の状態ですので、＜ **MENU**＞ボタン、および＜▶ **VIEW**＞ボタンによる操作で、液晶モニタの表示が ON になります。シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

オートパワーオフとは

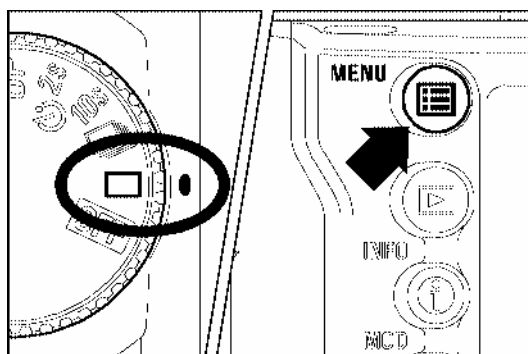
LCD スリープ中にも操作が行われなかったときに、より電池の消耗を抑えるため、自動的にカメラの電源を OFF にします。オートパワーオフ中は、＜ **MENU**＞ボタン、および＜▶ **VIEW**＞ボタンは機能しません。シャッターボタンを半押しして、カメラの電源を ON にする必要があります。LCD スリープ時同様、シャッターボタンの半押しで、すぐに撮影を始めることができます。

メ モ

- 実際に電源が OFF になる時間は「**LCD** スリープ」と「オートパワーオフ」の設定時間の合計となります。例えば「**LCD** スリープ」を 2 分、「オートパワーオフ」を 5 分と設定すると、始めの 2 分で液晶モニタが消え、次の 5 分で電源が OFF となります。

ご注意 !!

- 「**LCD** スリープ」の設定を「切」にすると「オートパワーオフ」の設定時間は無視され、電源が切れません。
- 「オートパワーオフ」の設定を「切」にすると「**LCD** スリープ」で設定した時間になると液晶モニタが消えますが、それ以降は電源が切れない状態が続きます。
- オートパワーオフで電源が OFF になっている状態では、D ダイヤルを **OFF** にしたときと異なり、微小ながら電気が流れています。不用意にシャッターボタンに触れるとシャッターが切れてしまいますので、ご使用にならない時は D ダイヤルを **OFF** にして下さい。

▲	
液晶の明るさ	標準
液晶のコントラスト	標準
LCDスリープ	2分
オートパワーオフ	▶ 5分
作動音	切
ビデオ出力	NTSC
設定の初期化	...

オートパワーオフの設定

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面にある<☰ **MENU**>ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.96** 参照）

3

十字コントローラーの<▲/▼>で、「オートパワーオフ」を選択します。

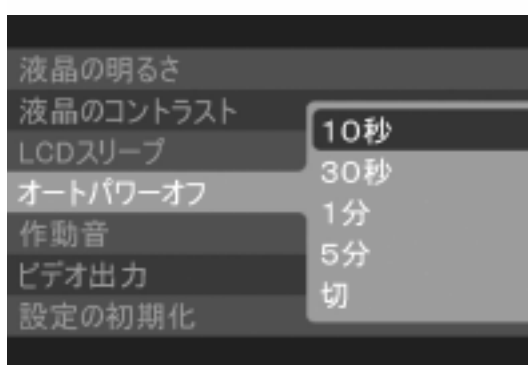
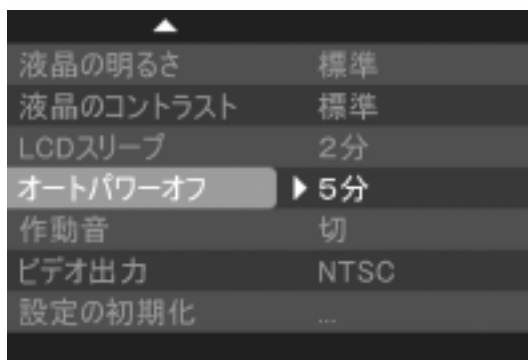
4

十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを押してサブメニューを開きます。

5

十字コントローラーの<▲/▼>で設定したい時間を選択します。

6

選択した内容で設定する場合は十字コントローラーの<▶>か<✓ **OK**>ボタンを、しない場合は<◀>か<✕ **CANCEL**>ボタンを押して下さい。

メ モ

- サブメニューで「**切**」を選択すると、自動で電源が切れません。
- LCD スリープの設定は、上記手順同様に、セットアップメニューの「**LCD** スリープ」を選択し、サブメニューで希望の時間を設定して下さい。

警告表示と対処について

表示パネルの警告表示

電池マークが一部消灯している

電池の残り容量が残り少ない。
▶新しい電池をご用意下さい。

電池マークが点滅する

電池の残り容量が殆どない。
▶新しい電池と交換して下さい。（**P.19~21**）

何らかの理由で誤動作した。
▶一旦電池を取り出して、再度電池を入れ直して下さい。（**P.19~21**）

露出が点滅する

露出制御の連動範囲を超えている。
▶点滅が消えるように露出を調整して下さい。（**P.37~40**）

カウンターに - - - と表示される

CF カードが入っていない。
▶CF カードを入れて下さい。（**P.27**）

カウンターが 999 から変わらない

残撮影可能枚数が 999 枚以上ある。
▶問題ありません。998 枚以下になると変化します。（**P.32**）

シャッター速度が FuL に、カウンターが 0 と表示され点滅する

CF カードの残り容量がない。
▶新しい CF カードを入れるか、要らない画像を消去して容量を空けて下さい。（**P.77~79**）

シャッター速度が - と表示されアニメーションし、カウンターが点滅する

処理中（ビジー状態）。
▶問題ありません。処理が終わるまでお待ち下さい。（**P.33**）

シャッター速度が Err と表示される

何らかの異常が起きています。
▶電源を一度切って再度入れ直して下さい。
それでも表示が消えない場合は、最寄りの販売店に修理をご依頼下さい。

カウンターが Err と表示される

CF カードの異常です。

▶ CF カードを交換して下さい。（**P.19~21**）

液晶モニタのメッセージ

“ CF カードがありません ”

▶ CF カードを入れて下さい。（**P.27**）

“ 認識できないファイルです。CF カードをフォーマットして下さい。 ”

▶ CF カードをフォーマットするか、既にフォーマットされている CF カードを入れて下さい。（**P.29**）

“ 容量がいっぱいです ”

▶新しい CF カードを入れるか、要らない画像を消去して容量を空けて下さい。（**P.77~79**）

“ 画像がありません ”

▶問題ありません。再生できる画像が 1 枚も撮影されていない状態です。

▶画像が入った適正にフォーマットされた CF カードを入れて下さい。

“ 記録できません ”

▶いったん電源を OFF にします。再度電源を入れ、**VIEW** ボタンを押して CF カードが壊れていないか確認して下さい。問題が解決しなければ、弊社営業所にご相談下さい。

“ エラーコード＊＊＊ ” （＊＊＊は番号が表示されます）

▶いったん電源を OFF にします。再度電源を入れ、問題が解決しなければ、弊社営業所にご相談下さい。

“ CF カードカバーが開いています!… ”

▶CF カードドアを開くと警告します。電源を OFF にして、アクセスランプが完全に消灯してから CF カードドアを開けて下さい。

故障かな？と思う前に

カメラの調子が悪かったり写真がうまく写らなかった場合、故障と思われる前に次の点を確認して下さい。

表示パネルになんの表示も出ない。

電池が消耗している。
　▶新しい電池と交換して下さい。（**P.19~21**）
電池の向きが正しくない。
　▶正しい向きに入れ直して下さい。（**P.19~21**）

シャッターが切れない。

D ダイヤルがドライブエリア以外にセットされている。
　▶ドライブエリア内で撮影して下さい。（**P.46**）
合焦表示が点灯していない。（シングル AF モード時）
　▶ピントを合わせる位置を変えるか、手動でピントを合わせて下さい。（**P.43~45**）
CF カードが入っていない。
　▶ CF カードを入れて下さい。（**P.27**）
データ処理中（ビジー状態）になっている。
　▶処理が終わるまでお待ち下さい。（**P.33**）
CF カードの使用容量がいっぱいになっている。
　▶新しい CF カードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けて下さい。（**P.77~79**）

オートフォーカスが動かない。

レンズのフォーカスモードスイッチが M になっている。
　▶レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にして下さい。（**P.43**）
レンズがきちんと取り付けられていない。
　▶正しくレンズを取り付けて下さい。（**P.23,24**）

電源が勝手に切れる。

オートパワーオフが働いている。
　▶セットアップメニューでオートパワーオフの設定を「切」にして下さい。（**P.96,98**）

撮影・記録ができない。

CF カードが正しくセットされていない。
　▶CF カードを正しく入れて下さい。（**P.27**）
CF カードの使用容量がいっぱいになっている。
　▶新しい CF カードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けて下さい。（**P.77~79**）

電池が消耗している。
▶新しい電池と交換して下さい。（**P.19~21**）
ピントが合っていない。
▶もう一度ピントを合わせ直すか、手動で合わせて下さい。（**P.43~45**）

液晶モニタの表示・画像が不鮮明になる。

ゴミや汚れが付いている。
▶ブロワーで吹き飛ばしたり、柔らかい清潔な布で拭き取って下さい。（**P.101**）
液晶が消耗している。
▶お買い上げの販売店もしくは弊社営業所にご相談下さい。

画像がボケて写っている。

レンズのフォーカスモードスイッチが **M** になっている。
▶レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にして下さい。（**P.43**）
手ブレをおこしている。
▶シャッターボタンを静かに押すか、三脚等を利用してカメラを固定して撮影して下さい。

CF カードが使えない。

CF カードのデータが壊れている。
▶CF カードを初期化して下さい。（**P.29**）

画像を消去できない。

画像にロックがかかっている。
▶ロックを解除して下さい。（**P.82~84**）

撮影年月日・時間が正しく表示されない。

日付・時間が正しく設定されていない。
▶日付・時間を正しく設定して下さい。（**P.26**）

テレビに画像が出ない。

ビデオケーブルがしっかりと差し込まれていない。
▶ビデオケーブルを根元までしっかりと差し込んで下さい。

主な仕様

形式	レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
記録媒体	CF カード（Type I ／ II）、マイクロドライブ対応
撮像素子サイズ	20.7 x 13.8 mm
レンズマウント	シグマ SA バヨネットマウント
実撮影画角	レンズ表記の約 1.7 倍の焦点距離に相当（35mm カメラ換算）
使用レンズ	シグマ SA マウントレンズ群
撮像素子	FOVEON® X3™（C-MOS）
カラーフォトディテクター	1029 万個（2268 x 1512 x 3 層）
画素数	有効画素数：約 343 万画素 X3™フルカラーピクセル 総画素数：約 354 万画素 X3™フルカラーピクセル
アスペクト比	3：2
記録方式	ロスレス圧縮 RAW（12-bit）
記録画素数 （ファイルサイズ）	HI：2268 x 1512 画素（約 8MB）、MED：1512 x 1008 画素（約 4MB） LOW：1134 x 756 画素（約 2MB）
インターフェイス	IEEE1394、USB 1.1、ビデオ出力（NTSC／PAL 切替可）
ホワイトバランス	8 種（オート、晴れ、日陰、曇り、白熱電球、蛍光灯、フラッシュ、カスタムホワイトバランス）
ファインダー	ペンタプリズム式一眼レフファインダー
ファインダー視野率	縦 97%、横 98%
ファインダー倍率	0.77 倍（50mm F1.4、∞）
アイポイント	18mm
視度補正範囲	－3dpt ～＋1dpt
オートフォーカス	TTL 位相差検出方式
AF 検出範囲	EV 2～18（ISO100）
フォーカスモード	AF-S（シングル）、AF-C（連続、動体予測機能付）
測光方式	8 分割式評価測光、中央部分測光、中央部重点平均測光
測光範囲	EV 1～20（50mm F1.4、ISO100）
露出モード	**P** プログラム AE、**A** 絞り優先 AE、**S** シャッター速度優先 AE、 **M** マニュアル露出
ISO 感度	ISO 100、200、400 相当
露出補正	±3EV（1／2 ステップ）
AE ロック	押しボタン式
オートブラケット	±3EV（1／2 ステップ、適正→アンダー→オーバー）
シャッター	全速度電子制御式縦走行方式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	ISO100 時 1/6000～15 秒･バルブ（15 秒まで）、 ISO200､400 時 1/6000～1 秒、　フラッシュ同調速度 1/180 秒
連続撮影速度 （最大連続撮影数）	**HI** 約 1.9 コマ／秒（6 コマ）、**MED** 約 2.4 コマ／秒（14 コマ）、 **LOW** 約 2.5 コマ／秒（30 コマ）

外部フラッシュシンクロ	ホットシュー（X 接点、専用フラッシュ連動接点付）
液晶モニタ	1.8 型低温ポリシリコン TFT カラー液晶モニタ、約 13 万画素、 視野率 100%、白色 LED バックライト付
画像再生	1 画像再生、9 画像サムネイル表示、拡大再生、スライドショー
液晶モニタ表示言語	日本語／英語／フランス語／ドイツ語
電源	CR123A（DL123A）タイプ 2 本。 CR-V3 タイプ 2 本、単 3 形アルカリ乾電池 4 本、単 3 形ニッケル水素電池 4 本、単 3 形ニッケル乾電池 4 本のいずれか。 専用 AC アダプター使用により AC 駆動可能。
大きさ	152 mm（幅）x 120 mm（高さ）x 79 mm（奥行）
質量	805ｇ（電池除く）

コンピューターとの接続について

CF カードに記録された画像は､SD9 をコンピューターに接続して転送することができます。接続は USB もしくは IEEE1394 (FireWire™)のどちらかを選択できます。画像データの転送速度はコンピューターの性能やオペレーションシステムにより変わります。また、USB 接続に比べ、IEEE1394 (FireWire™)が数倍速い転送速度が得られます。
コンピューターとの接続方法の詳細は、同梱の **SIGMA Photo Pro** Disk 内の **SIGMA Photo Pro** 使用説明書（PDF ファイル）をご覧下さい。

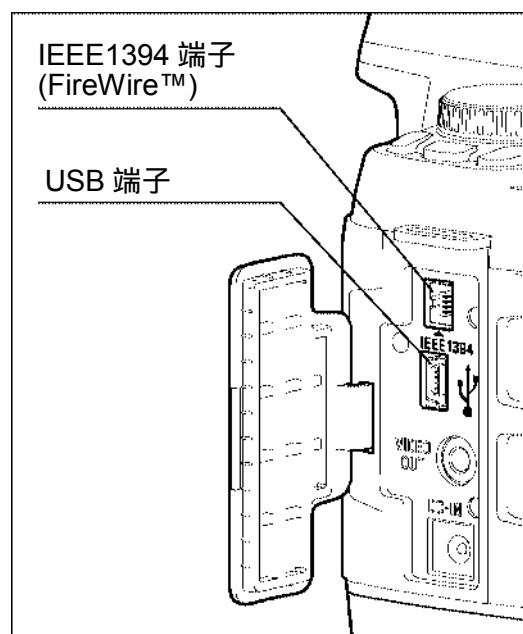
接続に関するご注意

● カメラとコンピューターをケーブルで接続する前に、カメラの電源を **OFF** にして下さい。

USB 接続

● 付属の USB ケーブルでカメラとコンピューターを接続して下さい。
● USB 接続中は、カメラのシャッターボタンと液晶モニタは使用できません。
● USB 接続中に、操作をせずに 15 分後たつと、カメラの電源が切れ、画像の転送ができなくなります。

IEEE 1394 (FireWire™) 接続

付属の IEEE1394 (FireWire™) ケーブルでカメラとコンピューターを接続して下さい。

警 告 !!

● コンピューターとの接続には、付属の専用ケーブル以外は使用しないで下さい。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。